緒言

樺太民政署ノ開始ハ明治三十八年八月廿八日ニシテ夫レ迄ハ軍政署ヲ各所ニ置キ二三ノ將校ヲシテ兼任シ民政ニ関スル事務ヲ施行セリ当時民政署ノ本署ハアレキサンドルニ支署ハコルサコフニ置カレタリ（軍令第一号参照）而シテ講和談判ノ結果トシテ端ナクモコルサコフニ本署ノ移轉ヲ見又民政施行区域モ当初ハコルサコフ、「ポロアントマリ」、「ペルワヤパーゲ」及其附近ニ止メラレシガ（軍令第二号参照）漸次軍政署ヨリ引継ヲ受ケ其範圍ヲ擴張シ既ニ九月十四日ニ至リ在来ノ民政施行区域ノ外即チ第一、第二、第三及第四假軍政署管内ニ純然タル民政ヲ布カルヽコトヽナリ尚ホコルサコフ支署ノ外「ウラヂミロフカ」ニ民政支署ヲ置キ「ガルキノウラスコエ」ニ「ウラジミロフカ」支署出張所「ルウタカ」ニコルサコフ支署出張所ヲ置カレ（告示第一号参照）尚ホ進ンデ十月廿五日「マウカ」ニ支署ヲ置カレ

タリ（第二十六号参照）而シテ各支署ノ管轄區域ハ九月廿二日告示第二号ニ詳ナレバ茲ニ省略ス

コハサコフ民政署始政当時ハ守備隊司令部背后ノ高地ニ在リテ露人ノ遺棄セル一小狹隘ノ家屋ナリキ当時民政署ハ露軍焼キ拂ヒノ后ヲ襲ギ偶々地方人民カ遺棄セル家屋ハ樺太軍之ヲ占領シ兵ノ宿舎ニ充テ殆ンド収容スベキ餘地ナキ時ニ投シタレバ如何トモ為ス能ハズ家屋ノ欠乏ハ情報ニ依リ知悉シタルヲ以テ臨時建築ノ許可ヲ受ケ其寛恪ヲ有シタレド如何セン急速ノ間ニ合ハズ司令部ニ交渉ノ結果僅カ十二三坪ノ家屋ヲ民政本署兼コハサコフ支署ト指定セラレ始テ二箇ノ標札ト国旗ヲ掲ノ之ヲ当初ノ民政署トス又其家屋ヲ以テ民政長官及事務官等ノ宿舎ト定メタレバ事務室應接所又坐臥飲食モ同一室ニシテ不便云ハン方ナク依テ準備ノ天幕ヲ数個張リ各事務所受付等ヲ設ケ一時ヲ凌キタリ其光景宛然大事場ニ彷彿セリ如フルニ以下別項ニ記載スル渙場入札ノ為メ渡航セシ者一時数千人ノ多キニ及ヒタレバ民政署ノ出入一層ニシテ其雑沓名状スベカラサルモノアリキ其他ノ民政署員ニ至テハ固ヨリ之ニ充ツベキ宿舎ナク一時天幕ニ露宿セシムルニ止ムナキニ至リ時宜モ晩秋ニ際會シ屢次暴風雨ノ襲フアリテ軍隊生活ノ困難ハ皆豫想外ノ感ヲ抱カサルモノナカリキ而シテ一面ニ民政署ハ各官ノ家屋新築又ハ修繕ニ全力ヲ傾注シ就中旧領事館ニ對スル高地ニ廳舎ノ新築ヲ急キ十月十五日竣成ヲ告ケ漸ク之ニ移リ始メテ官廳ノ体裁ヲ備ルニ至ル是即チ現下ハ民政署ナリ右建物ハ固ヨリ一時的内地風ノ構造ナレバ冬期煖炉ノ据付ケアルモ外気ヲ透シ硯池ノ水凍結シ執務者ヲシテ一層戦時ノ状態ヒムヲ得スヲ自覚セシメタリ而シテ署員

一同ノ各員宿舎ハ其后幸ニ樺太軍ノ編制改革ヲ見樺太ニハ僅ニ守備隊一個大隊ヲ駐屯セシメラルヽコトヽナリ他ノ部隊引揚ケタルハ地方人民ノ遺棄セル寒地適切ノ家屋ニ多少空屋ヲ生シ之ニ収容スルコトヲ得一家ニ多人數雑居ノ窮屈ハ免カレサリシモ防寒ノ点ハ聊カ満足シ難ヘラレタリ

樺太軍司令官及民政長官ノ権限

樺太民政署民政長官ノ権限ハ樺太軍司令官ニ隷属シ諸般ノ指揮ヲ受クルト雖モ司令官ハ占領地ニ於テ民政上必要ト認ムル事項ノ一部ヲ民政長官ニ委任スルコトヲ得（軍令第二三七八十四号参照）依テ実際ニ於テハ大概ノ事件ハ委任ノ権限ニ於テ民政長官専行ス畧ニハ第十三師團長原口中將ノ指揮ヲ受ケタレド講和談判ノ結果九月中旬同師團ヲ引揚ケ僅ニ守備隊ヲコルサコフニ残留スルニ至ルヤ山田兵站監ハ竹内旅團長ノ后ヲ襲ギ守備隊司令官ト爲リタルヲ以テ師團長ノ権限ハ自然守備隊司令官ニ移レリ今左ニ樺太守備軍司令部勤務令ト第十三師團長ヘ通牒案ヲ掲ケ権限ノ如何ヲ示ス

樺太守備軍司令部勤務令

一、樺太守備軍司令官ハ天皇ニ直隷シ樺太守備軍及ビ樺太民政署其他特ニ指定セラルル諸機関ヲ統御シ樺太ノ守備ニ任シ其民政ヲ監督シ且ノ経理衛生ノ事ヲ統督ス

二、樺太守備軍司令官ハ守備軍及隷属諸機関ノ爲ノ必要ナル兵站事務ヲ統理ス而シテ其事務ニ関シテハ兵站総監ノ區處ヲ受ク

三、樺太守備軍憲兵長ハ樺太ニ於ケル司法、警察及行政警察ニ関シテハ樺太民政署民政長官ノ指揮ヲ受クヘキモノトス

5-0398
0029
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

四、樺太守備軍軍醫部長ハ土地ノ景況ニ依リ樺太守備軍病院ノ定員内ノ人員ヲ以テ分院ヲ設クルコトヲ得此場合ニ於テハ其大小ニ應シ三等軍醫正若ハ一等軍醫ヲ以テ分院長ニ充ツ但シ隊附軍醫ヲ以テ分院長及分院ノ要員ヲ兼掌セシムルコトヲ得然ルトキハ之ヲ定員外トス

五、樺太守備軍獸医部長ハ樺太守備軍司令官ニ隷シ其職權及責任ニ関シテハ戰時高等司令部勤務令第十八章ヲ準用ス

六、以上ノ外樺太守備軍司令部ノ業務ニ関シテハ戰時高等司令部勤務令第二第六第八ヲ又兵站業務ニ関シテハ兵站ニ関スル一般ノ勤務令ヲ通用ス

附則

七、樺太民政署民政長官ハ樺太守備軍司令官ニ隷シ樺太ノ民政ヲ統轄シ其安寧秩序ヲ保持シ且ツ樺太ニ於ケル諸般ノ軍務ヲ幇助ス

八、樺太民政署民政長官ハ司法及行政警察業務ニ関シテハ樺太守備軍憲兵長ヲ指揮ス

九、樺太民政署民政長官及民政長ノ必要ト認ムル高等官ニシテ樺太守備軍司令官ノ認可シタルモノハ軍用電信ニ依リ通信スルヲ得

第十三師團長ノ通牒案

甲　人事取扱

一、民政署職員中判任官以上ノ者及奏任又ハ判任待遇ノ雇員ニ係ル人事ハ陸軍大臣ニ稟申スルコト

二、傭給ヲ以テ支弁スル雇員及豫算定額内ニ於テ採用スル囑託ハ第十三師團長ニ於テ命免スルコト

5-0398
0030
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

三、總テ職員ノ異動ハ戦時陸軍報告例ノ規定ニ從ヒ報告スルコト

乙 懲罰

四、民政署軍屬ノ懲罰ハ一般軍屬ノ例ニ依ル即チ免官處分ハ文官懲戒令ヲ通用シ其他ハ陸軍懲罰令ニ依ルコト

前項ノ場合ニ於テ判任官ノ免官處分ニ付キ文官懲戒令第二十九條ノ本屬長官ハ第十三師團長懲戒委員會陸軍省ノ懲戒委員會ト陸軍懲戒令ニ依ル懲罰ハ第十三師團長ニ於テ之ヲ行フコト

丙 民政署司法機関

五、民政署管轄区域内ニ在ル軍人軍屬及帝国臣民ノ刑事裁判ハ當該地ヲ管轄スル師團若ハ兵站軍法會議ニ於テ審判スルコト

六、民政署管轄区域内ニ在ル占領地人民ノ刑事處分ハ軍令即チ師團長ノ命令ヲ以テ民政署ニ其権限ヲ付與シ且之カ為別ニ司法機関ヲ設ケス民政署職員中法律ノ素養アルモノ若干ヲ委員トナシ裁判ヲ為サシムルコト

七、民政署管轄区域内ニ在ル在留外国人ノ犯罪及占領地人民ノ行為ニシテ鉄道電信ノ妨害間諜等軍事上特ニ有害ノ行為ハ當該地ヲ管轄スル軍法會議ノ職員ヲ以テ組織シタル一種ノ軍令裁判所（軍事法廷ノ如キモノヲ云フ）ノ審判ニ附スルコト

八、民政署管轄地域内ニ在ル占領地人民間ノ民事裁判ハ一ニ民政署ニ於テ第六項ニ準シ委員ヲ設ケ之ヲ管掌セシムルコト

九、軍令裁判所及民政署ニ於テ管掌スル刑罰ハ帝国刑法及陸海軍刑法並土地ノ規則慣例ヲ參酌シ軍令ヲ以テ通

5-0398
0031
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

当ノ規定ヲ以テ民政署ノ管掌スル民事事件ハ内国法及土地ノ規則慣習ヲ服従シテ通告ニ處分スルコト

十、第六、第七、第八及第九項ヲ實施スル為第十三師團長ニ於テ所要ノ規定ヲ設クルコト

丁　民政上第十三師團長ノ権限

十一、第十三師團長ハ占領地ニ於テ民政上必要ト認ムル凡テノ事項ヲ専行スルノ権ヲ有スルコト又其一部ヲ民政長官ニ委任スルモ差支ナキコト

戊　渡航商人ノ取締

十二、渡航商人取締ニ関シテハ民政署開始ノ上其意見ニ基キ決定スルコト尤迄ハ大連渡航規則ニ準據シ取締ルコト

己　民政署職員ノ給與

十三、民政署文官ハ各官等級相當ノ俸給額ニ戦時給與規則所定ノ増俸ヲ給シ雇員傭人ハ戦時給與細則第二十八條ニ依リ増給スルコト

一　民政署事務分課

當初民政署ハ長官々房、民政部及水産部ノ三部ニ分タル所十月三日事業部ノ一部ヲ置カル其分掌左ノ如シ

第一長官々房

一、機密ニ属スル事項

二、人事ニ関スル事項

三、官印ノ管守ニ関スル事項

四、文書ノ接受発送ニ関スル事項

五、豫算決算並會計ニ関スル事項

六、財政経済ノ調査ニ関スル事項

七、物品及借上船舶ノ使用ニ関スル事項

5-0398

0032

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第二 民政部

一、司法及行政警察ニ関スル事項
二、民事刑事ニ関スル事項
三、衛生ニ関スル事項
四、土地ノ使用及在来家屋ノ整理ニ関スル事項
五、其他他ノ諸部ニ属ス事項

第三 水産部

水産ニ関スル事項

第四 事業部

一、畜産ノ保護並蕃殖ニ関スル事項
二、道路ノ開設及修繕ニ関スル事項
三、建築修繕及設備ニ関スル事項
四、農業、林業、鑛業ニ関スル事項
五、土地ノ調査及測量ニ関スル事項

樺太民政署定員

民政署々員ノ編成ハ明治三十九年八月十二日成リ其旨ヲ陸軍大臣ニ報告ス水産部員ハ陸軍省告示第十五号ヲ以テ樺太島漁業假規則ヲ発布セラレタルニ依リ其事務ノ都合上水産部長松崎事務官其部員ヲ率ヒ八月十日コルサコフニ向ケ先発シ残リノ署員ハ民政長官之ヲ率ヒ仝月十七日亜歴山德ニ向ケ出発セリ当時ノ署員一覧表左ノ如シ

樺太民政署人員一覧表

職名	勅任	奏任	判任文官	高等文官	技手	通譯生	従卒
民政長官	一						

5-0398
0033
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

事務官	八																		
技師	二																		
通譯官	四																		
計	一	六八	二一	二九	一五	四五	三五												
合計																			

備考

一、本表ノ外定員外トシテ師團司令部付武官一、仝付領事一、仝付副領事一、奏任待遇通譯三、判任待遇通譯三、囑託医長一ヲ置ク

二、朱書ハ欠員ニシテ戰地ニ於テ逐次充足ス

尓后九月ニ至リ樺太軍ニ編制改正ヲ見軍ニ守備隊トシテ一大隊ヲ殘留スルコトヽナルヤ同時ニ樺太民政署定員ニモ多少改正アリ其人員左ノ如シ

樺太民政署人員一覽表　九月十六日編制改正

高等文官	判任文官																		
職名	勅任	奏任	屬	技手	通譯生	從卒													
民政長官	一																		
事務官					二	一													
技師				六		九													
通譯官			二																
計	一	六二			二一九	九	三七一一												
合計																			

備考

一、本表ノ外定員外トシテ高等文官二、樺太守備隊司令部付武官一、仝付領事一、仝付副領事一、奏任待遇通譯三、判任待遇通譯三、囑託医長一ヲ置ク

二、朱書ハ欠員ニシテ戰地ニ於テ逐次充足ス

然ルニ事業部ノ新設ニテ署員ニ不足ヲ告ケ已ムヲ得ス地方費支弁ノ事務囑託ヲ置クコトヽナリ署員著シク增加シ十二

5-0398
0034
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

月末日ノ調査ニ據レバ高等官並ニ仝待遇十五、判任官并ニ仝待遇二十三事務嘱託二十五雇員四十三從卒九傭人百四十二ナリ其内上京又ハ病病后送ノ者モアリ尤ニ人員現在表ヲ掲ク尤モ傭人ナルモノハ臨時軍事費ノ傭給費目ヨリ支弗シ率シタルモノニシテ其内ニハ木工、鍛工ヨリ始トシテペンキ塗職人アリ洗濯職アリ理髪師アリ各種ノ職人ヲ網羅シ率ヒタルモノニシテ其后自由渡航者アリテ不必要ト認ノタルモノハ漸次解傭セリ該表ニ掲クル者ハ悉ノ経理部ヨリ炊事ノ官給ヲ受ケタルモノナリ

樺太民政署人員現在表

明治三十八年十二月廿一日調

区分	階級	定員	前旬末総員	増員 任命	減員 転免除	計	本旬末総員	不出張	不遣
高等官	長官	一	一				一		二
	事務官	六	五				五		
	技師		三				三		
	通訳官	二							
	理事		一				一		
	副領事		一				一		
	陸軍通訳		四				四		
	医長		一				一		
仝待遇者	計	九	一五				一五		二
判任官	属		一四				一四		
	技手	三〇	七				七		四
	通訳生								七
仝待遇者	陸軍通訳		二				二		
事務嘱託	事務嘱託		二五				二五		一
	雇員		四三				四三		三
	産婆		九				九		二
從卒	從卒	九	三七				三七		五
傭人	傭人	九四八	三三	六	六		三九		六
計	計	九四八	二五二	六	六		二五七		六
合計	合計	九四八	二五二	六	六		二五七		六

5-0398
0035
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

在員			本官未現員	定員ニ對スル過不足	
上京	飯廳	後送		過	不足
二			一		
二		四	一	二	
	一	三			二
				一	
			一	一	
			一	一	
			二	四	
			二	一	
五		一〇	六	九	二
一		七	七		
	一	三	四		九
				二	
		二	二	二五	
		八	一七	四三	
	二	一四	九	二三	九
一	二	二三	七二	四二	一一
六	二	〇六	二一	二二	
		六	六	二一	
		七	一八	一	

増員

減員

備考

本表中

一、過員ハ定員外及隊等ノ範囲内ニテ採用シタルモノヲ包含ス

一、不足人員ハ追テ充員ノ見込

一、「ヶ」ハ兼務ナルヲ以テ計數ニ算入セス

樺太民政署隊等

民政署開廳当時ニ在テハ一般ノ経費ハ臨時軍事費及臨時事件費ヨリ悉ク支弁シ来リタル處十月已降ハ民政署ニ地方豫算ヲ定メ陸軍大臣ノ認可ヲ受ケ其範囲ニ於テ施設経営スルコトナリ右記ノ甲号ハ第一回ノ豫算認可ヲ受ケタル額ナリ然ルニ戦后ノ経営ハ多端ニシテ百事創設ヲ要シ加ヘニ往々不測ノ出来事アリ已ムヲ得サル臨時ノ支出ヲ要スル為メ右ノ豫算額ニテハ不足ヲ告ケ更ニ豫算ノ変更ヲ大臣ニ申請シ認可ヲ得タルモノ是即チ乙号トス

甲号　樺太地方豫算（明治三九年十月一日ヨリ明治四十年三月廿一日ニ至ル）

収入ノ部

第一款　漁業料収入　七万千五百拾参円五拾五銭

第二款　雑収入　壱万五千円

5-0398

0036

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

合計　八万六千五百拾参円五拾銭

支出ノ部

第一款　道路開鑿及修繕費　貳万円

第二款　畜産保護及蕃殖費　貳万円

第三款　森林事業及製材費　壱万四千円

第四款　水産調査及監督費　壱万円

第五款　コハサコフ仮燈台建設費　貳千円

第六款　地方行政費　五千円

第七款　動植物調査費　壱千円

第八款　土地調査及測量費　四千五百拾参円五拾銭

第九款　豫備費　壱万円

合計　八万六千五百拾参円五拾銭

備考　酒業料ハ拾四万参千貳拾七円ト見積リ本年上半期分ヲ徴収シ下半期分ハ三十九年五月之ヲ徴収ス

実際ノ収入ハ前項ノ金額ニ足ラサルトキハ相当科目ニ就キ節減又ハ繰延アルベシ四月以後ノ収入ニ編入ス

乙号　明治三十八年度（自明治三十八年十月一日至明治三十九年三月末）樺太地方豫算

収入ノ部

第一款　樺太収入　金貳拾九万六千貳百六拾参円五拾銭

第一項　漁業料収入　金貳拾八万拾参円五拾銭

第二項　雑収入　金壱万六千貳百五拾円

収入合計　金式拾九万六千式百六拾参円五拾銭

支出ノ部

第一款　民政費　金拾四万七千四百七拾円

第一項　道路開鑿及修繕費　金参万五千円

第二項　畜産保護及蕃殖費　金五万円

5-0398
0037
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第三項 森林事業及製材費 金、貳万五千円
第四項 水産調査及監督費 金六千四百円
第五項 コルサコフ仮燈台建設及維持費 金貳千円
第六項 地方行政費 金貳万参千五百七拾円
第七項 動植物調査費 金千円
第八項 土地調査及測量費 金四千五百円
第二款 豫備費 金壱万円
第一項 豫備費 金壱万円

支出合計金拾五万七千四百七拾円

収入剰餘金拾参万八千七百九拾参円五拾銭 明治三十九年度ヘ繰入

而シテ本年度ノ地方豫算ハ左ノ如シ

明治三十九年度樺太地方豫算

収入ノ部

第一款 樺太収入 四九五、二八〇円
第一項 漁業料収入 三二〇〇〇〇
第一目 漁業料収入 三二〇〇〇〇
第二項 雑収入 三一〇〇〇〇
第一目 鹿業免許料 五〇〇〇
第二目 雑種税 二〇〇〇〇
第三目 土地使用料 一〇〇〇〇
第四目 罰金及没収金 三〇〇〇〇
第五目 病院収入 四〇〇〇〇
第六目 用材及薪炭材耕下代 五〇〇〇〇
第七目 物品拂下代 六三〇〇〇
第八目 雑入 二〇〇〇
第三項 繰越金 一四四二八〇

5-0398
0038
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第一目繰越金　一四四二八〇

支出部

第一款民政費　四七八三三〇

第一項殖産調査費　七四二〇〇

第一目雑給　四〇二〇〇

第二目雑費　一〇〇〇〇

第三目水産調査船諸費　二四〇〇〇

第二項地方行政費　六〇七五〇

第一目令達費　二五五〇

第二目救助費　二〇〇〇

第三目警務費　一七〇〇〇

第四目水上警察船諸費　三〇〇〇〇

第五目地方警察機密費　一、二〇〇

第六目人民総代人費　三〇〇〇

第七目海豹島保護費　五〇〇〇

第三項衛生及病院費　二三、二〇〇

第一目衛生費　三、七〇〇

第二目病院費　一九五〇〇

第四項地方費取扱費　一、二〇〇

第一目地方費取扱費　一、二〇〇

第五項市街村落設計及測量費　四五〇〇

第一目市街村落設計及測量費　四五〇〇

第六項道路開設及修繕費　一四〇〇〇

第一目道路開設費　九五〇〇〇

第二目道路修繕費　四五〇〇〇

5-0398

0039

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第七項 畜産保護及蕃殖費 一七〇〇〇

第一目 保護費 一二〇〇〇

第二目 蕃殖費 五〇〇〇

第八項 森林事業及製材費 三四二八〇

第一目 森林事業費 五〇〇〇

第二目 製材費 五八〇

第九項 仮燈台維持費 一二〇〇

第一目 仮燈台維持費 一二〇〇

第十項 教育費 一〇〇〇〇

第一目 教育費 一〇〇〇〇

第十一項 駅傳補助費 八〇〇〇

第一目 駅傳補助費 八〇〇〇

第十二項 炼瓦工場補助費 二〇〇〇

第一目 煉瓦工場補助費 二〇〇〇

第十三項 移民費 一〇〇〇〇

第一目 移民費 一〇〇〇〇

第十四項 拘禁所費 六〇〇〇

第一目 拘禁所費 六〇〇〇

第十五項 病院新営費 二〇〇〇〇

第一目 病院新営費 二〇〇〇

第十六項 拘禁所新営費 一〇〇〇〇

第一目 拘禁所新営費 一〇〇〇〇

第十七項 水産試験所新営費 三八〇〇〇

第一目 水産試験所新営費 三八〇〇〇

第二款 豫備費 一六九五〇

第一項 豫備費 一六九五〇

5-0398

0040

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第一目　豫備費

合計金四拾九万五千二百八拾円　一六九五〇

又民政署本年度臨時事件費ヲ示セバ左ノ如シ

樺太民政署明治三十九年度臨時事件費

臨時事件費	一五七〇七八円〇〇〇
人件費	九二一三〇四〇〇
俸給諸給	五四九三六〇〇〇
傭給	三三一九四四〇〇
旅費	四〇〇〇〇〇
物件費	五八九五七六〇〇
被服費	二七〇〇〇
外本省留置額	四二五三〇〇〇
糧秣費	一五七八九〇〇〇
外本省留置額	一三〇五六〇〇〇
需品費	三〇〇〇〇〇〇
築造費	五二八〇〇〇
郵便電信費	一五六九〇〇〇
運搬費	三八三九六〇〇
雑費	七二〇五〇〇〇
機密費	六〇〇〇〇〇

民政署廳舍及官舍新築其他殖産調査等ノ費用トシテ金貳拾萬円臨時軍事費ヨリ支出ノ件決定アリ在京能谷長官ヨリ代理尾崎事務官ニ電報アリタルモノ左ノ如シ

樺太民政署臨時軍事費豫算貳拾萬円ハ殖産調査ト建築トニ要スル費途ニシテ其區分及兩費目中ノ區分ハ陸軍省ヨリ指定セラレス民政署ニ於テ其區分ヲ設ケ建築ニ付テハ陸

5-0398
0041
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

軍大臣ノ認可ヲ申請シ殖産調査ニ付テハ豫算ノ細目及調査方針ヲ定メテ陸軍大臣ニ報告スルコトニ令達セラレ、茲ヨリ本官ハ殖産調査ヲ拾万円建築費ヲ拾萬円トスル見込ニシテ建築費ニ付テハ追テ何分ノ義ヲ貴官ニ申送ル迄ハ之ヲ使用スベカラズ殖産調査費ハ臨時軍事費ノ通ノ區分ニテ處理セラレタシ

臨時軍事費	一〇〇〇〇〇〇〇〇円
殖産調査	
人件費	四七〇〇〇〇〇
諸給（賄給諸給ナシ）	二九二二八〇〇〇
傭給	一四二〇〇〇〇〇
旅費	三五〇〇〇〇〇
物件費	五二九九二〇〇〇
被服費	二五〇〇〇〇〇
糧秣費	一〇〇〇〇〇〇〇〇
需品費	三〇〇〇〇〇〇〇
築造費	三〇〇〇〇〇〇
郵便電信費	一五〇〇〇〇〇
運搬費	四〇〇〇〇〇〇
病傷費	九九九二〇〇〇
雑費	一〇〇〇〇〇〇〇

人件費中ノ諸給ハ殖産調査ノ仕務ヲ以テ既ニ当地ニ於テ採用シ又ハ将来採用スベキ事務嘱託並ニ雇員ノ手当ニ支出スル見込ニシテ又地方費ノ支辨ニ属セサル樺太在勤中ノ嘱託雇員ニシテ殖産調査ノ仕ニ当ラシムルモノノ給料手當ハ本費目中ヨリ支出スル見込其ノ各個人ノ區分ハ近日通知スベシ

5-0398
0042
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

当初民政長官ハ建築費ヲ拾万円トスル見込ナリシカ其后
本署ヲ愈々ウラゲミロフカニ移轉スルコトニ解決アリタレバ建
築費ハ本署及各支署ノ廳舎並ニ宿舎ヲ併セ四拾万円
支出ニ決セシト云フ

樺太民政署ノ施政　経営　将来ノ計畫

民政署ノ施政ハ樺太ニ於ケル戦后ノ安寧秩序ヲ保持シ我
領有ニ帰セル五十度以南ノ拓殖其他諸般ノ事業ヲ経営
スルニアリテ出入船舶及渡航者ノ取締、漁業假規則ノ施行、
土地使用ノ許否其使用料其他ノ公課ヲ定ムルコト及其徴収、
家屋ノ建築並ニ諸営業ノ許否及其取締、残留露国民
ノ保護及救助、行政及司法警察、行政規則違反ニ對スル
審判及懲罰、民事審判、衛生等列記シ来レバ一トシテ施政
ノ一部ニアラザルハナシ其実行ニ関シテハ創設ニ属スルヲ以テ一々

軍令又ハ規則ヲ制定シ遺策ナカラシメンヲ期スルハ容易ノ業
ニアラズ元来民政署ナルモノハ孰レモ戰時若クハ其状態ニ在ル地方ニ置カ
ルヽ一ノ行政機関ニ過キサレバ取扱フ所ノ事務多ク普通ト其趣ヲ異
ニシ軍隊ヨリ多ク撤収ノ下ニ過渡時代ノ出来事ヲ處理シ去ルモノ多キ
ヲ以テ就中樺太民政署ノ如キ緒言ノ部ニ述ル如ク露軍退却ニ
際シ悉ク須要ノ家屋ヲ焼キ拂ヒタルヲ以テ差当リ各営準備ニ全
力ヲ傾注セサルヲ得ス隨テ一般ノ作業ニ多大ノ障礙ヲ與ヘタリ殊ニ今
后樺太経営ニ就テハ中央政府ノ方針ハ未タ定ラス自然満韓経
営ニ重キヲ置カルヽノ傾向アリ延ヒテ民政署ノ施政ニ影響ヲ加フ
ル所多大ナリト言ハザルベカラズ今左ニ示ス市街設計ニ関スル決議
ナルモノハ差当リ樺太ニ於ケル経営ノ方針ト見テ可ナリ因リ全般ニ関
スル決議ニアラザレバ農業目的ノ移民若クハ漁業等ニ関スルモノハ
之ニ包含セサルモノトス

5-0398
0043
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

市街設計ニ関スル決議

要旨

一、樺太ヲ統轄スル中央政廳ハ「ウラジミロフカ」ニ設置スルモノトシテ計画ス

二、将来「ウラジミロフカ」「コルサコフ」間鉄道ヲ敷設スル者トシテ計画ス

コルサコフ市

三、コルサコフニ於ケル豫定幹線道路左ノ如シ

イ、コルサコフ桟橋ヨリ通町紀念橋本町ヲ経テ榮町ニ至ル

ロ、コルサコフ桟橋ヨリ海岸ヲ経テ旧露西亜町ニ至ル

ハ、黄金水ヨリ守備隊病院前ヲ経テ本町ニ至ル

四、コルサコフ桟橋以北約四百米ノ間海面ヲ埋立テ将来ニ於ケル停車場豫定地トス

五、前項海面埋立除土ハ桟橋東北方(中央高地)高地ヨリ獲得スルコトヲ之カ為中央高地西端附近ニ永久建築物ヲ構築セサルヿ

六、南高地ノ北側小流ヲ海岸ヨリ東方約千二百米ノ間ヲ開鑿シテ艀船ノ出入ニ便ナラシムルヿ其除土ヲ以テ小流北側ノ地均ニ用ユルヿ

七、コルサコフニ於ケル重ナル建築物其他豫定地左ノ如シ

1、民政支署

2、官立病院

3、郵便電信局

4、警察署

5、碇泊場司令部

6、郵船會社支店

0044
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

7、銀行　郵便電信局ノ隣
8、税関　桟橋ノ南方海岸
9、水上警察署并検疫所　税関ノ隣
10、憲兵屯所　現在ノ憲兵屯所附近
11、学校　本町ノ東北隅
12、神社　紀念橋西方26間高地附近
13、本願寺　桟橋東方七百米ノ高地（通町ヨリ北方ヘコルサコフニ中学ヲ屯在セシムルモノトシテ現在ノ梅ケ枝町遊廓ヲ撤去ス）
14、兵営　大泊南樺公園ノ地方
15、遊廓　旧露西亜町
16、官舎及倉社々宅　現在練兵場ヲ用ユ
17、練兵場及射的場　南高地ノ北側ニ流ル小流ノ西側ニシテ現在橋梁ヨリ東方約三百米ニ至ル間
18、貨物倉庫及軍用倉庫　中央高地西端隈地ノ将来豫定地トス
19、公
20、軍用倉庫　現在ノ位置ニ永久建築ヲ為シ難キ時ハ現在兵舎修理所東北谷地ヲ充用シ仮倉庫ニ充ツ
21、大泊公園　現在ノ南樺公園ヲ保存ス
22、中央公園
23、墓地　現在ノ禁所（旧南樺病院）ヨリポロアントマリ迄660ノ高地迄ヲ限リ東方ハ撤定鉄線道路迄ト
24、火葬場　紀念橋北方七百米ノ高地（図上三叉路ヨリ北方100米ニ至ル）
八、市場、監獄分監、裁判所敷地　現在獄所ノ奥
九、避病院ハ官立病院内ニ設置スルカ他ニ敷地ノ要スルヤハ専門家ニ諮問ノ上他日決定スルヿ
十、前項ノ旨趣ニ基キ遅クモ本年三月上旬迄ニ実測ヲナシタル上更ニ修正ヲ要スル者アハ其ハ修正スベキヿ
十一、ウラジミロフカ市　ウラジミロフカ市ハ尤ノ要旨ニ基キ本年三月下旬迄ニ実測スルヿ

5-0398
0045
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

1、ウラジミロフカノ北端ヨリ同村ノ南方約千米附近（海拔標高点）ニ至リ其東方一帶ノ地及現ウラジミロフカ西南方道路ノ西側幅五百米長千米ノ地ヲ市街地ト豫定ス

2、現在ノ旧露国病院附近ヲ兵営敷地トナス

3、官衙ノ位置ハ「ブリジネエ」街道分岐点ノ東方七百米附近トス

十二、実測固定成ノ後更ニ詳細ノ事項ニ関シ協議決定スル

右明治三十九年一月三十一日及二月二日ノ市街設計ニ関スル第一回會議ニ於テ決議ス

民政長官　熊谷喜一郎
守備隊参謀　岡澤慶三郎
民政署事務官　尾崎勇次郎

民政署附副領事　鈴木陽之助
民政署嘱託技師　園山良助

憲兵配置處

警察

凡テ司法及行政警察ノ範囲ニ属スル事柄ハ樺太軍司令官ヨリ軍令第二号ヲ以テ民政長官ニ委任セラレ其執行機関トシテ憲兵ヲ民政長官ニ隷属セシメラルル而シテ憲兵ニ對スル権限ニ関シテハ樺太守備軍司令部勤務令第三項ニ

樺太守備軍憲兵長ハ樺太ニ於ケル司法警察及行政警察ニ関シテハ樺太民政署民政長官ノ指揮ヲ受クベキモノトス

ト又附則第八項ニ

樺太民政署民政長官ハ司法及行政警察業務

5-0398
0046
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ニ関シテハ樺太守備軍憲兵長ヲ指揮ス

トアリ両者ノ権限ヲ明ニ規定セリ民政署開始ノ当時ハ樺太全島ノ民政ヲ統轄シ其安寧秩序ヲ保持スル筈ナリシヲ以テ憲兵ノ数モ殆ンド現今ニ倍シタルモノアリ且ツ其長ハ佐官ヲ以テ之ヲ率下セシメラル然ルニ構紀批准ノ后ハ其数ヲ減シ尉官ヲ以テ其長トセリ現下憲兵本部ハコルサコフニ在リ「コルサコフ」「ウラゲミロフカ」ニ憲兵分隊ヲ置キコルサコフ分隊長ハ憲兵長之ヲ兼任シ「ウラジミロフカ」ニハ少尉ヲシテ其長タラシム「ホロアントマリ」(大泊)「ミツリヨフカ」「心ウタカ」「マウカ」「ガルキノウラスコエ」ノ五ケ処ニ憲兵分遣隊ヲ配置ス其長ハ特務曹長乃至伍長ヲ以テ其長トス総員ハ従卒及馬卒ヲ合算シテ八十三名乗馬二十八頭此ノ内ヨリ海豹島臘朔獣保護ニ特務曹長一名ト兵十名分遣セシメラル軍政中ハ憲兵ヲ以テ警察事務ヲ掌ラシムルハ萬止ムヲ得ザルベキモ可成速ニ巡査ヲ以テ之ニ替ヘザレバ到底人民保護ノ点ニハ遺憾ナキ能ハズ

左ニ樺太守備隊憲兵配置表ヲ掲グ

樺太守備隊憲兵配置表

区分	階級	大尉	大尉	特務曹長	曹長	軍曹	通訳	伍長	上等兵	従卒	馬卒	計	乗馬
樺太守備隊憲兵分部	憲兵長	一				書記	書記						
コルサコフ憲兵分隊	長兼	一							一	二	六	一	
ポロアントマリ憲兵分遣隊								一	一	一	九	二二	七
ミツリヨフカ分上									一		六	七	三
ルルウタカ分上									一		五	六	三
マウカ分上									一		八	九	四
ウラジミロフカ憲兵分隊				長	一	通訳	書記	一		一	六	八	
ガルキノウラスコエ憲兵分遣隊								一		一	八	一一四	五
								一		一	八	一一	五

5-0398
0047
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

民政法院

樺太ニ司法機関トシテ民政法院アリ内地ノ所謂裁判所ナリ軍令第二十三号樺太民政署司法委員條例第三条ニ樺太民政署司法委員ノ職務ヲ行フ所ヲ民政法院ト称ストアル是ナリ全院ハ当分民政署内ニ置ク占領地人民ノ刑事及占領地人民並ニ在留帝国臣民ノ行政規則違反ニ對スル審判及處罰ニ関スルコト及民事審判事件ハ別ニ軍令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヽセリ而シテ軍令第二号ヲ以テ軍司令官ハ民政長官ヲシテ之ヲ行ハシメ且尚ホ軍司令官ハ軍令第七号及第八号ヲ以テ民政長官及支署長ニ左ノ權限ヲ付與セリ

民政長官ハ樺太軍司令官所在地ヲ距ルコト遠隔ナル民政地域内ニ駐在スル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ軍令ニ抵觸セサル範囲内ニ於テ署令ヲ発シ五十円以下ノ罰金若クハ三十日以内ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

支署長ハ要件ノ範囲ニ於テ又ハ軽易ナル事項ニ付支署令ヲ発シ二十円以下ノ罰金又ハ十日以内ノ拘留ヲ科スヘキ罰則ヲ設クルコトヲ得

昨年十月九日軍令第二十一号ヲ以テ守備隊司令官ハ占領地人民刑罰令ヲ定ム其個条ハ十三条ヨリ成リテ台湾ハ別問題トシテ特ニ著シク感スルハ第三条ニ刑ヲ分テ死、禁錮、没収、罰金、笞、拘留及科料トストアリ即チ笞刑ヲ加ヘタルコト又第四条ニ死ハ斬又ハ絞首トストアリテ斬罪ノアルコト是ナリ笞刑ハ露領時代ニモ行ハレタルモノナレバ平和恢復ノ今日笞刑ヲ以テスル敢テ怪ムベキニアラズ然レモ斬罪ニ處スル一事ハ大ニ当局者ノ猛省ヲ要スベキモノトス蓋シ斬罪ハ野蠻ノ遺風ナリ戦時ハ刑ノ執

行神速ヲ尊フコトアレバ勢已ムヲ得ザルモノアレド平和克復ノ后尚ホ此ノ蠻風ヲ演スル我国ノ体面ヲ汚スト謂フベシ現ニ本年残留露人間ニ殺人犯事件起リ四月審理ノ上三名ヲ斬罪ニ處セリ而シテ其刑ノ執行ハ五月十六日衆人環視ノ下ニ肯ヲ刎タリト云フ露国人側ハ之ニ對シ日本ハ未ダ野蠻ナリト云ヒ笑止ニ附シ去リタルカ恐ラク此一事ヲ以テ永ク我治下ニ残ラントセン輩モ敵国ノ念ヲ惹起シタルニアラザルカ浦潮斯德ニ於テ本邦人ヲ国事探偵ノ嫌疑ヲ以テ濫リニ拘禁シタル事件ハ何人モ憤慨シタル処ナルガ我国ノ一隅ニモ露国ニ劣ラサル蠻行アルハ実ニ其々敷事ナリ是レ畢竟軍政ノ罪ナレバ可成速ニ之ヲ撤去セサルベカラズ

又同日軍令第二十二号ヲ以テ民事審判條例ヲ発布シ帝国臣民間、帝国臣民ト占領地人民間、帝国臣民ト占領地人民ト第三国人民間及第三国人民間ノ民事々件ハ日本帝国民法商法及其附属法規ニ準用ス（第一条）又占領地人民間ノ民事々件ハ土地ノ慣例ヲ参照シテ之ヲ處断ス（第二条）ト定ム

又軍令第二十三号ヲ以テ樺太民政署司法委員條例ヲ定ム今其大要ヲ挙クレバ民政署司法委員ノ掌ルベキコト（第一条）其任命（第二条）其他數ケ条ハ職務ヲ規定シ進ンデ民事ヲ分ケ審判及勧解ノ二種トス（第十三条）総テノ審判ノ執行ハ憲兵ヲシテ之ヲ行ハシム（第二十条）審判ハ合議制トス但シ民政長官ハ於テ必要ト認ムルトキハ単獨制ヲ以テ之ヲ行ハシムルコトヲ得（第廿一条）等ナリ

十一月十七日軍令第二十九号ヲ以テ行政ノ目的ヲ以テ発シタル軍令其他ノ諸規則違反者即決例ヲ定ム其要領ハ支署長ハ行政ノ目的ヲ以テ発シタル軍令其他ノ諸規則違反者ニシテ禁錮一箇月罰金百円以内若ハ物件没収ヲ言渡スヲ適

5-0398
0049
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

当ト認ルトキハ即決ヲ以テ之ヲ言渡スコトヲ得

前項ニ掲クル事項ニ就テハ支署長ハ司法委員ト同一ノ権限ヲ有ス

憲兵犯罪ヲ捜索シタルトキハ軍令第二十三号第四条ニ依リ犯人及証據書類ヲ司法委員ニ送致スルノ前之ヲ支署長ニ送致シ支署長ニ於テ之ヲ即決セサルコトヲ告知シタルトキハ之ヲ司法委員ニ送致スベシ支署長ニ於テ即決ヲ言渡シタルトキハ之ヲ司法委員ニ通知スベシ（第一条）又即決ノ言渡シヲ受ケタルモノニシテ其ノ言渡ニ不服アル者ハ正式ノ審判ヲ司法委員ニ請求スルコトヲ得（第二条）等ナリ

該即決例ヲ発シタル后ハ司法委員ハ大ニ事務ヲ減少シ之ニ反シ支署長ハ往々即決審判ニ遂ハシ一般ノ執務上ニ多大ノ影響ヲ蒙レリト云フ

樺太守備隊ノ軍法會議ナルモノハ全ク別種ニシテ軍人軍属ノ刑事裁判ヲ為ス所トス民政法院ノ未決既決ノ囚人ヲ拘禁スル所ヲ民政署拘禁所ト云ヒ軍法會議ノ未決既決囚人ヲ拘禁スル所ヲ守備隊囚禁所ト称ス目下両者トモ同一ノ建物内ニ在リ

民政署拘禁所

新領土ノ渡航者漸ク多キヲ加フルト同時ニ軍令又ハ諸法規違反者ヲ出シ昨年中ハ之ヲ収容スル設備未タ至ラス憲兵本部内ニ臨時ノ措置トシテ拘禁シタルカ違反者漸時其數ヲ増スニ従ヒ愈必要ニ迫リ前ノ南部病院跡（露国漁業者サウエリエフ漁場）ヲ改修シ拘禁所ト囚禁所ヲ設ケ而シテ本年一月十五日軍令第三十号ヲ以テ樺太民政署拘禁所条例ヲ定メ司法委員ノ管掌ニ属スル未決既決ノ囚人ヲ拘

5-0398
0050
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

禁スル所トシ之ヲ守備隊憲兵長ノ管理ニ属セシム

樺太島出入船舶及渡航者規則

三十年前我版図タリシ樺太島ハ我大元帥陛下ノ御稜威ト陸海軍人ノ忠勇ナル貢献トニ頼リ昨年再ビ我領有ニ帰シタレバ我国民殊ニ北海道及東北人士ハ争テ一日モ早ク全島ニ渡航セント奔走シ或ハ上京シ陸海軍外務ノ三省ニ請願書ヲ以テ迫ルアリテ一時ハ軍隊酒保ノ名義ヲ得ントスルアリ又露語若クハ土語ノ通譯タラントスルアリテ其運動ノ激甚ナリシハ殆ント人ヲシテ信ゼサラシムル程ナリシ陸軍省ハ漸ク八月七日告示第十六号ヲ以テ樺太島出入船舶及渡航者規則ヲ発布シ渡航者ノ希望ニ副ハシメタレバ潮ノ如ク新領土ニ押シ掛ケタリ而シテ彼等ハ何ノ目的ヲ有スルカト云ハ表面ハ免モアレ多クハ漁業ノ目的ヲ有スルモノニシテ人ヲ排擠シテモ可成早ク新領土ニ渡リ漁場ヲ占有シ之ニ標榜ヲ立テ以テ后日先優者タルノ権利ヲ主張セントニアリ是皆曾テ台湾領有ノ時同島ニ行ハレシ土地獲得ノ筆法ヲ此際樺太ニ演セント欲セシモノヽ如シ然ルニ九月六日コルサコフ支署令第三号ヲ以テ内地旅行規則ヲ出シ旅行ノ目的如何ニ依リ之ヲ許否スルコトヽシタレバ其結果漁場占有ノ計畫ハ悉ク水泡ニ帰セリ其他奇利攫得ヲ目的トセル輩モ民政署ノ警戒ニ依リ是モ何等手ヲ染メルコト能ハサリシモノヽ如シ

尤ニ告示第十六号ハ全文ヲ掲ク今日ヨリ之ヲ観レバ渡航者ノ自由ヲ拘束スル箇條ナキニアラサレトモ交戦未タ其終結ヲ告ケサル当時ニ在テハ止ムヲ得サリキ然レモ今ヤ満韓方面ヲ開放シ獨リ樺太ニノミ斯種ノ法ヲ存シ置クノ理由ナシ第六条ニ「渡航者ハ上陸後直チニ本籍地若クハ居住地ノ地方官廳ニ於テ調

5-0398
0051
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

製セル身元証明書及戸籍謄本ヲ添ヘ民政署ニ届出ヘシト
アリ殊ニ此ケ条ハ渡航者ノ迷惑之ヨリ大ナルハナシ翻テ第一条ニ特
許漁業者ニハ本規則ヲ適用セストアリ労働漁夫ヲ幾人ニテモ
率ヒ渡航スルコトヲ許セリ抑モ同一ノ地ニ在リテ漁業目的
ト云ハヽ之ヲ要セス然ラザレハ第六條ヲ厲行シ自由ヲ拘束
スルハ頗ル矛盾セル規則ト云ハサルベカラズ斯クノ如キ法ハ新
領土ノ開発ニ頗ル妨碍アレハ速ニ之ヲ廃止シ以テ渡航者ノ
不便ト迷惑ヲ除去スルハ急務トス渡航者中ナシテ常
識ヲ有スル者ハ何人モ当局者ノ猛省ヲ望マザルナシ

陸軍省告示第十六号

樺太島出入船舶及渡航者規則左ノ通リ定ム

明治三十八年八月七日　陸軍大臣寺内正毅

樺太島出入船舶及渡航者規則

第一條　本規則ハ樺太島ニ出入セントスル船舶及同島渡航
者ニ関スル事項ヲ規定スルモノトス

明治三十八年陸軍省告示第十五号ニ依リ漁業ノ
許可ヲ得タル者ノ漁業ニ使用スル船舶及其ノ乗組
員ニ付テハ本規則ヲ適用セス

第二條　船舶ノ出入シ得ヘキ港湾ハ当分ノ内「コルサコフ」港ニ限ル
但シ陸軍大臣又ハ樺太島ヲ管轄スル軍衙ノ許可ヲ
得タル者ハ此限ニアラズ

前項以外ノ港湾ニ出入ヲ許ス場合ハ更ニ告示ス

第三條　出入船舶ハ日本船舶ニ限ル

第四條　渡航者及出入船舶ノ船員ハ日本臣民ニ限ル但
シ陸軍大臣又ハ樺太島ヲ管轄スル軍衙ニ於テ
特ニ認許シタル者ハ此限ニ在ラズ

5-0398
0052
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第五條左ニ掲ル者ハ渡航スルコトヲ得ス

一、豫戒令施行中ノ者

二、身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ弁濟ヲ終ヘサル者及家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者

三、剝奪公權者及停止公權者

四、一定ノ生業ナキ者

第六條 渡航者ハ上陸後直チニ本籍地若クハ居住地ノ地方官廳ニ於テ調製セル身元証明書及戸籍謄本ヲ添ヘ民政署ニ届出ベシ

第七條 出入船舶ノ碇泊及乗客貨物ノ揚陸等ニツキテハ運輸通信官衙ノ指示ニ從フヘキモノトス

運輸通信官衙ハ必要ニ應シ出入船舶ニ臨檢スルコトアルベシ

第八條 出入船舶及渡航者ハ樺太島ヲ管轄スル軍衙ノ規則及命令ヲ遵守スベキモノトス

樺太島ヲ管轄スル軍衙ハ必要ニ應シ船舶ノ出入及ビ渡航者ノ上陸ヲ禁シ船舶若クハ渡航者ヲ抑留シ又ハ之レニ退去ヲ命スルコトアルベシ

斯クノ如ク或制限ノ下ニ渡航ヲ開放シタレバ当時南部占領軍司令官ハ八月十七日ヲ以テ左ノ如キ渡航者心得ヲ発セリ

樺太島南部渡航者心得

一、渡航者ハ明治三十八年八月陸軍省告示第十六号第六條ノ届出ヲナスト仝時ニ本島ニ於ケル営業ノ種類及其方法ヲ「コルサコフ」民政署ニ届出ツベシ

二、當分ノ内「ポロアントマリ」及「コルサコフ」以外ノ地ニ於テ営業若クハ居住ヲナスコトヲ得ス但シ此地區外ニ於テ営業若クハ居

5-0398
0053
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

住セントスル者ハ其目的及方法ヲ詳記シ民政署ヲ経テ南部
占領軍司令官ニ願出ツベシ
三、営業及居住ノ場所ハ民政署ヨリ之ヲ指定ス但シ時宜ニ依リ
其変更ヲ命スルコトアルベシ
民政署ノ許可ナクシテ営業及居住ノ場所ヲ変更スルコトヲ
得ス
四、陸上及海上ノ運搬具ヲ使用セントスルモノハ兵站司令部又ハ碇
泊場司令部派出所ノ許可ヲ受クベシ
五、営業者ハ物品販売ノ方法及価格ニ就テハ總テ民政署
ノ監督ヲ受クベキモノトス
六、渡航者ハ軍政委員ノ許可ナクシテ露国住民ノ不動産牛馬
建築材料及運搬具ヲ購買スルコトヲ得ス
七、日本貨ト露貨トノ交換率ハ当分左ノ通リ厳守スベシ

日本金貨一円参弐貳厘ニ付露金貨一留
日本紙幣九拾八銭ニ付露紙幣一留
日本補助貨九拾五銭ニ付露補助貨一留
八、渡航者中ノ婦人軍衛ニ於テ必要アリト認ムルトキハ何時ニテ
モ検徴ヲ為サシム此ノ場合ニ於テ之ヲ拒ムヲ得ス

明治三十八年八月十七日

樺太南部占領軍司令官竹内正策

出入船舶　新領土渡航者

樺太占領后コルサコフニ出入スル船舶ハ実ニ頻繁ヲ極メ港内常ニ
一二ノ汽船ヲ認メサルナシ殊ニ十月媾和成立マテハ巡洋艦数隻外
留艦ヲ率ヒ碇泊セシタルバ当時コルサコフ及大泊港内ノ光景ハ
未曾有ノ壮観ヲ呈セリ新領土渡航者ノ便ヲ計リ郵船會社
ハ田子ノ浦丸ヲ以テ定規航海ヲ取リ又社外船ハ乗客ト物資ヲ

5-0398
0054
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

本島ニ輸送スルニ忙シク八月ニハ入港隻數七隻九月ニハ十七隻十月二十二隻十一月十四隻十二月六隻合計六十六隻其総噸數貳萬七千五百六十一噸曾テ露領クリル日当港エノ航海ハ十一月下旬ヨリテ其終結ヲ告ケタリシニ今ヤ流氷ノ為メ航路険悪ナルニ拘ラス郵船會社ハ十二月初旬社外船ハ仝月下旬マテ航海ヲ継續セリ是レ渡航者ノ往復頻繁ナルト物資ノ需用多大ナリシヲ証スルニ足ル尤ニ汽船入港表ヲ掲ク船名及回數等之ニ就キ見ルベシ

汽船入港表

明治三十八年十二月廿八日調

船名	登簿噸數	入港度數	入港延噸數	入港度數	入港延噸數	入港度數	入港延噸數	入港度數	入港延噸數	入港度數	入港延噸數	入港度數	入港延噸數
		八月		九月		十月		十一月		十二月		計	
久保丸	二四一	二	四八二	四	九六四	五	一二〇五	二	四八二	一	二四一	一四	三三七四
礼文丸	三五三	一	三五三									一	三五三
田子ノ浦丸	七五六	二	一五一二	三	二二六八	三	二二六八	三	二二六八	一	七五六	一二	九〇七二
筑紫丸	一〇六〇	一	一〇六〇								一〇六〇	二	二一二〇
新渓丸	一八三	一	一八三									一	一八三
勢至丸	三一〇			二	六二〇							二	六二〇
第一淩波丸	一七七			二	三五四			二	三五四	一	一七七	五	八八五
第二淩波丸	一八一			一	一八一							一	一八一
宮島丸	一六〇九			一	一六〇九			一	一六〇九	一	一六〇九	三	四八二七
利尻丸	三〇三			一	三〇三					三	九〇九	四	一二一二
第二新渓丸	一八三			一	一八三	三	五四九					四	七三二
巴港丸	二三八			一	二三八	一	二三八	一	二三八			三	七一四
東洋丸	三五〇			一	三五〇							一	三五〇
東光丸	二二三											二	四四六
元塩川丸	一八〇					四	七二〇	一	一八〇	二	三六〇	七	一二六〇
幸明丸	四三三					一	四三三			一	四三三	二	八六六

5-0398
0055
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

日進丸	一八三																	
合計	六九六三	七三五九	一七七〇七	二二八七二	一四六三三	六一九六七	六六二七五六一	一八三	一八三	一八三	六	二三六六

今渡来者ノ數ヲ見ンニ

八月　六百二拾參人

九月　千五百拾五人

十月　千〇貳拾九人

十月　四百參十七人

十二月　百八拾八人

計　參千七百九拾貳人

而シテ其府縣別ヲ示サンカ爲ニ左ニ月別府縣別表ト府縣表トヲ掲グ

渡来者月別府縣別表　明治三十六年十二月末日調

廳府縣別 ＼ 月次	八月			九月			十月			十一月			十二月			合計			比較
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
北海道廳	五三	三五五	一〇三	四一一	〇七三	五一〇	三四六	二四二四	八三二九七	九〇	三二一三三	三三六三〇	二三三六三〇						一
東京府	二	一二	元	元	元	二一八	四	四	三	一	四	四三	宅						六
京都府	、	、	、	四	、	四	一	、	、	、	、	、	五						五
大阪府	三	、	三	四	、	四	八	、	八	、	、	、	一五						一九
神奈川縣	二	、	二	五	、	五	三	、	三	三	一	四	二六						二一七
兵庫縣	二	、	二	六	、	六	八	二	一〇	一	、	一	一八						二二〇
長崎縣	一	、	一	五	、	五	二	、	二	一	、	一	八						一九
新潟縣	九	、	九	二六	二	二八	二六	四	三〇	八	三	二	一						二七〇
埼玉縣	、	、	、	一	、	一	五	、	五	、	、	、	六						一八一
群馬縣	、	、	、	一	、	一	一	、	一	、	、	、	三						四
千葉縣	三	、	三	一三	、	一三	五	一	六	七	、	七	、	、	二六	一二九			一三
茨城縣	二	、	二	六	、	六	三	、	三	七	、	七	、	、	一八	、一八			一八
栃木縣	一	、	一	四	、	四	三	、	三	、	、	、	一	、	一	九	、	九	三〇

5-0398
0056
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

三重縣	二	、	二	六	、	六	、	、	、	、	、	、	、	、	、	八	、	八	三二
奈良縣	一	、	一	一	、	一	三	、	三	、	、	、	、	、	、	五	、	五	四二
愛知縣	、	、	、	九	、	九	三	、	三	二	、	二	、	、	、	一四	、	一四	二〇
靜岡縣	二	、	二	一	一	二	四	、	四	一	、	一	、	、	、	八	一	九	三一
山梨縣	二	、	二	一	、	一	五	、	五	二	、	二	一	一	二	二	一	一二	二二
滋賀縣	、	、	、	九	、	九	四	、	四	九	、	九	、	、	、	二	、	二	一五
岐阜縣	一	、	一	二	、	二	五	、	五	三	、	三	一	、	一	一二	、	一二	二三
長野縣	、	、	、	一三	、	一三	六	四	一〇	一	、	一	三	三	六	二三	七	三〇	一二
宮城縣	、	、	、	九	、	九	七	一	八	五	三	八	三	、	三	二四	四	二八	一四
福島縣	三	、	三	二〇	一	二一	一六	二	一八	七	、	七	三	、	三	四九	三	五二	九
岩手縣	三	、	三	五	、	五	一四	四	一八	四	一	五	三	、	三	二九	五	三四	一一
青森縣	一九	、	一九	六九	二	七一	四二	五	四七	一三	六	一九	四	一	五	一四七	一四	一六一	二
山形縣	三	、	三	三一	一	三二	一八	一	一九	一	一	二	三	二	五	五六	五	六一	八

秋田縣	一四	、	一四	三〇	二	三二	六三	六	六九	五	八	一三	三	三	六	一五	一九	一三四	三
福井縣	五	、	五	一三	、	一三	八	三	一一	一	二	三	二	一	三	二九	六	三五	一〇
石川縣	六	、	六	三三	一	三四	二二	三	二五	九	一	一〇	二	一	三	七二	六	七八	五
富山縣	六	、	六	四三	、	四三	一二	三	一五	一	、	一	、	、	、	六二	三	六五	七
鳥取縣	、	、	、	二	、	二	六	二	八	、	、	、	、	、	、	八	二	一〇	二六
島根縣	、	、	、	四	、	四	五	、	五	三	、	三	一	、	一	一三	、	一三	二一
岡山縣	、	、	、	二	、	二	五	一	六	一	一	二	、	一	一	八	三	一一	二四
廣島縣	、	、	、	二	、	二	一	一	二	一	、	一	五	、	五	九	一	一〇	二七
山口縣	二	、	二	二	、	二	二	、	二	一	、	一	、	、	、	七	、	七	三五
和歌山縣	、	、	、	四	、	四	一	、	一	一	、	一	一	一	二	七	一	八	三三
德島縣	、	、	、	六	、	六	一	、	一	一	二	三	、	、	、	八	二	一〇	二八
愛媛縣	、	、	、	三	、	三	四	一	五	、	、	、	、	、	、	七	一	八	三四
香川縣	一	、	一	一	、	一	三	、	三	、	、	、	、	、	、	五	、	五	四三

5-0398
0057
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

渡来者府県別表　明治三十八年十二月末日調

廳府縣別＼月次	戸籍地調 男	戸籍地調 女	戸籍地調 計	戸籍地調 比較順位	現住地調 男	現住地調 女	現住地調 計	現住地調 比較順位
北海道廳	二、三五七	二七三	二、六三〇	一	二、九三六	三四三	三、二七九	一
東京府	六四	三	六七	六	三七	一	三八	四
京都府	五	、	五	四一	二	、	二	三一
大坂府	一五	、	一五	一九	八	、	八	一五
神奈川縣	一六	二	一八	一七	八	、	八	一六
兵庫縣	一八	二	二〇	一六	八	、	八	一七
長崎縣	八	一	九	二九	三	、	三	二四
新潟縣	七〇	二	八一	四	三〇	三	三三	六
埼玉縣	六	、	六	三七	二	、	二	三二
群馬縣	三	、	三	四四	、	、	、	、
千葉縣	二八	一	二九	一三	九	、	九	一三
茨城縣	一八	、	一八	一八	四	、	四	二一
栃木縣	九	、	九	三〇	二	、	二	三三
三重縣	八	、	八	三二	三	、	三	二五
高知縣	一	、	一	二	一	、	一	二五
福岡縣	、	、	、	二	二	、	二	二七
大分縣	一	、	一	一	一	、	一	一四
佐賀縣	、	、	、	、	、	、	、	二
熊本縣	、	、	、	三	三	、	三	二
宮崎縣	、	、	、	二	二	、	二	二
鹿兒嶋縣	一	、	一	二	二	、	二	二
沖縄縣	、	、	、	、	、	、	、	、
台湾	、	、	、	、	、	、	、	、
総計	六三〇	三六三	六九三	四三七	五一八	三三九	三七九	一

奈良縣	五	、	五	四二	二	、	二	三四
愛知縣	一四	、	一四	二〇	四	、	四	二二
靜岡縣	八	一	九	三一	二	、	二	三五
山梨縣	一一	一	一二	二二	三	、	三	二六
滋賀縣	二二	、	二二	一五	六	、	六	一八
岐阜縣	一二	、	一二	二三	三	、	三	二七
長野縣	二三	七	三〇	一二	一〇	三	一三	一〇
宮城縣	二四	四	二八	一四	八	一	九	一四
福島縣	四九	三	五二	九	二八	一	二九	八
巖手縣	二九	五	三四	一一	一〇	、	一〇	一一
青森縣	一四七	一四	一六一	二	七四	一一	八五	三
山形縣	五六	五	六一	八	三一	二	三三	七
秋田縣	一一五	一九	一三四	三	八三	七	九〇	二
福井縣	二九	六	三五	一〇	九	一	一〇	一二
石川縣	七二	六	七八	五	三二	二	三四	五
富山縣	六二	三	六五	七	二五	一	二六	九
鳥取縣	八	二	一〇	二六	二	一	三	二八
島根縣	一三	、	一三	二一	六	、	六	一九
岡山縣	八	三	一一	二四	四	二	六	二〇
廣島縣	九	一	一〇	二七	、	、	、	、
山口縣	七	、	七	三五	一	、	一	三七
和歌山縣	七	一	八	三三	一	、	一	三八
德島縣	八	二	一〇	二八	一	、	一	三九
愛媛縣	七	一	八	三四	一	、	一	四〇
香川縣	五	、	五	四三	三	、	三	二九
高知縣	五	一	六	三八	三	、	三	三〇

福岡縣	二	〃	二五	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
大分縣	七	〃	三六	四	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
佐賀縣	二	〃	四五	一	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
熊本縣	六	〃	三九	一	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
宮崎縣	二	〃	四六	二	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
鹿兒島縣	五	一	四〇	一	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
沖縄縣	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
台湾	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
総計	三四一三	三七九	三七九二	〃	三四一三	三七九	三七九二	〃	〃	〃	〃

三支署管内在留民職業別

昨年末調査ニ係ル三支署管内在留民ノ數ハ

コルサコフ支署管内　男　一、一九五人

女　二八四人

ウラジミロフカ支署管内　男　一六二人

女　五二人

マウカ支署管内　男　一、六三三人

女　三五七人

計　一、九九〇人

今其職業別ヲ示セハ左ノ如シ

三支署管内在留民職業別表　明治三十八年十二月廿日現在

職業別	コルサコフ支署 男	コルサコフ支署 女	ウラジミロフカ支署 男	ウラジミロフカ支署 女	マウカ支署 男	マウカ支署 女	合計 男	合計 女
物品卸賣業	五	〃	〃	〃	〃	〃	五	〃
倉庫業	一	〃	〃	〃	二	〃	三	〃
運送業	四	〃	一	六	〃	一	二	一
旅人宿業	六	一	八	〃	〃	一四	一五	一
料理屋業	一七	七	三	〃	一	〃	二一	七
							二八	

5-0398

0060

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

藝妓	、	二	、	四	、	、	、	二五	二五
請負業	一二	、	、	、	一	、	一三	、	一三
物品小賣業	八六	四	四	、	六	二	一〇六	六	一一二
製造業	五	、	二	、	、	、	七	、	七
写真業	二	、	、	、	、	、	二	、	二
飲食店	一三	六	六	、	、	、	一九	六	二五
雇人口入業	二	、	、	、	、	、	二	、	二
理髪業	四	二	、	、	、	、	四	二	六
洗濯業	一	、	、	、	、	、	一	、	一
馬車業	一六	、	、	、	、	、	一六	、	一六
古物商	二	、	、	、	、	、	二	、	二
貸座	二	、	、	、	、	、	二	、	二
湯屋業	三	一	、	、	、	、	三	一	四
屠肉販賣業	一三	一	一	、	、	、	一四	一	一五
屠獸業	四	、	、	、	、	、	四	、	四
貸座敷	一	一	、	、	、	、	一	一	二
娼妓	、	五	、	、	、	、	、	五	五
藥種商	二	、	、	、	、	、	二	、	二
材木商	二	、	、	、	、	、	二	、	二
印刷業	三	、	、	、	、	、	三	、	三
武力細工業	一	、	、	、	、	、	一	、	一
馬具販賣商	一	、	、	、	、	、	一	、	一
蹄鉄工	、	、	一	、	、	、	一	、	一
代書業	、	、	一	、	一	、	二	、	二
新聞通信員	一	、	、	、	、	、	一	、	一
僧侶	六	、	、	、	、	、	六	、	六

大工職	五八	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	五八	、	五八	五八
木挽職	五	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	五	、	五	五七	五	五
酌婦	、	五七	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
漁業者	四	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	四	、	四	、	五七	四	四
農	三	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	三	、	三	、	、	三	三
料理職	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
海陸物産商	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、
解業	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	三	、	三	、	、	三	三
雑業	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	四	、	四	、	、	四	四
右各業補助者	三四六	一〇七	八三	四六	一四	二一	四四三	一六四	六〇七	二九五	三〇	七三	二	七五
日雇	二九五	、	、	、	、	、	、	、	二九五	、	、	二	二九五
土方人夫	三〇	、	、	、	、	、	、	、	、	三〇	三〇
新切人夫	四〇	、	三三	二	、	、	、	、	、	、	、

大工人夫	二八	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	二八	、	二八	二八
家根夫	二	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	二	、	二	二
点燈夫	二	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	二	、	二	二
漁夫	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	二二七	八	二二七	八	二三五	二三五	二三五
雑役夫	二四	、	、	、	一〇	、	、	、	、	、	、	、	、	三四	、	三四	三四	三四	三四
無業者	一四三	七一	八	、	、	、	、	、	、	、	、	、	、	五一	七一	二二二	二二二	二二二	二二二
総計	一、九五	二八四	一六二	五二	二七六	二一	一六三	三五七	一九九〇

市街区劃地貸下

陸軍有ハ八月七日告示第十六号ヲ以テ出入船舶及渡航者規則ヲ定メ渡航ヲ許ルセレ以来新領土ヘノ渡来者ハ日ニ月ニ多キヲ加ヘ固ヨリ戸数ノ多カラサルニ露軍退却ノ際焼キ拂ヒタレバ一層宿泊スベキ家屋ナク已ムヲ得ズ一時軍政署ヨリ検査ノ場所ニ假小屋ヲ構ヘ又ハ天幕ヲ張リ一時ノ雨露ヲ凌ケリ殊ニ假小屋

5-0398
0062
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ノ多キヲ見タルハ「コルサコフ」ヨリ大泊ニ通スル中央大橋（今紀念橋）ヨリ海岸ニ出ル平坦地ニシテ遠望野営ヲ張ルノ光景ヲ呈セリ

特ニ雑沓ヲ極メタルハ九月中旬漁場競争入札ノ際ニシテ二三ノ旅館ハ勿論如何ナル小屋モ旅客ノ為メ立錐ノ餘地ナク人民ノ迷惑甚ナカラズ依テ民政署ハ一時モ早ク土地ヲ貸下ゲ家屋ヲ建築セシメント測量技手ヲ督勵シ将来ノ市街地ト認ムベキ地ヲ撰ビ土地区劃割ニ着手シ九月三日文署令第一号ヲ以テ土地使用規則ヲ出シ之ニ準リ土地使用ヲ出願セシム其土地ハ有償貸下ケニシテ同日文署告示第一号ヲ以テ土地使用料額ヲ発布ス一等一坪ニ付一ケ月金貳銭二等一銭三等五厘四等三厘ノ四等級ニ分ツ

当時町名ヲ下シタルハ保町壱丁目、二丁目、本町、本町東西各壱丁目、梅枝町、初音町、通町、山下町ニシテ其戸数ハ総計四百九十七戸其区別ハ左ニ掲ス土地使用特許表ヲ見ルベシ

土地使用特許表

明治三十八年十二月廿八日現在

	保町一丁目	保町二丁目	本町	本町東一丁	本町西一丁	梅枝町	初音町	通町	山下町	計
既定区劃数	七一	一〇	一七〇	九	六九	四〇	二三	一九	三六	四九七
内 官区劃数	二	〇	七	六	二	〇	〇	一	二	二〇
使用特許劃数	六九	一〇	一六二	四三	四九	一八	二一	三三	三三	四二三
訳 残区劃数	〇	〇	一	一〇	一八	二二	二〇	一	一	五四

而シテ土地使用規則第六條ニ一月、二月ノ三ケ月ハ土地使用料ヲ免除シタルハ可成冬期樺太ニ残留セシメン政略ト又冬期ノ商業ハ他ノ時期ノ如ク活潑ナラサルニ由ル又第九條ニ三十日以内ニ建築工事ニ着手セサルモノハ特許ノ効力ヲ失フト規定セルハ渡航者中ニハ一攫千金ヲ夢想スル輩アリ是等カ比機ニ乗シ土地ヲ廣ク獲得セントスルヲ以テ豫防線ヲ張レルナリ

土地貸下ノ方法ハ現ニ内地ヨリ家屋ヲ切リ組ミ携ヘ来レル者ヲ

5-0398
0063
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第一トシ次ハ実際樺太ニ永住ノ意思アル者ヲ詮議シ之ニ特許ヲ與ヘテ而シテ既定区劃割數ハ渡航者ノ比例ニハナ數ナレバ忽ニシテ渡航者ノ貸下ル所トナリ各居ノ建築ニ着手セリ然レ𪜈昨年末ノ調査ニ依レバ落成セルモノ二百九十參戸工事中ハモノ二十四戸合計三百十七戸ナリキ尚百戸餘一旦人民ノ所有ニ帰シ比較的區劃割ナキヲ訴ルニモ拘ラズ建築ニ着手セサリシハ如何ナル理由アルカト云フニ茲ニ主ナル二原因アリ一ハ八月廿八日樺太軍司令官ハ軍令第四号ヲ以テ山林ノ伐採ハ新ニ之ヲ許可セス但シ一時ノ利用ノ為メ所轄官憲ノ許可ヲ受ケタルモノハ其ノ限リニアラズト定メ大体山林ノ伐採ヲ禁シ豊富ナル森林ヲ側ニ有スルニ拘ラズ拂下ヲ許サズ（本年三月ニ至リ漸ク許セリ）遠ク内地ヨリ建築用材全部ヲ取寄スノ已ムヲ得サルニ出シメタルコト其二ハ曉秋ニ際シタレバ前段船舶ノ部ニモ述ルカ如ク船舶ハ孰レモ他ノ物資運搬ニ忙シク建築用材ノ如キ容易ニ積載ヲ引受ケサル事情アリ為メニ新築セントスル者ハ頗ル窮シタルトス寒国ハ冬季建築ヲ許サヽルコト是ナリ

建築家屋表

明治三十八年十二月廿八日調

町名	使用ヲ特許セシ土地ノ区劃數	落成	工事中	計
栄町一丁目	六九	四六	三	四九
同 二丁目	一〇	三	〃	三
本町	一六二	一四二	七	一四九
本町東一丁	四三	二六	四	三〇
本町西一丁	四九	三〇	二	三二
梅枝町	一八	三	一	四
初音町	二一	二三	〃	二三
通町	一八	六	二	八

5-0398
0064
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

山下町	三三	一四	五	一九
合計	四二三	二九三	二四	三一七

土地ノ一時使用ヲ特許サレタル者ハ各営ノ為メ家屋ノ建築ニ汲々タリト雖モ自由渡航者ノ数土地区劃制ニ比シ遥ニ多ク又一面渡航者ノ家屋ハ急造粗造防寒ニ適セサルヲ以テ之ニ頼リ越年スルハ衛生上如何ノ心配ナキニアラズ幸ニ露国人カ遺棄シ去リ現ニ官憲ノ保管ニ属スル村落ニ空屋アリタルヲ各営ニ家屋ナキ輩ニハ一時其使用ヲ許シ應急ノ途ヲ計レリ十月十八日軍令第二十五号ヲ以テ家屋一時使用規則并ニ署令第三号ヲ以テ其施行細則ヲ定メラレ又山田守備隊司令官ヨリ告諭ヲ発シ之ニ先チ山ノ辺ニフカ支署長ハ仝署令第一号ヲ以テ家屋使用規則ヲ定メラレ而シテ渡航者ヨリ出願ニ依リ一時使用ヲ許可セサル戸数左ノ如シ

一時使用ヲ許可セシ家屋村別表　明英露青共合調

村名	総戸数	一時使用ヲ許可セシ数
メレイ村	一二	一
フタラヤパーゲ村	九	、
トレーケヤパーゲ村	一七	一
ミツリヨフカ村	一三	五
第二ウオスタレセンスコエ村	二八	一
ルゴウオエ村	四〇	、
バリシヤーエラニ村	二五	二
ホムトフカ村	三八	一二
リストウエニーケノエ村	一四	、
ブリジチエ村	五六	五
ガルキノウラスコエ村	五二	六
マロウエケキノ村	七	、

5-0398
0065
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ドブキー村		二六	五
トロイツコエ村		一〇三	一
ベレズニヤキー村		四〇	一
クレスツイ村		四七	三
バリシヨエタコエ村		五一	一
マーロエタコエ村		二八	一
計十八ヶ村		六〇六	四五

ウラジヒロフカ管内

本年帆海開始后ハ昨年ニ倍シ陸續渡航者アランコトヲ豫期シ新ニ區劃ヲ設定セリ紀念橋ヨリ以南本町ノ東西裏町ニ新ニ二百二十戸分ノ區劃割ヲ為シ五月中同ヨリ貸下ヲ告示セリ昨年迄一区劃ノ坪數ハ表通リ七間奥行十五間即百五坪ヨリシカ本年ヨリ其坪數ヲ増シ表通リ七間奥行十八間即ち百二十六坪ト為セリ而シテ昨年ハ咄嗟ノ間ニ測量シタレカ区劃ヲ定メタルモノナレバ多少ノ誤謬ヲ免レス本年之ヲ訂正シ更ニ本町ノ名称ヲ改メ本通東西何条出何丁目ト西京ヤ札幌ノ如キ名称ヲ下セリ

又コルサコフ桟橋附近即桟橋ヨリ用領事館前宜要ノ平坦地ニ区劃割ヲ為シ本年ヨリ貸下ル筈ニシテ其区劃モシ數三百六十三戸分表通リ六間奥行十三間)尤モ其内三十戸内外官廳用ニ充テモノナリ

残留露国民　財産處分　異種人

日露開戦前樺太南部ニハ露国流刑民約五六千人ヲ有センカ国交断絶スルヤ彼等ハ多ク義勇兵ト為リ我軍ニ反抗シタレバ或ハ戦死スルアリ或ハ捕虜ト為リタルアリ占領当時不穏ノ挙動ニ據リ死刑ニ處セラレタルモノモ少ナカラス又密ニ北部ニ逃走セルモアリ殊ニ占領后ハ戦闘員ニシテ避難ヲ望ム者ト軍司令官ノ處分ヲ以テ數回御用船ニ乗セシヲデカストルヴ湾ニ護送シタレバ民政署開如リ頃ハ殆ンド露国人ハ六百人未満ナリキ加フルニ民政署開始後百余名自費故國ヘ許ルシシヲ小

5-0398
0066
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

樽経由横濱佛国領事ノ許ニ送リタレバ今我邦国内ニ残留セルモノハ約四百七十八名ナリ而シテ右避難者及邦国者ノ財産ハ如何ニ處分セシカト云フニ前者ハ家屋及牛馬等一切遺棄シ去リ彼等提出セル避難請願書ニ之ヲ遺棄ス以上如何ニ處分アルモ仏日ニ至リ何等異議ヲ唱ヘサル旨ヲ記載セリ（該請願書ハ民政署ニ保存ス）而シテ仏者ハ媾和成立ニナリシヲ以テ表面某商人ニ内意ヲ含メ之レヲ買ヒ取ラシメ民政署ハ殆ンド之ニ関與セサルカ如キ策ヲ執リ尚ホ定期郵船ニ乗込マシメ迚ヤ仏ノ傅ヨリ横濱行汽船ニ乗替ヘノ際便宜ヲ與ヘル為メ殊ニ露語ニ通ズル某商人ヲ之ニ同行セシメ通譯其他斡旋ノ労ヲ執ラシメタレバ右邦国者ハ同満足ヲ表シ去リ而シテ其遺棄シタル牛馬及家屋ハ民政署カ取リモ直サス軍令第四十四号官有土地建物貸付假規則第十四号家畜貸付規則ニ依リ本年農業目的ヲ以テ移住セル人民ニ貸與スルコトニ處分セルモノ是ナリ

避難者ハ邦国露国民ハ何故財産ヲ遺棄シデカストル湾ノ如キ交通不便ノ土地ニ向ヲ争テ送還ヲ請願シタルカ又残留露国民ハ何故之ヲ欲セサリシカ其理由ヲ大畧左ニ述ヘン抑モ彼等ハ両者共元来重罪犯ノ流刑民ナリ該戦争ナカラシメンカ露国ノ法律ニヨレバ容易ニ大陸ニ赴クノ権利ヲ得ル能ハス刑期満了後十數年ニテ徒刑農民ト称スルヲ得始テ帝都府縣産ノ者ニアラサル以上ハ郷里ニ帰農スルヲ許サルモノナレバ戦争ハ彼等ニ大陸ニ渡ルノ好機會ヲ與ヘ彼等従際志願シテ義勇兵トナリタルモ之ニ由リ刑期ヲ減セラレ早リ邦国ヲ許サルカ為ナリ然ルニ占領兵総軍司令官ハ邦国志望者ヲ送還スル旨ヲ達シタレバ流罪地ヲ去ル権利ナキ者ニ取テハ好機逸スヘカラス因ヨリ流刑民多クノ財産ヲ有スベキニアラザレバ之ヲ顧ルノ餘地ナク皆遺棄シ去レルナリ之ニ反シ残留セル露人ハ第一既ニ徒刑農民ノ権利ヲ有シ何時ナリ

トモ任意流刑地ヲ去ルコトヲ得ルモノハ毫モ急ニ及ハサルコト第二ハ老衰セル者ニシテ勢ヒ咄嗟ニ能国シ能ハザルコト第三ハ獰猛ナル輩若シハ怜悧ノ徒ニシテ同胞カ拿テ財産ヲ遺棄シ去ルヲ二束三文ニ買ヒ受ケ又ハ偏ニ遺棄セルモノヲ盗ミ自己ノ財産ト称シ日本官憲ノ待遇如何ヨリ日本治下ニ残ラント巧ミ戦乱ノ機會ヲ利用シタルより故ニ残留セル露人ニ就キ全然日本ニ帰化シ永ク日本治下ニ安ンズル意思ナカラ借問セバ多クハ反對ニ帰国ノ望ム旨ヲ答フ以テ残留セハ右三個ノ理由ナルヲ認スルニ足ル而シテ之ヲ我領土ニ置クノ可否如何ハ世人ノ定論アリ彼等ハ元ト重罪ヲ犯シ流刑ニ處セラレタル徒ナレバ寧ロ勧誘シテモ帰国セシムルヲ得策トス其方法ハ至テ官憲ニ於テ少シク手加減ヲ加フレバ彼等ハ風俗慣習ノ異ナルヨリ自然帰国ヲ請願スルコト次ヲ賭ルヨリ明ナリ

土人アイヌモ露国民ニシテ開戦前ヨリ三百人アリシカ今氏改暑ノ調査ニ

據レバ約七百九十四人ナリト云フ尤モ東海岸「マヌエ」以北ハ未調査ニ包含セザルト云ヘバ該計數ヲ以テ土人ノ総人口トハ見做シ難シ而シテ彼等ノ往昔我治下ニ在リ尓后常ニ日本ヲ欽慕シ其支配ノ下ニ立ンコトヲ望ミタレバ此際喜ンデ帰化スベシ

「ガロケヨン」「トングス」「ギリヤク」人種ノ土着セル地方モ日本領土トナリタレド調査未ダ彼等ニ及バサレバ如何ナル観念ヲ有スルヤ知ルベカラサルモ従来ノ関係上アイヌ人ト異ナルコトナカルベシト信スルナリ

尤ニ残留露国民及異種民アイヌ人ノ戸數并ニ人口表ヲ掲ク

残留露国民及異種民アイヌ人ノ戸數并ニ人口表　明治三十八年十二月世話現在

村名	露国民戸數	アイヌ人戸數	計	露国民人口	アイヌ人々口	計
コルサコフ	二	〃	二	二二七	〃	二九
フタラヤパーゲ	一	〃	一	三	〃	三
トレーケヤパーゲ	一	〃	一	二	〃	二

5-0398
0068
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ミツリヨフカ	一	、	一	一一	、	一一
ウラジーミロフカ	一四	、	一四	七二	、	七二
ルゴウオエ	四	、	四	六	、	六
ノウオアレクサンドロフスコエ	一一	、	一一	二四	、	二四
トロイツコエ	四	、	四	六	、	六
ルウタカ	六	、	六	一七	、	一七
第一ウオスクレセンスコエ	一	、	一	七	、	七
第二ウオスクレセンスコエ	四	、	四	五	、	五
ボリショエタロエ	一二	、	一二	三六	、	三六
マーロエタコエ	四	、	四	一一	、	一一
ガルキノウラスコエ	一	一	二	三	二	五
ドブキー	四	、	四	一五	、	一五
ナイブム	、	四	四	、	二一	二一
ニコラエフスコエ	五	四	九	五	一三	一八
ロマーノフスコエ	一四	、	一四	三二	、	三二
ポクロフスコエ	五	、	五	一七	、	一七
タコエ	、	七	七	、	三三	三三
サカイハマ	、	七	七	、	四七	四七
アイ	、	四	四	、	二〇	二〇
アホーツスコエ	四	、	四	二二	、	二二
オタサン	、	八	八	、	四三	四三
セラロコ 露人村	二	、	二	七	、	七
セラロコ 土人村	、	五	五	、	三〇	三〇
マーヌエ	、	五	五	、	三〇	三〇
クスナイ	一〇	、	一〇	一三	、	一三
バイコレヤクレ		四	四	、	三〇	三〇

外務省

5-0398
0059
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

オタソ	〃	二	三	〃	二〇	二〇	
ライチンカ	〃	一	一	〃	一〇	一〇	
チライオフナイボ	〃	三	三	〃	一五	一五	
トマリオロ	〃	四	四	〃	二一	二一	
マウカ	八	二五	三三	二四	一八四	二〇八	
右各村以外ノ西海岸ノ部落	三七	七七	一一四	男人五六 女人三一 朝鮮人四六	二七五	四〇八	
合計	一五五	一六二	三一七	四七八	二九四 七九四	一、二九四	

備考　朱書二ハ各官衙ニ備ハル露人ノ員数ナリ

該調査ハ正確ヲ保シ難シ殊ニ土人ノ如キハ轉々シテ居所一定セザレバナリ

樺太島漁業假規則

樺太ニ於ケル漁業権問題ハ近来世人ニ最モ重大視セラレ殊ニ同島占領后ハ出漁ノ為メ速ニ開放セントスル者追々一時喧騒只ナラサルモノアリキ而シテ陸軍省ハ三十八年八月七日告示第十五號ヲ以テ同島漁業假規則ヲ発布シ漁業ノ根本ヲ定メ出漁者ノ基ク所ヲ知ラシム而シテ同則ニ於テ漁業ヲ許可スベキ漁場ハ露国官廳ノ公示セタル四九百三年度漁場区域表ニ掲ケタモノヲ以テ露国官廳カ長期ノ特許ヲ與ヘタルモノニ依リ其許可ハ一年毎ニ之ヲナスモノトシテ新漁場ヲ開設セサルコトヲ示シ（第二条）又漁業ヲ許可スベキ漁場中優先ノ詮議ヲ要ケサルモノハ各漁場毎ニ漁業料ヲ競争入札ニ附シ落札者ニ其漁業ヲ許可スルモノトシ又競争入札ハ漁業ニ経験アル帝国臣民ニシテ官廳軍衙ニ於テ相当ノ資格アリト認ムル者ニツキ之ヲ行フトシテ漁業ノ経験ナキ者ニハ許サルコトヲ明カニシ（第三条）漁業ヲ営マントスル者ニシテ危険ノ名號ノ一ニ該ル者ニハ官廳軍衙ハ之ニ優先ノ詮議ヲ為スコトアルベシ（二）帝国臣民ニシテ露国官廳ヨリ一定ノ漁場ニ於テ明治三十六年度ノ漁業ノ許可ヲ受ケ

タル者(三)帝国臣民ニシテ從来露国官廳ヨリ漁業ノ許可ヲ受ケタル露国人ノ漁場ヲ借リ受ケ漁業ニ関スル建物其他ノ財産ヲ現ニ該漁場ニ有スル者(三)樺太島在住露国人ニシテ從来露国官廳ヨリ漁業ノ許可ヲ受ケ現ニ該漁場ニ於テ自ラ漁業ヲ営ム者但シ第一號ニ該当スル漁場ニアキテハ此ノ限リニアラストシテ從来ノ漁業者ハ優先ノ取扱ヲ為シ引續キ営業セシムコトヲ知ラレム(第四条)而シテ第三項ハ露国人ノ権利ヲ認ムルカ如キ最モ重大ナル関係ヲ有スル箇条ナリ從来露国官廳ヨリ漁業ノ許可ヲ受ケ現ニ自ラ漁業ヲ営ム者トアリ其ニ戦争ノ最中如何ニ右兵ノ露国人タリトモ勢モ漁業ヲ営ミ能ハス假リニ其際露国人カ漁業ヲ営ムヤ中出タトセヲ軍司令官ハ之ヲ許ルシタルヤ無論軍ノ行動ニ妨碍アリトシテ之ヲ許サヽサルコト明カナリ一面ニ非戦闘員ニ便宜ヲ與ヘ避難セシメ而シテ他面ニ第四条ニ依リ漁業ノ許可ヲ受ケントスル者ハ九月五日迄ニ所轄ノ民政署ニ願書ヲ差出スベシト云ヘリ(第十八、九条)長期組借ノ漁業家デンビー、セメノフ、クラマレンコ等ハ当時避難シテ遠ク上海若クハ露都ニ在リタレバ願書提出ハ事実不可能ナリキ立法者果シテ此条項ヲ厳行スルノ意ナランニハ此箇条ヲ以テ長期組借ノ否認ヲ該告示ト同時ニ宜告セラレタリト一般ナリ

告示ハ十七条ヨリ成リ主ナル条項ハ組ホ叙上ノ如シ右規則ノ全文ヲ左ニ掲ク

陸軍省告示第十五號

樺太島漁業假規則左ノ通定ム

明治三十八年八月七日　陸軍大臣　寺内正毅

樺太島漁業假規則

第一條　樺太島ニ領中同島ニ於ケル鮭鱒及鰊ノ漁業ハ本規

5-0398
0071
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

則ニ依リ漁業ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ営ムコトヲ得
海豹島ノ海獣猟ハ之ヲ許可セザルモノトス

第二條 漁業ヲ営ムベキ場所ハ其ノ漁業ヲ許可シタル漁場ニ限ル
漁業ヲ許可スベキ漁場ハ露国官廳ノ公示シタル千九百三
年度漁場区域表ニ掲クルモノ及千八百九十九年露国官廳
カ長期ノ特許ヲ與ヘタルモノニ依リ其許可ハ一年毎ニ之ヲ為
スモノトス但明治三十八年及三十九年ノ漁業ハ一免許期
間トシテ之ヲ許可スルモノトス

第三條 漁業ヲ許可スベキ漁場ハ各漁場毎ニ漁業料ヲ競争入
札ニ附シ落札者ニ其ノ漁業ヲ許可スルモノトス其入札執
行ノ日時場所ハ管轄軍衙（樺太島ヲ管轄スル最高等司令部以下同シ）ニ於テ
之ヲ定ム
前項ノ競争入札ハ漁業ニ経験アル帝国臣民ニテ管轄
軍衙ニ於テ相當ナル資格アリト認ムル者ニ付キ之ヲ行ヒ同軍
衙ニ於テ豫定スル金額以上ノ最高額入札ヲ為スモノヲ落
札者ト定ム但シ同額ノ入札者二人以上アルトキハ抽籤ニ依リ落札
者ヲ定ム

第四條 漁業ヲ営マムトスル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該ル者ニハ管轄
軍衙ハ之ニ優先ノ詮議ヲ為スコトアルベシ
一、帝国臣民ニシテ露国官廳ヨリ一定ノ漁場ニ於テ明治三
十六年度ノ漁業ノ許可ヲ受ケタル者
二、帝国臣民ニシテ従来露国官廳ヨリ漁業ノ許可ヲ受ケタル
露国人ノ漁場ヲ借リ受ケ漁業ニ関スル建物其ノ他ノ財
産ヲ現ニ該漁場ニ有スル者
三、樺太島在住露国人ニシテ従来露国官廳ヨリ漁業ノ
許可ヲ受ケ現ニ該漁場ニ於テ自ラ漁業ヲ営ム者但シ第

5-0398
0072
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

一號ニ該当スル漁場ニツキテハ此ノ限リニアラズ

第五條 漁業ノ許可ヲ受ケントスル者ハ漁業ヲ営マムトスル漁場漁種及網數、使用漁船隻數、漁夫人員ヲ記載シ管轄軍衛ニ出願スベシ

前項ノ願主ニハ本規則第三条ニ依ル者ハ地方廳ノ調製セル營業及身元証明書本規則第四条第一号ニ依ル者ハ漁業ノ許可ヲ証スル書類及地方廳ノ調製セル身元証明書及漁業許可書同條第二號ニ依ル者ハ地方廳ノ調製セル身元証明書漁場借受契約書及漁場ニ於ケル建物其他ノ財産目録書同條第三号ニ依ル者ハ漁業ノ許可ヲ証スル書類及漁場ニ於ケル建物其他ノ財産目録書ヲ添付スル者トス漁業ノ許可ヲ証スル書類及漁場借受契約書ハ正副二通ヲ要ス

第六條 漁業ノ許可ヲ受ケタルトキハ管轄軍衛ノ定ムル所ニ依リ漁業料ヲ納付スベシ但シ競争入札ニ依リタル者ノ漁業料金ハ落札金額ニ依ル

前項漁業料ハ本規則ニ違背シ若クハ不正ノ行為アリタル為メ漁業ノ許可ヲ取消サレタル場合ト雖モ之ヲ免セラルヽコトナシ但シ軍事上ノ必要ニ依リ漁業ノ停止ヲ命スルトキハ其ノ漁業料ノ一部又ハ全部ヲ免セラルヽコトアルベシ

第七條 漁業ノ許可ハ他人ニ譲リ渡シ又ハ貸渡スルコトヲ得ス

第八條 河川ノ全部及河川ノ河口前面ノ水域ハ其ノ河口ヨリ左右海岸ニ「キロメートル」間鮭、鱒漁ヲ為スコトヲ得ス

第九條 鮭鱒及鰊漁ノ為メ使用スヘキ漁具ハ建網及刺網トス

第十條 各漁場ニ使用スル建網ハ一統ニ限ルモノトス

各漁場ニ用ウル各網間ノ左右ノ間隔ハ鮭、鱒漁ニ在リテ

5-0398
0073
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ハ二「キロメートル」ヲ超ヘル海面ニ在リテハ一「キロメートル」半ヨリ下ルコトヲ得ズ

第十一條　漁業ニ従事スル船舶ニハ特ニ許可スル場合ノ外露国人ヲ乗込マシムルコトヲ得ス

第十二條　漁業者及其使用人ハ管轄軍衙ノ許可ヲ受ケテ同島ニ於テ樹木ヲ伐採シ山林ヲ傷害スベカラズ

第十三條　漁業者及其ノ使用人ハ本規則ノ外管轄軍衙ノ定メタル規則及命令ヲ遵守スベキモノトス

第十四條　管轄軍衙ニ於テ軍事上必要ト認ムル場合ハ漁場区域ノ一部又ハ全部ニ對シ漁業ノ停止ヲ命スルコトアルベシ

第十五條　本規則ニ違背シタル者ニハ管轄軍衙ニ於テ漁業ノ許可ヲ取消スノ外軍令ニ依リ處罰スルコトアルベシ

第十六條　樺太島所在土人ニシテ土人以外ノ者ヲ使用セスト雖漁具ヲ以テ漁業ヲ為ス者ニハ本規則ヲ適用セス

第十七條　昆布採取業其他第一條以外ノ漁業ヲナサントスル者ハ前諸條ノ規定ニ依ラス管轄軍衙ノ定ムル所ニ従ヒ料金ヲ納付シテ鑑札ヲ受クベシ

附則

第十八條　本規則第四條ニ依リ漁業ノ許可ヲ受ケ得ベキ者ニシテ本年及明治三十九年漁業ニツキ出願スル者ハ本年九月五日迄ニ願書ヲ差出スヘシ

前項出願期日ハ願書ノ到着スベキ日ヲ示ス

第十九條　本規則第五條ノ願書ハ在「ルルコウフ」樺太民政署ニ差出ス者トス

漁業假規則施行ニ関シテハ軍令第二号ヲ以テ軍司令官ヨリ民政長官ニ権限ヲ授ケ尚本軍令第十号ヲ以テ仝規則ノ違反者

5-0398
0074
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

處罰方ヲ定メラレ而シテ右漁業假規則ハ鮭鱒鰊ノ漁業ヲ
大体規定シタルモノニシテ昆布採取業其他ノ漁業ヲ営マントハル者ハ
管轄軍衛ノ定ムル所ニ從ヒ料金ヲ納付シテ鑑札ヲ受クベシ（假規則
第十七條）トアルニ依リ十月三日民政長官ハ告示第四号ヲ以テ漁業
鑑札規則ヲ出シ鮭鱒鰊以外ノ漁業ヲ為サントスルモノハ本規則ニ依ラ
シメ又鑑札ヲ下付スベキ漁業ノ種類及鑑札料金ヲ定メ而シテ又十月
九日告示第五号ヲ以テ右漁業鑑札規則第三条第二項乃至第五
項ニ追加シ網類及其間數并ニ使用ノ時期、潜水器及漁船ノ數ヲ
規定セリ十月十四日告示第六号ヲ以テ漁業ノ鑑札ヲ受クベキ者ト雖モ
使用ヲ許サヽル場所ト或網使用禁制河川名ヲ告示ス本年三月
五日署令第九号ヲ以テ鑑札漁業者ト土地使用并ニ山林伐採ニ関スル
件ヲ定メ鑑札漁業者ノ住宅、納屋、海産干場、其他所要ノ
土地使用ヲ届出シメ又鑑札漁業用山林伐採ノ場所、伐採樹種
及數量（用材及薪炭材）ヲ届出シメ土地使用料金ハ一坪ニ付一漁
期間金壱錢山林伐採料金一尺メニ付用材ハ金十五銭薪材ハ一棚ニ付
金貳拾錢ヲ納付セシム本年一月三十一日マウカ支署ハ本署令第二号ウラ
ジミロフカ支署ハ二月二十日本署令第三号及本年四月十二日コルサコフ支
署令第八号ヲ以テ漁業ノ特許ヲ受ケタル者其所要ノ木材伐採及土
地使用ニ関スル件ヲ定メ何レモ用材并ニ薪材伐採場所、伐採樹木、種
類及數量ヲ届出サシム
昨年十月一日民政長官ハ告示第三号ヲ以テ陸軍有告示第十五号樺
太島漁業假規則ニ依ル漁業入札規則ヲ定メ入札ニ付スベキ漁場ノ番
號名称并ニ漁業ノ種類ヲ明ニシ殊ニ於テ曾テ從来ノ関係ヲ見シ種
々ノ陳情書ヲ陸海軍省ト外務省ニ提供セシ者如キハ一ハ絶望シ
一ハ優先ノ詮議ヲ受ベキコト明白ナルニ至リ而シテ競争ニ付セラル漁
場數東海岸ニ八十九ヶ所アリ湾内ニ二十九ヶ所西海岸ニ四十九ヶ所総

5-0398
0075
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

計百六十七ヶ所ニシテ入札ハコルサコフ樺太民政署ニ於テ之ヲ行ヒ而シテ十月十八日ヨリ之ヲ開始スルコトヽシ十月一日軍令第十八号ヲ以テ落札漁場ノ建物其他財産取締規則ヲ定メ尚ホ又告示第九號ヲ以テ右軍令第十八号落札漁場ノ建物其他財産取締規則第二条ノ漁期開始期日ヲ定ム

入札当時ノ光景ハ軍ニ競争入札ニ参加セントテ渡樺セシ者數千ヲ以テ算シタレバ民政署ノ混雜云ハン方ナシ而シテ其附近ニ諸商人飯時ニ小屋ヲ掛ケ入札者ヲ相手ニ各種ノ庶ヲ開キタリ烟草ヲ鬻クアリ休憩所アリ其内多キヲ占ムル各種ノ飲食店ニシテ一時ノ殷賑宛モ何等祭日ノ如キ観アリキ又機先ヲ制シ内地ヨリ家屋ヲ切リ組ミ来リ建設セル旅館樺太館、陸奥館、日の丸館ノ如キ旅客ニテ満員トナリ又入札ノ為メ渡来セシ者ハ巨金ヲ携ヘコヽニ入札ニ失敗シタリトテ料理屋又見世ニ通リ落札セシヤ是モ料理屋ト云フ如キ勢ニテ到ル處ノ料理屋非常ニ繁昌シ競争入札ハ樺太ニ於テ実ニ一時繁盛ノ大波瀾ヲ生セリ

優先詮議ノ漁業者　落札ノ漁業者

十月十八日ヨリ民政署ニ於テ數日間施行アリタル漁場ノ入札ハ意外ニ競争甚シク入札勝定價格ノ三倍ヤ五倍ニ達シタルノミナラズ殆ンド底止スル所ナク為メニ渡航者中一部ノ者ハ呆然為ス所ヲ知ラズ拱手シテ傍観ノ態度ヲ取リ今其一例ヲ示セハ西海岸第一八五号「ラクマカ」漁場ノ如キ勝定價格ハ千三百十円ナリシカ二萬千円ニ落札セリ以テ競争ハ如何ニ激甚ナリシカヲ推スニ足ル尤ニ特許漁場使用船舶人員及漁業料額特許者ノ氏名一覧表ヲ掲ノ表中特許理由欄内ニ優先ノ詮議ヲ受タル従来ノ農業者ナリ又漁業料額欄内ニ示スモノハ入札者ニ在リテハ落札額ニシテ優先ノ詮議ヲ受ケタル者ハ勝定額ト同一ナリ

5-0398
0076
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

特許漁場使用船舶人員及漁業料額及特許者氏名一覧表

海區別	漁場番号	漁場ノ名称	漁業種類	特許理由	使用員数	僱船體數	漁業料額	入札該当額	漁業者氏名
東海岸	一	ナイブト	鮭鱒	特許	三〇	六	二一〇円	二〇二円	本山謙治
	二	ノトノワ	鮭鱒	〃	三〇	三	三二〇	二四八	石垣儀助
	三	トードヲ	鮭鱒	〃	六〇	一〇	三三〇	二〇二	石塚石五郎
	四	コヌワオ	鮭鱒	〃	一五	四	二〇六	二〇六	石川イチ
	五	ヤンケナイ	鮭鱒	〃	五〇	五	四七七	一九四	中田善八
	六	ジムタキ	鮭鱒	〃	五〇	五	四七七	二五五	中田善八
	七	無名	鮭鱒	〃	五〇	五	七七七	三〇七	中田善八
	八	ヤンケオチヨボント	鮭鱒	〃	一五	四	三六三	三六三	笹野榮吉
	九	ヤンケバナワキ	鮭鱒	〃	一五	四	三六三	三六三	笹野榮吉

5-0398
0077
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

一〇	トーケシマナイ	鮭、鱒	優	一五	四	二四四	二四四	笹野榮吉
一一	ヌロート第一號	鮭、鱒	優	一五	四	三三八	三三八	笹野榮吉
一二	トウアムピーニ	鮭、鱒	優	一五	四	三六五	三六五	笹野榮吉
一三	タライカ第十三号	鮭、鱒	優	二五	四	四一一	四一一	鈴木甚七
一四	タライカ第十一号	鮭、鱒	優	二〇	四	四五八	四五八	木田長右エ門
一五	タライカ第九号	鮭、鱒	優	二五	四	四八五	四八五	木田長右エ門
一六	タライカ第七号	鮭、鱒	優	二五	四	四八七	四八七	木田長右エ門
一七	タライカ第五号	鮭、鱒	優	二五	四	五一〇	五一〇	木田長右エ門
一八	タライカ第三号	鮭、鱒	優	二五	四	五八九	五八九	木田長右エ門
一九	タランゴタン第六号	鮭、鱒	優	二〇	五	七一一	七一一	石川イチ
二〇	タランコタン第四号	鮭、鱒	優	二〇	四	六五六	六五六	有田清五郎
二一	ソレクコタン	入札ニ付セズ						
二二	エホロコフナイ第二号	鮭、鱒	入	五〇	九	八九二	八九二	高田弥助
二三	エホロコフナイ第四号	鮭、鱒	入	三〇	六	五五六〇	八九二	屋形六郎兵衛
二四	エホロコフナイ第六号	鮭、鱒	入	三〇	四	五八五〇	八九二	岩林伊三郎
二五	ナヨロ第二号	鮭、鱒	優	三〇	七	八四九	八四九	永野弥平
二六	ナヨロ第四号	鮭、鱒	優	三〇	七	七四九	七四九	永野弥平
二七	ナヨロ第六号	鮭、鱒	優	三〇	七	七五九	七五九	永野弥平
二八	ウネトシナイ	鮭、鱒	優	三〇	四	五〇六	五〇六	西村利光
二九	クチヤウシナイ	鮭、鱒	優	二五	五	四六一	四六一	林寅吉
三〇	ハニウシコツナイ	鮭、鱒	優	二五	五	三四〇	三四〇	林寅吉
三一	チヤクレコタン	鮭、鱒	優	二〇	四	三六四	三六四	石川イチ
三二	トエクシ	鮭、鱒	優	一五	四	三二七	三二七	岡田傳吉
三三	無名	鮭、鱒	優	一五	四	二八一	二八一	岡田傳吉
三四	無名	鮭、鱒	優	一五	四	三三八	三三八	角野梅吉郎
三五	アイハカナイボ	鮭、鱒	優	二五	五	二四四	二四四	林寅吉

5-0398

0078

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第一番札

三六	モサフコタン	鮭鱒	優	二五	五	二一〇	二一〇	林寅吉
三七	サフコタン	鮭鱒	優	二五	四	二六二	二六二	小熊幸治郎
三八	イソウシナイ	鮭鱒	優	二五	五	二八三	二八三	子熊幸治郎
三九	チヤカマウシナイ	鮭鱒	入	二〇	四	三七七	二〇一	林寅吉
四〇	ソーマナイ、オタニウス	鮭鱒	優	二〇	三	二九八	二九八	有田清五郎
四一	ヤンケナイ	鮭鱒	優	一五	三	二三九	二三九	内山吉太
四二	無名	鮭鱒	入	三〇	七	二五〇	二三九	澤田信五
四三	レブシケナイ	鮭鱒	入	三〇	七	二五〇	二三九	澤田信五
四四	ポロナイボ	鮭鱒鰊	入	三〇		五二五	二三九	白川右左郎
四五	クワマル	鮭鱒鰊	優	一五	七	三二八	三二八	内山吉左
四六	ソーヤ	鮭鱒鰊	優	四五	八	五六六	五六六	内山吉太
四七	アカラ	鮭鱒鰊	優	五〇	一〇	八一九	八一九	内山吉太
四八	ブレチシ	鮭鱒鰊	優	八〇	一二	七七一	七七一	内山吉太

四九	ウヤンケ	鮭鱒鰊	優	八〇	一二	七三六	七三六	内山吉太
五〇	ノボリポ 第一号	鮭鱒鰊	優	八〇	一二	八三二	八三二	内山吉太
五一	ノボリポ 第二号	鮭鱒鰊	優	八〇	一二	九〇二	九〇二	内山吉太
五二	ペケ	鮭鱒鰊	優	二五	七	三八一	三八一	内山吉太
五三	ソヨンコタン	鮭鱒鰊	優	三五	八	四〇五	四〇五	内山吉太
五四	ワーレ	鮭鱒鰊	優	五〇	一〇	一八二一	一八二一	笹野榮吉
五五	無名	鮭鱒鰊	優	二〇	七	四一二	四一二	笹野榮吉
五六	マトマナイ	鮭鱒鰊	入	四五	八	一七六九	五三五	赤坂市三郎
五七	イタタクスナイ 第二号	鮭鱒鰊	入	四五	八	二二七九	四九六	赤坂市三郎
五八	ピアルイサン	鮭鱒鰊	入	五〇	一〇	三三三三	六八二	高田弦助
五九	ホロナ	鮭鱒	優	三〇	六	三三八	三三八	山本巳之助
六〇	シユマヤ	鱒鰊	優	四〇	八	六三一	六三一	山本巳之助
六一	ランペドマリ	鮭鱒鰊	優	五〇	一八	四七〇	四七〇	若山政左郎

5-0398

0079

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第二番札

五九	サワサジ	鮭、鱒、鰊	優	六〇	一〇	六三七	山本巳之助
六〇	ヲソイコチ	鮭、鱒、鰊	入	四五	八	一七五九	三八八	赤坂市三郎
六一	ヱンルンコマナイ	鮭、鱒、鰊	入	五〇	七	一三五〇	四四六	高橋清吉
六二	シヨーウンナイ	鮭、鱒、鰊	入	四〇	九	一五二五	二五四	大石精一
六二イ	ルホントイリ	鮭、鱒、鰊	入	五〇	七	一三五五	三〇〇	佐藤栄右エ門
六三	モイレトマリ	鮭、鱒、鰊	優	三五	六	一三五一	三五一	若山政七郎
六四	モイレトマリ 第二号	鮭、鱒、鰊	優	二〇	七	五二五	五二五	笹野榮吉
六五	無名	鮭、鱒、鰊	入	四五	八	一三八二	四〇〇	赤坂市三郎
六五イ	スツウレ	鮭、鱒、鰊	入	五〇	九	一八五五	四〇〇	澤木祐吉
六六	ウタダクスナイ	鮭、鱒、鰊	入	四〇	一〇	二八九五	四九七	大島重一郎
六七	トンナイチヤ	鱒、鰊	優	三〇	七	四五九	四三九	佐々木平次郎
六八	ノーボロ	鮭、鱒、鰊	優	三〇	六	四二四	四二四	佐々木平次郎
六九	イクニ	鮭、鱒、鰊	入	五〇	一〇	五五五	一八二	石塚右五郎

第三番札

七〇	無名	鮭、鱒、鰊	入	八二	一四	二一八	一九一	仙石鐵五郎
七一	無名	鱒、鰊	優	一五	三	二〇三	二〇三	佐々木平次郎
七二	無名	鮭、鱒、鰊	入	三五	一〇	八〇〇	一七六	折原倉吉
七三	無名	鮭、鱒、鰊	入	三〇	五	一八二	一八二	西富三郎
七四	トーボロ	鱒	優	一五	三	一五〇	一五〇	佐々木平次郎
七五	アベラサニ	鮭、鱒	優	一五	四	一九九	一九九	相原昇
七六	ポロトマリ	鮭、鱒、鰊	優	三五	一三	四九一	四九一	相原昇
七七	ヤンケンルン	鮭、鱒、鰊	優	二五	八	二五九	二五九	相原昇
七八	ハートレ	鮭、鱒、鰊	再入札ニ付シタルモ入札者ナシ					
七九	トヨマイ	鮭、鱒、鰊	再入札ニ付ヒメンモ入札者ナシ					
八〇	カモエクシ	鮭、鱒、鰊	入	三〇	一〇	三〇五	一四八	折原倉吉
八一	ヲヤクチ	鮭、鱒、鰊	入	三〇	七	一八一	一六三	澤田信五
八二	ヤンケナイ	鮭、鱒、鰊	入	三〇	七	一八一	一二三	澤田信五

5-0398

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

アニワ湾

八三	ミナベワ 第一号	鮭鱒鰊	入	三〇	七	一七五	一五〇	齊藤兵衛
八四	ミナベワ 第二号	鮭鱒鰊	入	三〇	七	四一一	一九九	杜寅吉
八五	レセエワカ	鮭鱒鰊	入	四五	一〇	四七八	一四六	柏谷孫太郎
八六	チレナイ	鮭鱒鰊	入	三五	五	四一〇	一六〇	佐藤清四郎
八七	ホレポタナイ	鮭鱒鰊	入	二五	五	二五九	一五〇	畑井多市
八八	エサウエンカ	鮭鱒鰊	入	二九	一〇	一七七	一五七	畑井又市
八九	チポツペ	鮭鱒鰊	再入れに付セスもの入れ者アリ					
九〇	ムラモルヌイ岬 第一号	鮭鱒鰊	入	三〇	七	一五一	一一〇	澤田信五
九一	ムラモルヌイ岬 第二号	鮭鱒鰊	入	五〇	六	三二五	一一〇	瀧澤千代吉
九二	サツトポ	鮭鱒鰊	入	三〇	六	二一〇	二一〇	齊藤兵衛
九三	ヨマンベツマーケイ	鮭鱒鰊	入	七〇	七	三五〇	一一〇	千引長松
九四	トマリ	鮭鱒鰊	入	四八	一五	四八八	一〇九	鍋谷常吉
九五	フレフマ	鮭鱒鰊	入	二〇	五	三八八	一九三	濱田長次郎
九六	モシリ	鮭	入	二〇	五	三八八	一九三	濱田長次郎
九七	コチヨベツ	鱒鰊	優	一二	四	一五九	一五九	村上祐兵
九八	無名	鮭鱒鰊	入	六五	一二	五〇七	一四五	桐木國太郎
九九	ノオラナイ	鮭鱒鰊	入	四〇	八	三一七	九六	齊藤兵衛
一〇〇	無名	鮭鱒鰊	入	五〇	八	六〇〇	八九	村川善四郎
一〇一	無名	鮭鱒鰊	入	四〇	七	二一〇	八九	山田清太郎
一〇二	ナイトモ	鱒鰊	優	一二	三	一一二	一一二	村上祐兵
一〇三	ホラプニ	鱒鰊	優	一五	四	一五三	一五三	村上祐兵
一〇四	チビサニ	鱒鰊	優	五〇	一〇	五〇七	九〇七	岡田八十次
一〇五	カヌトムケーガーメニ	鮭	優	三〇	八	五八八	五八八	村上祐兵
一〇六	カマトマリ	鰊	優	三〇	八	四七六	四七六	岡田八十次
一〇七	オコバチ		入れに付セス					
一〇八	エガンキナ、レトチカ	鰊	優	四〇	七	四二七	四二七	吉松久雄

0081
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

一〇九	ベーハイカーメニ	鰊	優	三〇	六〇	四九〇	四九〇 佐々木平次郎
二一〇	無名		入れと付セズ				
二一二	オタイレンカ	鰊	優	四〇	七〇	五七〇	五七〇 田中武兵衛
一一二	メレースキーきスト	鰊	優	八〇	八〇	七三七	七三七 小倉基
一一三	アルチんレリー、スカヤ、パーゲ	鰊	優	四〇	七〇	六九四	六九四 田中武兵衛
一一四	ウエラドスカヤパーゲ		入れと付セズ				
一一五	サウサナパーゲ	鰊	大	六〇	一〇	一一六八八	八九五 前田雄之助
二一六	ウオドパード		入れと付セズ				
一一七	プロウイアレトスキー、パコース	鰊	優	三五	六	六五五	六五五 田中武兵衛
二一八	無名	鰊	優	六〇	二〇	五九五	五九五 西原林次郎
二一九	ポロアレトマリ 第二号		入れと付セズ				
二二〇	仝 第三号		入れと付セズ				
二二一	ラクーシエチヌイ		入れと付セズ				

第二番札

二二二	カラシンゲンヌイ		入れと付セズ				
二二三	マヤチヌイ		入れと付セズ				
二二三	ペルワヤ、パーゲ	鰊、鱈、鰊	大	七〇	一四	八八五〇	九五八 荒井孝作
二二四	フタラヤ、パーゲ		入れと付セズ				
二二四	ナ、グベ	鰊、鱈、鰊	大	五〇	九	八五〇	一五四 山田竹次郎
二二五	ナ、グベ	鰊、鱈、鰊	大	七〇	一一	五一三	一三〇 山田小三郎
二二六	グバ 第二号	鰊、鱈、鰊	大	二〇	七	五八五	一三〇 北海産業合資会社
二二七	グバ 第一号		入れと付セズ				
二二八	無名	鱈	優	一五	三	一二三七	一二三七 佐々木平次郎
二二九	リラ	鰊、鱈、鰊	優	一五	四	二一〇	二一〇 米田六四郎
二三〇	タナ、イ	鰊	大	七五	七	一四七〇	二八四 荒田大吉
二三一	ピフルナイ	鰊、鱈、鰊	優	一五	四	二三三	二三三 末田六四郎
二三二	ポロナイホ	鰊、鱈、鰊	優	一五	四	二二九	二二九 米田六四郎

5-0398

0082

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第二番札

一三三	シブナイ	鮭、鱒、鰊	優	一五	四	二〇四	米田六四郎
一三四	パーチンスカヤ、レーチカ	鮭、鱒、鰊	優	一五	四	二二一	米田六四郎
一三五	ウリウム	鰊	入	四〇	七	八七〇	一六三	永井勇三郎
一三六	モンビヤナイ	鱒	優	二五	四	一七九	一七九	西原林次郎
一三七	ペストロ	鮭、鱒、鰊	入	六九	一三	五七七	一二八	吉田榮吉
一三七イ	マクレムキナ、レーチカ	鮭、鱒、鰊	入	四五	九	三二〇	一二八	藤田清八
一三八	ドロカウ	鱒、鰊	優	二五	七	一四一	一四一	岡田八十次
一三九	トマリヲンナイ	鱒、鰊	優	三〇	七	一二八	一二八	岡田八十次
一四〇	トヨクレ	鰊	優	八〇	一二	四六一	四六一	齊藤久五郎
一四〇イ	無名	鮭	入	七〇	八	五一七〇	四六一	中谷市左郎
一四一	オーホイ	鮭	優	三〇	七	三四二	三四二	岡田八十次
一四二	ブーチ	鰊	入	七〇	一四	三九九〇	四六〇	荒井幸作
一四三	リヤトマリ	鰊	入	九〇	一八	三八八〇	四六〇	古川房造

第三番札

一四四	ナイチヤ	鰊	優	三〇	七	四六七	四六七	岡田八十次
一四五	モワナイ	鮭、鱒、鰊	入	六五	一三	四一五	二四二	相木国太郎
一四六	モゴチ		入れ二付セズ				
一四七	ライトマリ	鮭、鱒、鰊	優	四〇	八	四二六	四二六	内山吉太
一四八	モゴツイ	鰊	入	四五	八	六一八	二一〇	山崎善造
一四九	ノボリ	鮭、鱒、鰊	入	二五	一五	二一一	二一〇	成田伊三郎
一五〇	チーシー（エサン）	鮭、鱒、鰊	入	八〇	八	一九八五	三四四	中谷市左郎
一五一	ビシヤサン	鮭、鱒、鰊	入	五〇	六	一〇一五	三六七	佐藤久之助
一五二	無名		入れ二付セズ				
一五三	無名	鮭、鱒、鰊	入	四〇	五	六一八	二〇六	松本直太
一五四	無名	鮭、鱒、鰊	優	四〇	八	三九九	三九九	小林榮次郎
一五五	無名	鮭、鱒、鰊	入	三〇	六	三三六	一五〇	赤坂市三郎
一五六	シラヌシ第一号	鮭、鱒、鰊	入	五〇	一二	一八〇	一七二	本間勘次郎

西海岸

0083
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

一五七	シラヌシ 第二号	鮭鱒鰊	入	五〇	一二	一八五	一七二	本間勘次郎
一五八	ペストマナイ	鰊	入	五〇	一二	二六六	一七二	本間勘次郎
一五九	ソーニ	鰊	入	五〇	一二	三〇六	一八三	本間勘次郎
一六〇	ウインゲス	鮭鱒鰊	入	三五	八	九一二	一七三	泉谷力藏
一六一	モシラルシナイ	鮭鱒鰊	優	三〇	八	七六八	七六八	柳谷助市
一六二	シブシナイボ	鮭鱒鰊	優	三五	九	四九九	四九九	石川イチ
一六三	ウ井ニ	鱒鰊	優	二五	六	三九三	三九三	柳谷助市
一六四	ナイボロ	鮭鱒鰊	優	三五	九	七九三	七九三	柳谷助市
一六五	ケヌレナイボ	鱒鰊	優	二〇	六	三一一	三一一	柳谷助市
一六六	トコンボ	鮭鱒鰊	入	三〇	九	五一六三	七八九	中塚常作
一六七	ホレドケシ	鮭鱒鰊	入	六二	一〇	五五七七	五七七	金子元三郎
一六八	トーブシ	鰊	優	四〇	七	七二三	七二三	田中武兵衛
一六九	オコ	鰊	優	八〇	一二	一〇六四	一〇六四	内山吉太

一七〇	オハトマリ	鰊	入	六〇	一五	六九七八	八七九	金澤友次郎
一七一	トマリポチシ	鮭鱒鰊	入	六〇	九	四三四五	九九二	藤山要吉
一七二	ピロウエ	鮭鱒鰊	入	六〇	一〇	六一九五	九三九	前田雄之助
一七三	テモトマリ		入れと付セズ					
一七四	アキブシ	鮭鱒鰊	入	四五	一四	六五〇三	八〇七	中塚金十郎
一七五	トマヽナイ	鰊	入	三五	一一	五八二三	九七六	花田勵三
一七六	テーヤ	鮭鱒鰊	入	一四〇	一八	一二五五〇	一〇五六	三井澤藏
一七七	ポントマリ	鮭鱒鰊	入	八〇	一一	六六六六	一〇三五	種田銀作
一七八	マウカ		入れと付セズ					
一七九	アラクワイ	鮭鱒鰊	入	二〇	一五	八八八八	一〇五〇	金澤友次郎
一八〇	クメクマイ		入れと付セズ					
一八一	ウエレトマリ	鮭鱒鰊	入	八〇	一三	九九八五	一〇四二	種田幸右エ門
一八二	チシナイボ		入れと付セズ					

5-0398

0084

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第一番札

一八三	ポロトマリ	鮭鱒鰊	入	七〇	一四	一五六〇〇
一八四	ポシコタン	鮭鱒鰊	入	四〇	一四	一二一七
一八五	ラクマカ	鮭鱒鰊	入	七〇	一四	八五七七
一八六	スマルヒトマリ		入札ニ付セズ			八八九
一八七	トマリボ	鮭鱒鰊	入	八〇	一三	一五七三〇
一八八	ウラシトマリ		入札ニ付セズ			一〇八五
一八九	トナイキシ	鮭鱒鰊	入	六〇	一二	一〇五七八
一九〇	トコタシ	鮭鱒鰊	入	七〇	一四	一四七八七
一九〇イ	モシラシボ		入札ニ付セズ			一〇九七
一九一	ウーヤナイボ	鮭鱒鰊	優	七〇	一六	一三〇八
一九一イ	オコナイボ	鮭鱒鰊	入	五〇	九	九〇二七
一九二	アブマイ	鮭鱒鰊	優	五〇	一三	九〇六
一九二イ	無名	鮭鱒鰊	入	七〇	一〇	一〇〇〇

一九二	モラドケレ	鮭鱒鰊	諸札者第二番札者第三番札者要權シタルニ付特許セズ			
一九三	ピロトロナイボ	鰊	優	一〇〇	二四	一五三九
一九四	バイコサクシ	鰊	入	六〇	九	一三一三五
一九五	クラシナイボ	鰊	優	一〇〇	二四	二三〇一
一九六	ビタレンルン	鮭鱒鰊	優	一〇〇	二〇	一五六六
一九七	オシキナイボ	鮭鱒鰊	優	一〇〇	一九	一八二九〇
一九八	アラコイ	鮭鱒鰊	優	九〇	一五	一七一一
一九九	ハウパスシ		入札ニ付セズ			
二〇〇	グアマナイボ	鱒鰊	優	九〇	一五	一二六八
二〇一	チイカイナイボ	鮭鱒鰊	優	一〇〇	二八	一三三九
二〇一イ	無名	鮭鱒鰊	入	六五	一〇	八八八八
二〇二	ウシス	鮭鱒鰊	優	七〇	一四	九五九
二〇三	チトカペスポ	鰊	優	五〇	九	一三四五

一八三	荒井幸作	鮭鱒鰊	入	七〇	一四	一五六〇〇
一八四	中塚金十郎	鮭鱒鰊	入	四〇	一四	一二一七
一八五	赤井幾蔵	鮭鱒鰊	入	七〇	一四	八五七七
一八六			入札ニ付セズ			八八九
一八七	山田竹次郎	鮭鱒鰊	入	八〇	一三	一五七三〇
一八八			入札ニ付セズ			一〇八五
一八九	堀谷八左郎	鮭鱒鰊	入	六〇	一二	一〇五七八
一九〇	堀谷八左郎	鮭鱒鰊	入	七〇	一四	一四七八七
一九〇イ			入札ニ付セズ			一〇九七
一九一	桂久藏	鮭鱒鰊	優	七〇	一六	一三〇八
一九一イ	大森源四郎	鮭鱒鰊	入	五〇	九	九〇二七
一九二	桂久藏	鮭鱒鰊	優	五〇	一三	九〇六
一九二イ	谷徳左郎	鮭鱒鰊	入	七〇	一〇	一〇〇〇

一九二	小林栄次郎	鮭鱒鰊	諸札者第二番札者第三番札者要權シタルニ付特許セズ			
一九三	小林栄次郎	鰊	優	一〇〇	二四	一五三九
一九四	藤山要吉	鰊	入	六〇	九	一三一三五
一九五	小林栄次郎	鰊	優	一〇〇	二四	二三〇一
一九六	桂久藏	鮭鱒鰊	優	一〇〇	二〇	一五六六
一九七	桂久藏	鮭鱒鰊	優	一〇〇	一九	一八二九〇
一九八	米林伊三郎	鮭鱒鰊	優	九〇	一五	一七一一
一九九			入札ニ付セズ			
二〇〇	米林伊三郎	鱒鰊	優	九〇	一五	一二六八
二〇一	大内兵吉郎	鮭鱒鰊	優	一〇〇	二八	一三三九
二〇一イ	高木金作	鮭鱒鰊	入	六五	一〇	八八八八
二〇二	宮島鎗八	鮭鱒鰊	優	七〇	一四	九五九
二〇三	忠谷久五郎	鮭鱒鰊	優	五〇	九	一三四五

5-0398

0085

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

第一番札

二〇四	オロンベントマリ	鰊	優	五〇	九〇	一三二七	一三二七	志谷久五郎
二〇五	トマナイ			入札ニ付セズ				
二〇六	ピスポニ	鰊	優	七〇	一六	一八二八	一八二八	品田康造
二〇七	ピスポナイボ 第一号	鰊	優	七〇	一六	一四六一	一四六一	品田康造
二〇八	ピスポナイボ 第二号	鰊	優	一〇〇	一〇	一六五六	一六五六	山田多吉
二〇九	トマリオロ			入札ニ付セズ				
二一〇	トマリポー	鰊	入	六五	一〇	一三四七七	九一六	佐藤松太郎
二一一	オソイコトマリ	鰊	入				第三番札者迄棄權ニタルニ付特許セズ	
二一二	エベケレルン	鰊	優	八〇	一五	九四七	九四七	宮島鎗八
二一三	チヨホマナイブ	鰊	入	六〇	九	一五三四〇	八六七	藤山要吉
二一四	シラヽオロ	鰊	入	六〇	九	一八三六	一二六三	藤山要吉
二一五	コミサラロ	鰊	入	二〇	九	一九一四六	九九六	藤山要吉
二一六	バイカシヤクシ 第一号	鰊	優	一二〇	一八	一二九六	一二九六	米林伊三郎

第二番札

第三番札

第三番札

二一七	バイカシヤクシ 第二号	鰊	優	九〇	一五	一一三〇	一一三〇	米林伊三郎
二一八	バイカシヤクシ 第三号	鰊	優	九〇	一五	一一七九	一一七九	米林伊三郎
二一九	オコナイボ	鰊	優	九〇	一五	一一五八	一一五八	米林伊三郎
二二〇	ニヲイ	鰊	入	七五	一二	七八六〇	九四九	森萬作
二二一	ウストマナイ	鰊	入	八〇	一二	一六三〇	一一八七	米林伊三郎
二二二	ウシロ	鰊	入	五〇	七	八五七七	八〇〇	村上豊作
二二三	ヱクシトマリ	鰊	入	八〇	一二	八三五六	八〇二	相阜日升
二二四	オロケシ	鰊	入	五〇	七	七八〇〇	七七九	川村茂資
二二四	モテクナイボ	鰊、鱒、鰊	入	八〇	八	六二〇五	七七九	花本喜代太郎
二二四	無名	鮭、鱒、鰊	入	四五	九	六五〇〇	七七九	佐藤要助
二二五	オキト	鰊	入	六〇	九	四五〇〇	七七九	佐藤要助
二二六	トロ	鰊	入	五〇	一〇	五九〇〇	七七九	中山說七郎
二二七	モエトチナイ	鰊	入	五〇	一〇	五九五〇	七七九	中山說七郎

5-0398
0086
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

明治三十八年十一月二十五日以後鮭鱒、鰊漁業特許一覽表

漁場番号	漁場名称	豫定金額	入札順位	漁業料額	漁業特許者住所	漁業特許者氏名	備考
六六	イタダクスナイ	四九七	第二番札	二、八九五	北海道檜山郡	大島重一郎	落札者佃野良吉臺權ス
一二三	ペルヤ、パーゲ	九五八	仝	八八五〇	仝 南志郡	荒井幸作	落札者他田金作臺權ス
一四〇イ	無名	四六一	仝	五一七〇	石川縣石川郡	中谷市太郎	落札者池田金作臺權ス
二一四	ミララオロ	一、一六三	仝	一八、二一六	北海道下檜山郡	藤山要吉	落札者近江谷由五郎臺權ス
二二〇	ニラライ	九四九	第三番札	七、八六〇	仝 函館区	森萬作	落札者川森安之助及矛番札者高田雄三郎共ニ臺權
合計	五箇所	四〇二八		四二、九九一		五人	

二二八	イトナイ	鰊	入	七二	一〇	七、二一一	七七九	新谷篤次郎			
二二九	チオナイ	鰊	入	五〇	九	六、六六一	七七九	飯田清次郎			
二三〇	モロ、チ	鰊	入	五〇	九	七、七七七	七七九	竹内吉四郎			
二三一	ナヤシ	鰊	入	五〇	九	八八八八	七七九	竹内吉四郎			
二三二	ムナイ	鰊	入	六〇	一〇	四四三八	七七九	前田雄之助			
二三三	チロック	鰊	入	六〇	一〇	四三六八	七七九	前田雄之助			
二三四	ソコライ	鰊	入	六〇	一〇	六三八九	七七九	前田雄之助			
二三五	サト		入札ニ付セズ								
二三六	サット		入札ニ付セズ								
合計				一〇、一九三	一、九一八	五四七九四八	一三〇三六	一〇一人			
備考（優先權漁業料額ハ豫定價額ト見做セリ）					優先權漁業料額 落札漁業料額	九五九七五 四八一九七五	豫定價額 五八〇六三				

5-0398

0087

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

明治三十八年十月二十五日以後特許ヲ受フベキ見込ノモノニシテ

第三番札有迫棄権シタル為メ特許ヲ為サヽル漁場

第一丸二号ロモラドクレ　鮭、鱒、鰊

5-0398

0088

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

漁業鑑札ノ下付者

漁場落札者以外ノ者ハ何等ノ為ス所ナク失望ノ余既還セシカト云フニ否彼等ノ多クハ翻テ漁業鑑札ノ下付ヲ出願スルニ至リ其數漸ク多キヲ加ヘ昨年十二月末マテニ水産部ヨリ下附シタル數ハ七百四十四人然ルニ其后陸續出願者アリ本年漁期開始マテハ幾ンド二千名ノ多キニ及ベリ雑漁者ハ往々同一ノ沖合又ハ海岸ニ土地ノ使用ヲ願出ル者アリ互ニ衝突ヲ来ス虞アルヲ以テ水産部ニ於テハ内規トシテ同一ノ場所ニ二十名以上ヲ許サルコトヽ為セリ尤モ実際ニ於テ干場若クハ餐之ノ繫留ニ多少紛議ヲ起シ居ルモノヽ如シ右雑漁出願者ヽ如キ漁業ノ種類カ左ニ掲ル雑漁業鑑札下付者ノ數及府縣別表ニ已表シアレバ就テ見ルベシ

雑漁業鑑札下付者及府縣別表　明治元年十二月調査

府縣別	業種	捕鯨業	貝類採取業	海藻採取業	鰹漁業	大敷網漁業	潜水器漁業	手繰網漁業	打瀬網漁業	鰯漁業	揖網業	新漁業	計
北海道		一	一〇三	九	一七六	八	六	三九	五	一三	一七	一〇七	四八四
青森縣			一八		三七	三	二	一一	一	二	四	二二	一〇〇
富山縣			五	一	一〇	一		一			二	二	二二
秋田縣			三		九						二	一〇	二四
静岡縣			一		一			一			一	一	五
石川縣			五	一	三	一		二		一	二	六	二一
兵庫縣			二		三			三				一	九
東京市			三		一	一							五
大坂市			一							一			二
德島縣			一		一								三
宮城縣			一		一							二	四
鳥取縣					二							三	七

府縣別	業種	捕鯨業	貝類採取業	海藻採取業	鰹漁業	大敷網漁業	潜水器漁業	手繰網漁業	打瀬網漁業	鰯漁業	揖網業	新漁業	計
鹿兒島縣													三
福井縣			一		四			二				一	八
山口縣		一	一		一								三
福島縣			一									二	三
三重縣			一		四								五
愛知縣			一		二								三
岩手縣				一			一	一					五
千葉縣				一	二								四
山形縣					六					二			八
新潟縣					六			一				二	九
島根縣					一								一
茨城縣					一								一
岡山縣					一								三

5-0398
0090
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

香川縣													
長野縣													
計	二	一五〇	一三	二七三	一五	一〇	六二	六	二〇	二七	一六六	一	一
											一四四	一	一

又特許漁業者ノ數ハ前記ノ如ク百一人ニシテ其漁場ニ於テ使用セル船舶及人員數并ニ雜漁者七百四十四人（調査ニ依ル）ノ使用スル船隻數ト漁夫人員トヲ加算スレバ船隻ニ於テ実ニ三千〇二十隻漁夫ハ一萬七千〇二人ニシテ露領時代ニ比シ二倍強ノ多キニ達セリ注意ヲ惹クノ値アリ特計漁場ノ使用船舶及人員數ハ前記ノ表中ニ示セヲ以テ今茲ニ雜漁者ノ分ノミヲ掲ク

漁業鑑札下付有使用船數及漁夫數一覽表　明治九年十二月調査

漁業ノ種類	船數	漁夫數
捕鯨業	四七	五六〇
昆布採取業	一五三	六三一
海鼠漁業	一三	三三
鱈漁業	五一九	三六六五
大鮮漁業	二三	一四七
潜水器漁業	一六	一二三
手繰網及打瀬網漁業	七六	四四〇
鰈漁業	二六	一二六
採貝業	三一	一一三
雜漁業	一九八	九七一
計	一、一〇二	六、八〇九

今ヤ樺太ハ我領土ト為リタレバ出漁者ハ事令第十七号ノ規定ヲ守リ民政署ニ届出ノ為セハ漁場ニ名目直航ノ許ス依リ本年漁期開始以来何程実際ニ出漁シタルヤハ未タ精確ニ調査スルコトヲ得ス然レ共雜漁者ハ実際出願シタル者ニシテ出稼セシヤ疑ナキ能ハズ水産部ハ斯ル多數ノ雜

5-0398
0091
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

漁出願者アリトハ当初豫期セザリシコトニテ漁業鑑札規則ニ於テ制限ナキ以上ハ中途ヨリ之ヲ改正スルヲ得ズ故ニ規定ニ抵觸セザル限リ願ノ伏名沿岸ニ之ヲ許可セリ思フニ雜漁出願者モ裏面ニ種々ノ計畫ヲ有シタルコト明カニシテ名義ハ雜漁業、鰈漁業、手繰網漁業、打瀬網漁業ト称スモ其実禁令ノ時期前即鰊時期ヨリ着手シ肥料ヲ製造セント欲スニアル コト瞭然タリ然ラバ軍令又ハ告示、署令ヲ通当ニ解釋シ之ヲ守ラシニハ決シテ利益ヲ得ベキ筈ナシ殊ニマウカ文署ハ署令第五號ヲ以テ拾七鰊ノ嚴禁シコレサコフ文署ハ署令第九号ヲ以テ特許漁業者ニアラザレバ鰊ノ以テ肥料ヲ製造スルコトヲ得ズト禁シタルニ於テ尚ホ然リ本年雜漁家中鱈釣リ業其他二三ノ業ヲ除キ収支相償ヒシト云ヘバ恐ラク監視ノ監督未ダ届カザルヲ奇貨トシ不法行為ヲ逞フセシモノニアラザルカ要スルニ民政署ハ沿岸ニ幾何ノ地積アルカ未ダ其調査行届カズ然ハ一ケ處ニ名ノ鑑札漁業者ニ土地ノ使用ヲ許ルシ実際当業者カ如何ニ迷惑感

シタルカヲ問ハザルハ無責任ノ處分ニテ実ニ失態ト云ハサルベカラス本年ハ事情止ムヲ得ズトシテ民政署ハ明年ヨリ決シテ本年漁期ノ如ク多ク雜漁ヲ許サルベシ又縱令之ヲ許スモ本年ノ雜漁家ハ必ズ失敗スベキヨリ其失敗ヲ明年ヨリ復スルカ如キコト萬々アラザルベシト信ズルナリ

拓殖ノ方針ハ半農半牧

移住農民本年度募集ノ方針

「スヽヤ」「ハウタカ」両原野ノ地味

開拓ノ事業ハ本島ニ取リ重要ノ問題トス殊ニ冱寒ノ地年内野外労働日數僅ニ各期長キニ於テ一層難キヲ見ル然レ共将来開拓見込アルヤ否ヤ至ル所ニ露領時代ニ南墾播種ノ経験ト統計アリ之ニ鑑ミ素ルモ拓殖ノ望ミアルコト疑ナシ殊ニ昨年民政署ハ南農学博士ニ嘱託シ農業地ノ如心ト称スベキ「スヽヤ」原野ト「ハウタカ」原野ノ一部ノ調査セシメタル其復命書（別冊添付）ニ據ルモ明カナリ又露領時代ノ統計

5-0398
0092
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ハ大体流刑民カ刑期満了ノ后強制的ニ開墾播種ヲ為シ生来農民ニモ非ラズシテ鋤鍬ヲ執リタル成績ナレバ畢ニ之ヲ以テ収獲如何ヲ推スヘカラズ思フニ今后専門ノ農民ヲ移住セシメ農業ヲ起サバ必ズ大ニ観ルヘキモノアルヲ信ズ然レトモ一ノ農業ノミニテハ経済相立タズ就レモ牧畜ヲ併セ起スノ必要アルヲ認ム牧畜業ハ本島冬期長ク随テ舎飼期長キヲ以テ果シテ収支相償フヤ疑念ヲ抱ク者アルヘキモ大体気候ニ適シ且ツ之ヲ飼養スル牧草豊富ナルヨリ畢実況ニテ然ラスト雖モ本島開拓ノ方針ハ半農半牧ニシテ本住トシ移住民一戸分ノ貸付地積ハ七町五反歩ト規定セリ本年ヨリ農業ヲ目的トスル移住民ヲ容ルヘキ準備ヲ要スルニヨリ昨年十月北海道廳ニ依頼シ殖民地撰定ノ技術師ヲ招キ降雪時期ヲ目睫ノ間ニ控ヘ出来得ル限リ撰定セシメ之ヲ終リタルハ「ハス」「ヤ」原野及「ルウタカ」原野ノ各一部トシテ「ス、ヤ」原野ニ於テハ「ミツリヨフカ」リス「ウエニーチノエ」「ホムトフカ」「バリシヤヤエフニ」「ウラジミロフカ」「ルゴオエ」「ノオアレクサンドロフスコエ」「スス」「可」「フスタキー」「ブリジネエ」「ダリネエ」「トロイツコエ」ノ八箇村其地積三萬一千三十四町歩其内農耕適地一萬九千四百十九町歩牧畜適地一萬三千六百十五町歩トス「ルウタカ」原野ニ於テハ其地西部一帯ヲ撰定シ「ルウタカ」ヲスクレセンスコエ第一、第二、「ブラゴスロウエンノエ」「ペトロパウロフスコエ」「ウスペンスコエ」ノ六箇村其地積八千二百五十六町歩其内農耕適地千五百四十一町歩、牧畜適地六千七百十五町歩トス

本年ヨリ移住者ヲ容ルニ付テノ先決問題ハ移住者ノ戸数ヲ幾何ニ制限スルカ又アリキ何トナレバ凡テノ準備例ヘバ移住セシムベキ村落、移住者ニ対スル保護、移住者募集地方、募集ノ方法、移住者ノ資格等ヲ確定シ其ハ皆是ノ胚胎スルヲ以テナリ樺太カ我領ニ復帰スルヤ之ニ移住セント企図スル者甚タカラズ殊ニ東北地方並ニ北海道ノ農民ハ既ニ昨年来家族ヲ携ヘ渡来シ未開地ノ貸下ヲ期待セルモノアリ開西地方若クハ九州方面ノ民カ満韓地方ノ経営ニ赴クト一般樺太経営ニ志スハ是レ地勢ノ関係上

5-0398
0093
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

自然ノ傾向トスヘシ斯ル趨勢ヲ一朝阻害センカ他日移住農民ヲ
移植セン非常ノ労苦ヲ以テ勧誘セザルヘカラズ然ルニ今日何等ノ勧
誘手段ヲ用ヒコトナク前記ノ如ク移住希望者ノ多キハ所謂人気ノ然ラ
シムル所ニシテ民人気ヲ刺用シ可成博ク移民ヲ容ルヽ策ノ上無ナルモノトリ
又一年早ケレバ隨テ同島ノ拓殖ヲ進歩スル論ノ俟タズ民政署ノ希望モ之ヲ外ナ
ラズ然レトモ如何ニセン経費ニ制限アル戦後ノ経費トシテ之ニ対スル準備ノ
時日ニ餘地ナシ又準備不整ノ以テ希望者ヲ仕意ニ容レンカ都テ彼等先
敗ヲ招キ将来ノ移住希望者ニ不良ノ影響ヲ及スナキヲ保セス故ニ本年初年
年ハ試験トシテ先ツ有戸ヲ容シンコトニ決定セリ而シテ之ヲ容ルヽ地方ハ交通
機関ノ有無善悪ノ関係上幹線道路ニ沿ヒタル「ホトフカ」「バリシヤヤエラニ」
「ブリージネエ」「ダリネエ」「ハウタカ」ニ止リ又募集地方モ亜海道十戸岩手縣十
五戸青森縣十五戸福島縣二十戸宮城縣二十戸富山縣二十戸トセントノ決議
ニテ其方針ヲ以テ本年融雪ヲ測量開墾ヲ企画シ早今第四十四号官有地

貸付假規則ニ依ル移住農民ニハ戸毎ニ宅地三反歩以内ト其附近ニ
耕地七町五反歩ヲ貸付シ且ツ移住ノ初年ニハ殊ニ二町歩以内ノ既墾地ヲ
一時貸付使用セシムルモノトスト雖トモ其区劃制ヲ為サレム然ルニ爾後右ノ方針
一変シ移住民ノ戸数ヲ制限セス募集ノ地方モ限ラス本年ハ民政署カ自働
的ニ出テサルコトヽナリ四月十四日告示第十二号ヲ以テ農業目的ヲ以テ樺太ニ渡
航シ現ニ在住ノ者ト所轄支署長ニ届出サル移住民ノ資格ハ
一、樺太ニ移住スル覚悟アルコト
二、身体強壮ニシテ農業ノ労役ニ堪ユルモノ二名以上アルモノ
三、性行不良ナラザルコト
四、移住后秋季マデ一家ヲ支持シ得ル糧食若クハ資力アルコト
五、鍛冶、木機等職工ニシテ農業ヲ兼ネ移住セントスルモノハ
家族、雇人ノ労力ニ堪ユルモノニ限リ之ヲ許可ス
右ノ資格ヲ備ヘタル者昨年未渡航者中ニモ尠ナカレトセス又更ニ出願者

モ陸續ア〻結局本年ハ二百四十戸ヲ移住セシメ之ニテ一段落ヲ切リ其餘ハ
本年収容シ能ハサルヨリ各府縣ニ本年移住者謝絶ノ旨ヲ発セリ而シテ
移住セシメタル村落ハ曩キノ方針ニ変シタルヨリ移住者ノ希望ニ任セヲ宜シ
ム而シテ移住農民ニ對スル保護即チ家屋及土地ノ貸付ハ別問題トシテ種
子ノ貸與ハ移住ノ初年ハ約二町歩ニ播種スベキ穀類ノ種子ヲ貸與スル筈ニシ
テ其割合ハ大麦小麦、裸麦各四町歩燕麦三反歩馬鈴薯三反歩トス種子ハ
其地方ノ気候ニ感化シタルモノヲ可トスルヲ以テ可及的殊留露国民ニ就キセン
購買シ不足ノ分ヲ些海道ニ注文スル方法ヲ執リタレドモ移住農民豫想
外ニ多ク渡来シタルヲ以テ種子ノ貸與ニ不足ヲ告ケ農民モ大ニ迷惑シタリ
ト云フ

各村落ノ地味ニ付テハ固ヨリ一定セス其可否熟ル又度ト称スルハ其地ニ
繁茂セル植物ヨリ測量員ノ復命ニ依レハ土性ハ上層ハ腐植質壌土、下層
ハ植質壌土又砂質壌土等ニシテ其肥沃ナルコト些海道ノ沃地ニ同シ「ススヤ

河」ハウタカ」河其他河川ノ本支流沿岸ハ一帯ノ濶葉樹林ニシテ楡最多
ク赤楊、はしどい、柳、楓、櫻等之ニ次キ樹下ニハ一面ニ草、よぶすま草、よ
もぎ、虎杖草、やまうてつ等繁茂スル氏沿岸濶葉樹林ノ外ハ多ク針葉樹
林ニシテ其地積最モ廣ク落葉松、蝦夷松、椴松、樅、栂、蒼トシテ繁茂シ又両ハ樺
ヲ混ズル所アリ樹下ニハ蘚苔ヲ密生シ處ヨリ雑草ヲ生ス其土性ハ概ネ丈五三寸ノ腐
植土ノ下ニ植質壌土或ハ壌質埴土アリテ地味ハ沿岸濶葉樹林ヨリ稍々劣ル
ト雖モ亦ア農耕若クハ牧畜ヲナスニ適ス又赤楊、やちだも等ヲ生ズル樹林濕
地アリ排水スレハ耕作ニ適ス其他よし、あじぬわら等ノ繁茂セル草原濕地ア
リテ泥炭性壌土ヲ成ルト云フ叙上ノ如ク地味果シテ膏腴ナリトセハ移住農
民ノ好成績ヲ表スルハ豫期シ得ベキナリ

「ススヤ」「ハウタカ」二原野殖民地已ニ劃設計図ニ之ニ添付スル樺太民政
署編樺太移住手引草ニ載セアリ就テ見ルベシ

已ニ劃測設調査員心得、土地調査心得及殖民地模定及已畫

5-0398
0095
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

施設規程参考ノ為メ別冊添付ス

牛馬取押　民政署牛馬収容所

開戦ハ露国民ガ避難ニ際シ遺棄シタル牛馬ハ数千ニ及ビ而シテ其牛馬ハ到ル處ノ原野ニ徘徊セリ高ハ経理部ニ於テ出来得ル限リ之ヲ取押ヘ軍隊ノ食糧ニ供シ又兵站部ハ馬匹ヲ捕ヘ輸送ニ使用シ不測ノ便宜ヲ得タリ然レ共尚ホ散逸ノ牛馬尠ナカラサルニヨリ之ヲ遺当ノ時期ニ取押ヘ開拓ノ準備ニ置カザレハ冬季之ヲ飼養スル能ハザルヲ以テ九月十六日軍令第十五号ヲ出シ民政施行地域内ニ放置シタル牛馬ハ民政長官ノ許可ヲ受クベシ之ヲ取押ヘタルコトヲ得ルコトヽセリ又同時ニ露国民カ播種ノ穀類ヲ遺棄シ去リタレバ是亦収獲スルコトヲ得セシム右ニ依リ渡航者中一時ハ牛馬取押ヘニ狂奔シタル者モアリタレド元来軍令第五号ヲ以テ本島外ニ移出スルコトヲ禁シ又高牛ハ所轄官憲ノ許可ヲ受ケズバ屠殺ヲ禁シタレバ牛馬取押モ一時的ノ流行ニ止マリ国有開拓刈取リノ時季ヲ経過シタルコトナレバ人民ハ俄カニ之ヲ飼養シ得タル往々再ビ之ヲ放逸シ取押ヘノ軍令ハ左程効果ヲ見サリシモノ如シ

右領収未誰彼ノ別ナク放置シアル馬匹ヲ押ヘ来ラハ之ヲ使ヒ使ヒ率ハ又之ヲ放ケ糧秣ヲ與ヘズシテ虐使シタルバ到ル處ニ鞭傷糜爛ヲ以テ斃死セモノ等ナリ其惨状実ニ見ルニ忍ビザリキ

民政署ガ将来農業目的ノ移民ヲ容レ本島ノ開拓ヲ計ランニハ牛馬ハ農家ノ基礎タルニヨリ決シテ之ヲ等閑視シタルニアラズ今之ヲ矣ル他日之ヲ内地ヨリ購入センカ莫大ノ経費ヲ要シ容易ニ其実行ヲ見ベカラズ故ニ全力ヲ傾注シ牛馬ヲ取押ヘ其保存ヲ計ルノ方法ヲ講セリ是レハ第一牛馬ノ総頭数ヲ知リ第二之ニ對スル飼料ヲ計上シ之リ準備スベキノ方針ヲ定メタルモ戦争ノ混乱ハ何処ニ何頭居ルヤ大体ハ計数スラ容易ニ知ルヲ得スカラニ本問題ハ十月ニシテ野草ハ既ニ刈リ取リノ時季ヲ経過シタルバ殆ンド手段ヲ施サヾリシ民政署カ飼養スベキ牛馬ヲ假リニ千頭トスレバ之ヲ冬季六ヶ月間飼養スル飼料ハ決シテ少ナノ數量ニアラズ之リ全部内地ヨリ購買セバ三四萬円運賃ハ(外ニ)

5-0398
0096
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ヲ要ス而シテ之ヲ供給スル者又ヤ疑ナキニアズ依テ出来得ル限リ野草ト藁

国民カ遺棄セシ穀類ヲ刈リ取リ之ニ充テド急速内地ヨリ草刈人夫約六百名

ヲ募集シ「ウラジミロフカ」「ダリネエ」「トロイツコエ」「ススヤ」「サオスキヤーノフスコエ」及「メレイ」ニ

分布シ降雪マデ刈リ得ル限リ野草ヲ刈リ取ラシム其結果ハ約五百頭ノ飼

養スルニ足ル數量ヲ得タリ而シテ尚ホ足ラザル分ハ札幌興農園ニ注文シ

牧草百噸燕麦稈三百噸取リ寄セ外ニ燕麦約四千石大家商店ヨリ購入ノ

契約ヲ為シ始テ牛馬ノ飼料ヲ得而シテ仁四月ニ彷徨セル牛馬取押ヘヲ

実行セリ其結果ハ種々ノ事情アリ僥倖数ヲ減シ約七百五十頭ヲ得タ

リ而シテ取押ヘタル牛馬ト殘留露国民ヨリ生計保護ノ為メ買上ケタ

ル牛馬ハ凡ソ牛馬収容所ニ収容セリ

各収容所牛馬頭數　明治三十八年十月末日調

収容地名 ＼ 畜種	牛 牝	牛 牡	牛 計	馬 牝	馬 牡	馬 計
グリネエ	一四三	一〇一	二四四	三七	三三	七〇
ソロウイヨフカ	一九〇	九八	二八八	五	三	八
ペルワヤ、ハーヂ	三七	二	三九	一九	一五	三四
サオスキヤーノフスコエ	〃	〃	〃	二二	二一	四三
合計			五七一			一五五

備考　「グリネエ」収容所ハ后之ヲ「トロイツコエ」村ニ移ス

牛馬総計七百二十六頭

各牛馬収容所ニ監督者一名ト牧夫約十名ヲ置キ牛馬ノ飼養セシム

而シテ冬期ニ入リ牛馬ノ斃死シタルコト驚クベキ數ニシテ其原因ヲ査ルニ種

々アリト雖モ要スルニ馬匹ハ前記ノ如キ虐使シテ一ノ馬トシテ鞍傷糜爛ナキ

モノナカリシニ依リ之ニ寒気ヲ受ケ斃死シタルコト明ナリ而シテ畜牛ハ戦争中

ハ無論戦后ニ於テモ之ヲ飼養シタル者先ヅ自然ノ傷ヘリシ為メ自然衰

弱シタルト又各方面ヨリ集メ来リタルモノナレバ一家族ノ如ク和合セズ牧草及燕麦

5-0398
0097
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ヲ與ルコトニ立テ角鬬シ現ニ優勝劣敗ノ結果ハ弱キモノハ何時モ充分ニ喰フ能ハザル為メ是モ自然衰弱シ寒気ニ打チ勝フコト能ハザリシニ由リ昨年十二月末日調査ハ前記ノ如ク総計七百二十六頭ナリシカ漸次斃死シ五月ニ入リテ約六百余ニ減ゼリ戦時状態ニ在テハ民政署ニ未ダ獣医ヲ置ク迄ニ至ラズ牛馬中病気ニ罹リテモ何等手當ヲカヘサリシニ依リ多数斃死ヲ見ルモ亦無理ナラサルナリ

民政署ハ三月五日署令第十号ヲ以テ所有牛馬届出ノ件規定ヲ発布シ人民ヲシテ所有牛馬頭数ヲ届出サレメ牛馬籍台帳ヲ設ケ之ニ登載シ整理ヲ計レリ

本年種馬二頭（乘用種一頭 農用種一頭）種牛五頭（ホルスタイン種二頭 アレヤ種三頭）北海道ニ注文ト取寄セタレバ是ヨリ牛馬ノ改良ヲ見ルベシ

林業

苗圃

樺太ノ森林ハ面積三分ノ二ヲ占ムト云ヘバ其豊富ナコト推シテ知ルベシ 戦后ノ経営トシテハ昨年僅ニ「ルルサコフ」ヨリ「ナイブツ」ニ至ル約二十五里間東海岸ニ通ズル幹線道路ニ沿ヒタル森林ヲ調査シタルノミ 神原技手ノ復命書ヲ見ルニ針葉樹林ハ豊富ナルニ驚クベキモノ如シ又一面ニハ樹質不良ニシテ到底立派ナル製材ノ見込ナキニヨリ製紙原料ニ充ル林ハ最モ適切ノ使用ナランコトヲ説ケリ 本年ハ各方面ノ調査ヲ為ス筈ニシテ神原技手ハ上京シ余セシ巨細ノ訓令ヲ受ケ樺太ノ経営ニ対シ将来下廉ノ財源トナヤ否ハ近キ未来ニ解決セラルベシ又本年ヨリ苗圃ヲ起シ本島ニ適否ノ試験ヲ開シトノ提議既ニ可決シ昨年未秋田大林区署ニ各種ノ苗木ヲ注文シ又一面ニ青森大林区署ニ其苗木移植ノ土地一時借受ケヲ交渉シ其承諾ヲ得テ前者ヨリ広者ニ移植シ而シテ本年五月樺太ニ引取リタリ其試験木ノ内ニハ梅ヤ櫻ヤ新領土ニ此種ノ花爛漫タルヲ観ハ王化ノ善良ト真ニ我版図ニ復帰シタルヲ聯想セシメ苗圃ハ先ツ二ケ処ヲ撰定セリ 海気即チ濃霧ノ達ス処他ノ一ハ之ト反対ニ全ク達セザル処ニ依テ前者ハ

5-0398

0098

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

サコフ」旧露人本街ト練兵場高地ト間ニ横ル澤ノ一部ハ守備隊第三中隊本部ノ駐屯セン附近ハ若干ノ畑地ニ設置セリ本年ノ豫算中ニ森林事業費五千円アルハ是等ノ費ニ当テタルモノナリ

樺太ニ於ケル山林ハ軍令第四号ニ示ス如ク伐採ヲ禁止セリ但一時ノ利用ノ為所轄官憲ノ許可ヲ受ケンモノハ此限リニアラズトシテ其実本年二月二十八日迄拂下ヲ許可セザリキ同日ニ至リ漸ク軍令第三十七号ヲ以テ森林伐採規則ヲ発布セリ昨年夥多ノ渡航者ハ家屋ヲ建テ頗ル窮シ民政署ハ急速必要ニ迫ラシ土地ノ貸下ヲ為シ家屋ヲ建テシメタリト雖モ其用材ハ特ニ有地ヨリ切リ組ミ来ラシメタリ同島ノ杣殖ル上ハ於テ可成多ノ渡航者ヲ親迎スベキハ勿論ニシテ其目的ノ為メニハ飽迄モ便利ヲ計ラザルベカラズ而シテ一方ニ往復流船ハ物資ノ運搬ニ忙シク建築材料ノ如キ何時モ欠ト迫ルトナリ冬期ノ凍結ヲ目睫ノ間ニ控ヘ越年渡航者ハ如何ニ苦辛悲憐セシカ知ルベカラズ然シ此用材ヲ内地ヨリ取寄スルハ不便尠カラザリ已ムヲ得ズ皆粗造的ノ家屋寧ロ假小屋ヲ建設シタルハ十月十日守備隊司令官ノ一諭告ヲ奏シ衛生上憂慮堪ヘザル旨ヲ諭セリ（告諭第一号参照）附近ニ山林ナカリセバ已ムヲ得サレドモ密林ヲ控ヘリ渡航者用材ヲ拂下ケス一方ニ防寒的家屋ヲ建テ衛生上ノ心配ナカラシメント命ズルハ家モ手足ヲ縛シ之ニ飛躍ヲ命ズルト一般ノ嫌アリ畢竟何故ニ斯ル措置ニ出タルカト云フニ山林ノ餘リ大事ニ考ヘ盗伐ヲ怖レタルニ在リ盗伐ノ方法ヲ以テ取締ルヲ得ベシ假令取締ニ尚不(偉ニ)盗伐アラバ放任スベシ戦争ノ如キハ豈農是ニナラシヤ百事皆不取締ヲ免レズ樺太ノ経営中最モ必要急務ト認ルモノハ寒地ニ適切ノ家屋ヲ建設セシムルニ在リ昔時我邦国ニ属セシ時代ニ露領タリシ時代トニ於ケル人口繁殖ノ程度ニ鑑ミ来レバ将来樺太ニ於ケル拓殖成効スルト否トハ寒地ニ適切ナル家屋ノ有無ヲ以テ判断スルヲ得ベシト云フモ過言ニアラザルベシ故ニ渡航者中同島ニ常住ノ決心アルモノハ用材ヲ

5-0398
0099
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

無償若ハ最廉價ヲ以テ拂下ケ而シテ防寒的家屋建築ヲ勧誘スベキナリ然ルニ当初之ニ出ズ内地ト一般ノ家屋ヲ是認シ作ラシメタル民政署ノ失態ト云ハザル可ラズ其ハ実ニ遺憾トス

木工場ハ「アラクリ」ト称シ「つルサコフ」ヲ東ニ距ル約十三里ノ処ニ在リ本ハ露国ノ設備ニ係リ曾テ戦中之ヲ鹵獲シタルモノナリ民政署ハ多少之ニ補充ヲ加ヘハ再ビ其用ニ堪ユルモノト信ス経理部ヨリ之ヲ引継キ九月ヨリ之ヲ運転シ製材ニ着手セリ差当リノ材料ハ同ジク鹵獲セシ丸太材アリシヲ以テ之ヲ南ト一面ニハ十月頃ヨリ勝寧ニアル如キ森林事業及製材費壱万四千四百円後之ヲ改テ貳万五千円トセシモノヲ以テ請負者ニ製材ノ原料丸太ヲ貳萬尺ノ一年ノ消費(勝寧高)ヲ附近ノ森林ヨリ伐採セシムルコトヽセリ此伐採ヲ請負タルハ大家七平ト樽支店ノ出張員鶴善作ト町田朝太郎ニシテ冬期積雪ヲ利用シ搬出スル計畫ヲ為シタリ然ルニ樺太ノ堅雪ハ内地東北地方若クハ北海道ノモノト異ナリ寒気ノ程度激甚ナルヲ雪ニ湿気ヲ含マザル故堅マラズ且ツ冬期ハ絶ヘ降雨ナキ為メ真ノ堅雪ヲ形成セス運搬センカ馬ハ其脚ヲ没シ豫期セル如キ搬出モ得ス三十八年度内ニハ約二十分ノ一ノ工場内ニ搬出ヲ了シタルマデニシテ其他ハ融雪後ト雖ドモ湖及川ヲ筏ニ組ミ送搬スル計畫ナリキ初民政署ハ計畫ハ各種ノ法ノ製材ヲ為シ之ヲ自家用ニ充テ尚ホ餘裕アラバ之ヲ渡航者ニ拂下クルニアリキ然ルニ木工場ノ位置遠ク障ターつルサコフニ製材ノ運搬容易ナラズ民政署ハ諸般ノ建物ニ適ハルモノニ充テントスル板一枚モナク大ニ煩悶セシニ木工場ハ製材ヲ堆積シテ置場所ニ苦ムノ状態ナリ冬期海ト凍結シ海岸道路ハ途中ニ巨岩礫ヲタルヨリ馬車ヲ通セザル為ニ露国地方官カ之ヲ「アラクリ」ニ設置セシ所以ハ製材原料ハ其附近ニ在リ且ツ豊富ナルニ着眼セシモノ如シ成程製材原料ハ附近ニ饒多アリ且ツ搬出モ湖川ニ依ルトセバ比較的容易ナレ共製材ノ底之ヲつルサコフニ運搬スルカ若クハ同島外他ノ地方ニ輸出スルニハ不便ナリ加之ナラズ海岸浅瀬ニシテ積出ニ頗ル苦シ浅瀬モ不

5-0398
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

定シテ岸近クハ比較的深ケレトモ積荷ヲシ起岡セレト思ヘバ解纜中坐洲シテ動カス又海岸ハ四面南放セルヲ以テ多ク凡アバ忽チ怒濤狂瀾ト化スル患アリ故ニ木工場ヲ経営ニ就テハ將来埠頭ヲ築カカ又工場ヲ全ク遠当ナル地ニ移轉セシムカ民政署ハ是非共此二途ノ内一ヲ撰ハサルベカラズ本年ノ豫算ハ製材費三萬九千二百八十円アリ今日ノ如ク運搬ニ巨額ノ費用ヲ要セハ到底収支相償ハス寧ロ必要ノ用材ヲ購買スル方勝レリ

鑛業

鑛業ニ関スル民政署ノ方針ハ技師ヲシテ概察ナリトモ一般ノ調査ヲ成速ニ遂ケ而シテ鑛業条例ヲ発布シ民間ノ起業者ニ之ヲ採掘セシメンド欲スルニ在リ所年民政署開始ト同時ニ其方針ヲ以テ川崎技師ヲ北部「ドーエ」ムガチ」炭坑等ニ派遣シ調査セシム所アリ爾知所ノ方向ヲ轉シ南部ニ移リ先ツ「ルサコフ」ヨリ北方地質鑛産調査ノ途ニ上リ「ウラジミロフカ」ガルサノウラスコエ」「ドブキ」ヲ経テ「ナイブチ」ニ出テ夫ヨリ東海岸ノ北行シテ「マヌエ」ニ至リ西ニ折レ樺太ノ最狹所ヲ横断シ「クシユンナイ」ニ出テ再ヒ西海岸ヲ北行シテ「ライチシカ」湖ニ達シ逆行シテ「クシユンナイ」ニ帰リ尚ホ南行シテ「ウワス」岬ニ至リ降雪ノ為メ作業ヲ中止スルノ止ムヲ得サルニヨリ「コルサコフ」ニ引返セリ同技師ノ復命ニ依レバ樺太ノ地質ハ甚タ簡単ナルモノニシテ只白亜紀及三紀層等ヨリ成リ古生代及太古代ノ地質ヲ欠キ又火山岩殆ントナキモノト思考セラレタリ然ルニ南樺太ヲ跋渉スルコト僅々五十有余日其区域ハ実ニ一小部調査亦概察ニ止マルト雖モ其地質ハ従来想像ノ如ク簡単且ツ貧薄ナルモノニアラズ硅岩アリ輝岩アリ片岩アリ其他種々ノ火山岩アルヲ知リ又種々ノ鑛脈鑛層ノ存在スル確メタリト其鑛産物ハ

石材　石垣用、砥石材及装飾用石

非金属用材　石油、泥炭、亜炭、石炭

金属鑛物　金、銀、銅、硫化鉄等

5-0398
0101
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

其ノ價値ニ至テハ尚精査ヲ要スルモノアリト果シテ叙上ノ如クナル樺太ニ於
ケル鑛業ハ前途有望ナリト云フベシ

郵便　電信　電話

樺太ノ郵便ハ野戰郵便局ニテ取扱ヘリ守備隊司令部ト偏ニ郵
便部ヨリ部長トシテ高等官ヲ置キタルヲ以テ野戰郵便本局ハ
コルサコフ棧橋附近ノ商地ニ在リタルヲ九春古丹郵便局ト称スル分局ハ全
ク村落ニ設ケラレタリ昨年十月同本局ニ指定セラレタル露人遺棄家
屋ハ頗ル狹隘ナルヲ以テ其裏面ノ高地ニ民政署ヨリ新築シタル貸與シ
事務所トシ從来ノ家屋ハ局員ノ宿舍トセリ

軍人軍屬ノ発スル書信ハ無税トス然レトモ左ノ如ク記載スルヲ要ス

一、発信書状ニ軍事郵便ノ記号及所屬部隊官職氏名

右所屬部隊若シハ官職記載漏ノ分ハ普通々常郵便ト見做シ
郵税未納ノ取扱ヲ受ル

昨年十月十八日守備隊郵便部ハ從来樺太ト内地間ノ郵便ハ総テ青
森郵便局ヲ経ルコトヽナリ居リシ為メ北海道方面ノ郵便ハ一旦内外ノ
連達ヲ免レサリシニモ不便ヲ除却スル為メ普通郵便ニ限リ小樽郵便
局ト直接受授ノ便ヲ開始セリ尤モ私用軍事郵便物ノ範囲ノ
擴メ十月十日ヨリ野戰郵便本局ハ左ノ普通郵便事務ヲ取
扱フコトヽナレリ

一、普通々常郵便物ノ全部（書状、葉書、新聞雜誌、印刷物
種子、見本等）引受

一、普通々常郵便物ノ全部及普通小包郵便物（特殊取扱
ノモノ例ヘハ代金引換又ハ價格表記等ノ際ハ）配達交付
但本島ヨリ内地ヘハ小包ヲ差出シ得サルコト

一、通常為替及小為替
但為替払渡事務ハ先限リミアラズ

5-0398
0102
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

「ウラジミロフカ」第五野戰郵便局ハ本年一月十八日ヨリ右ノ事務ヲ開始セリ

本年三月十五日西海岸「マウカ」第七野戰郵便局ヲ開設セリ而シテ「マウカ」「ウラジミロフカ」間新道路ニ依ル郵便遞送ハ毎月四回左ノ日取ヲ以テ互地差立ヲ為ス

三月　十日　十七日　廿五日

此外内地便ハ「マウカ」ニ着スル場合ハ臨時遞送便ヲ開始ス

内地ヨリ往復スル汽船ハ多々アレド郵便物ヲ積ムモノハ定期船ト碎氷船大禮丸ニ限ルヲ以テ通例一ヶ月ノ差立回數ヲ纔ニ六回大禮丸往復スルト假定シ十回以内トスル不便ノ地方ニ在リテハ五百噸以上トカ制限ヲ加ヘ如何ナル船舶ニモ郵便ヲ積マレムルコトヲ望ム尚又右野戰郵便局ハ未タ小為替ノ拂渡ヲ為サズシテ據リ中數ノ金額ヲ送ルニハ何人モ大ニ不便ヲ感ス殊ニ金融機関ハ中央金庫取扱トシテ此海道拓殖銀行出張所アルノミナリ内地ニ於テ拓殖銀行支店アル若クハ之ト取引ヲ有スル銀行ナキ地方ヨリ送金スル場合甚タ不便ナリ加フルニ拓殖銀行ハ五十円以下ノ為替ヲ取扱ハス現ニ雜漁ノ鑑札ヲ受クルニ一円乃至十円ノ料金ヲ上納スルニ送付ノ途ナシ往々前記小為替ノ拂渡セサルコトヲ知ラズ小為替券ヲ郵書ニ封入シ来ル者多數ナリ斯ノ如キ不便ハ可成速ニ除却セサレバ漁業其他ノ發達ニ大ナル阻害ヲ與フルモノナリ

拓殖銀行ハ普通ノ貯金ヲ取扱ハス保管ヲ依頼セハ及對ニ手數料ヲ要ス故ニ郵便局ニ依頼スベキ筈ナルニ同局ニ貯蓄スル者ヲシテ斯ナル理由ハ内地ノ外再ヒ引出スコトヲ得サルナリ是モ同局ニ於テ方法ヲ講シ貯金家ノ便利ヲ計ルカ更ニ如ク局ノ必要アルベシ

電信　宗谷海峽海底電線敷設ハ千九百三年ヨリ効力ヲ有スル大北電信會社トノ條約ニヨリ拘束セラルルハ人ノ知ル所ナルカ樺太ニ領後ハ軍事行動ヲ以テ海底電線ノ維持ト「ノト」岬（樺太南端）間ニ沈敷

5-0398
0103
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

レ又之ヲ「アニワ」湾内ヲ通シコルサコフ大泊マテ延長シ内地ト連絡ヲ取リ維内「ノトロ」間ハ一線ニシテ「モルゲ」湾「ルウタカ」間ニ陸軍工兵隊ヲ以テ道路開設アヤ同時ニ其沿岸即チ「ノトロ」望楼ヨリ「ルウタカ」マテ電話線ヲ架シ全所ヨリ「アタラヤパーゲ」ニ電線架設ノ準アリ仍テ「ノトロ」岬ヨリ「コルサコフ」ニ至ル間ハ一ハ陸線一ハ海底線ト即チ二個ノ通信線アルナリ

海馬島望楼ト須磨望楼ヲ経由シ維内ヨリ韃靼海峡ヲ通シ亜歴山德ニ至ル海底電線ハ現下如何ナル状態ニアルカト云ヘハ昨年十月二十一日亜歴山德通信所ヲ閉鎖シテヨリ以后其儘打付シアリ是本年刊揚アルカノ如ク云ヘリ

露領時代ニ陸上架設アリタル電信ニシテ露軍退却ノ際切断シタルモノハ修理ヲ加ヘ「コルサコフヨリ「ウラジミロフカヨリ」経由シ「ナイブウ」ニ出デ先ヨリ東海岸ニ沿ヒ「ジラ、カ」守備隊分駐所マテ使用セリ「シラ、カ」以北ニ至ル未タ必要ニ迫ラサル為メ毀損セシ儘トナリ遂テ「ナヨロ」ニ支署若クハ支署

出張所ヲ置カレシハ修理ヲ加ヘ遂ニ五十度国境ニ達セレノ更ニ露国ト協商ノ上浦潮斯德長崎間ノ海底電信ト競争シ我国ト西比利亜又ハ欧州各国トノ電信ハ該線ニ一切頼ラレムコトヲ得ベシ曾テ「コルサコフ」ト本邦間電信料一語（十五文字迄）ニ付九十四哥即チ約我一円ヲ支拂ヒタリ是レ畢竟大亜電信會社専有ニ係レバナリ果シテ欧州行電報ヲ樺太線ヲ以テ取扱フニ至ラバ其収入ヤ実ニ莫大ナリ須ラク該問題ノ解決ヲ見ルマテ韃靼海峡ノ我海底線ハ撤去セサランコトヲ望ム尤モ萬国ノ電信ヲ取扱フニハ其準備ナカルベカラズ露国時代ノ如ク陸上森林間ノ一線ニ依頼シ屢々毀損ヲ生シ殊ニ冬期ハ通ヲ未ダコトアリタル由状ヲ復スベキニアラズ一線毀損セハ他ノ一線ヲ使用シ絶ヘズ発受シ遺憾ナカラシムルニハ陸上ニ複線ヲ架設スルマテハ是非トモ海底線ヲ保存スル必要ヲ認ムナリ

「ウラヂミロフカ」ヨリ「マウカ」ニ至ル電線架設ハ「ガリネエ」「マウカ」間新道開設ト直ニ之ニ着手センコトヲ計畫シタルニヨリ十二月中旬ニ入リ既ニ

5-0398
0104
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

降雪數次ニ及タレバ電線ノ運搬ト架設工事一層至難ト為リタ
トモ是非共急速架設ノ必要アリ電信隊ニ交渉シ電信隊ハ松
原工兵中尉ヲ出張セシムルコトヽナリ今中尉部下ヲ率ヒ是亦二ツニ分乗
雪ヲ架設ニ着手シ運搬ト人夫供給ハ民政署之ヲ負擔シ民政署ハ
道路開設ニ関係セル南山、阿部及川口ノ三隅託ヲ各處ニ派遣シ架設
工事ニ関スル人夫其他ノ監督ニ当ラシメ一気呵成ニテ進行シ十二月廿六日全ク
架設ヲ竣成セリ

コハサコフ（曩ニ大泊）通信所ト称シ電信ヲ取扱フ内地ト公衆電報ハ十
一月一日ヨリ之ヲ開始ス

公衆電報取扱規定発受信者ノ心得左ノ如シ

一、取扱フハヲ電報ハ（コハサコフ）通信所ト内国間和文至急私報（料
金ハ普通私報ノ三倍）ニ限ル

二、着信ハ留置ノ外ハ凡テ郵便配達トス

三、暗号電報ハ樺太守備隊司令部ノ許可アルモノ外ハ取扱ハス

四、誤謬遅延及ビ不達ノ責ニ任セス

五、特許電報ハ軍事官報ニ限ル

六、貼用切手ハ野戦郵便局ニ於テ賣下ク

如上至急報ノミ取扱フコトヽナリタル理由ハ目下戦時ノ状態ニアリテ通信所
ハ軍用専備ニシテ其設備ニ限リアリ然ルニ普通公衆電報ヲ取扱フコト
トセハ其數増加シ到底其求メニ應スル能ハスト云フニアリ
是ハ早晩普通電報ヲ取扱フコトニ至ベシト云フ一般料金ノ高價ナルニハ
何人モ迷惑ヲ感シ居レハ右ハ早晩ト云ハス可成速カニ普通電
報ヲ取扱ヒ一般ノ便利ヲ計ルハ緊急事ニ属ス殊ニ郵便ノ遅送稀
少ナルニ於テ一層其必要ヲ認ムルヨリ
樺太内ノ軍用電報ハ民政署ノ各部長トモ発信権ヲ有スルトモ内
地ニ宛テ発スル軍用電報発信権ヲ有スル者左ノ如シ

5-0398
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

一、特別至急官報

司令官、守備隊参謀、樺太電信隊長、民政長官

二、至急官報

守備隊高級副官、理事憲兵長、軍医部長、

経理部長、郵便部長、守備歩兵大隊長兵站

司令官、守備隊病院長、碇泊場出張所長、民政

署官房主事

三、官報

獣医、補助輸卒隊長、民政署事務官

十二月二日ヨリ「コルサコフ」通信所ニ於テ樺太台湾間公衆電報取扱ヲ開

始ス其料金ハ和文至急私報十五字以内金壱円貳拾銭五字以

内ヲ加フル毎ニ金参拾銭ヲ増ス

「マウカ」通信所ハ十二月廿六日公報ニ限リ取扱ヲ開始セリ

電話、電話ハ現時官衙間最モ重要ナル個所ニノミ架設シアリ

交換局ハ「コルサコフ」通信所内ニ設ケ未タ多クハ交換器ヲ有セサル為メ一

般官衙及各宿舎用ニ供スルコト能ハサリシカ本年ハ電話線ノ架

設擴張スベキ筈ナレバ各使利ヲ享有シ得ルベシ市街ハ大泊ト「コル

サコフ」約一里間ニ跨リ公衆電話ノ必要アリ殊ニ本署ヲ「ウラヂミロ

フカ」ニ移スニ於テハ公衆電話ヲ官設ニスルカ将タ民間ニ之ヲ許スハ最

モ急務ナルベシ

現時遠距離電話ハ(一)「コルサコフ」ヨリ「ガルキノウラスコエ」ニ通スルモノ其

間ニ電話器備付ケアルハ「フタラヤパーゲ」、トレーケヤパーゲ」(ソロウイヨフカヨリ守備隊ノ分所ニ引揚ル)

「ミウリヨフカ」「ホムトフカ」「ウラヂミロフカ」、「ベレズニヤキー」ノ六ケ処ナリ(三)「ノトロ」

ヨリ「ルウタカ」ニ通スルモノ其間ニ電話器備付ケアルハ「レブナイ」、「ペストロ」、「トイ

クレ」「ライトマリ」「ベズナズワニヤ」ノ五ケ処ナリ(此電話線ハ駐屯兵ヲ引揚ルト同

時ニ電話ヲ閉鎖シタリト云フ)(三)「コルサコフ」ヨリ「ルウタカ」ニ通スルモノ(異ニハ

5-0398

0106

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

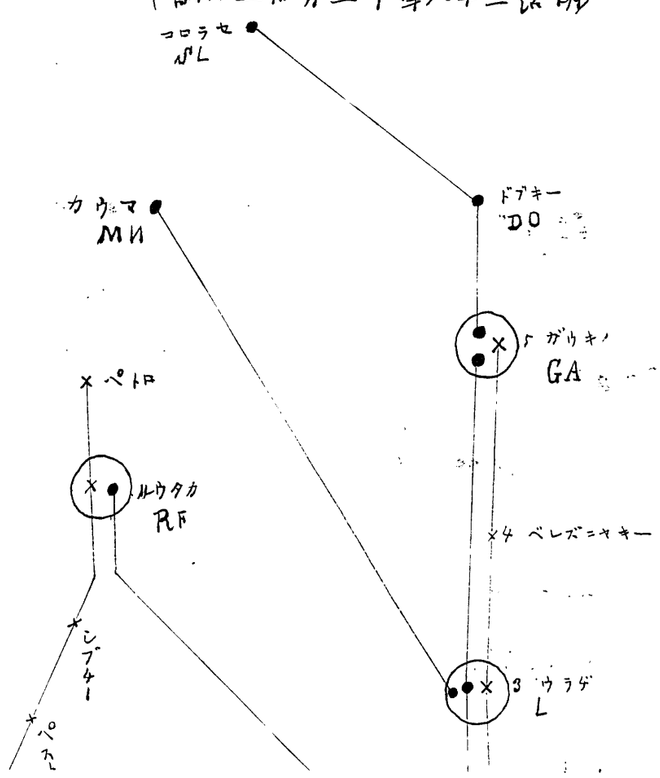
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

5-0398

電信ナリ、ガ兵電(註、改ム)是ハ「フタラヤペーガ」其中往ヲ為ス「ルウタカ」「ペトロパロフスク」間ノ電話、本年本備兵ヲ引揚ル ト同時ニ之ヲ閉鎖ス

樺太南部電信(註)回線図ヲ此ニ掲ケテ解ニ便ラシム

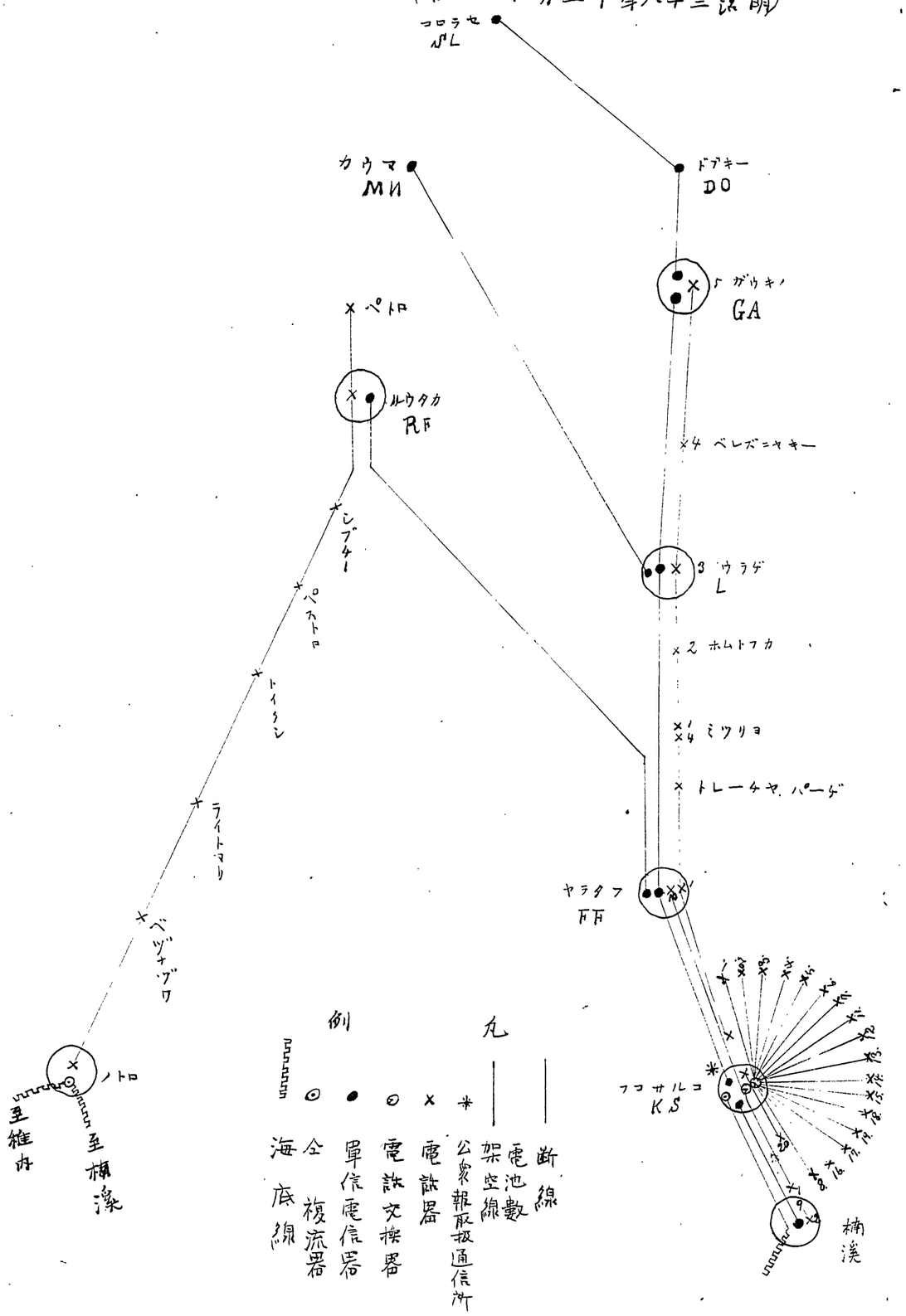
(調月五廿月二十年八十三治明)



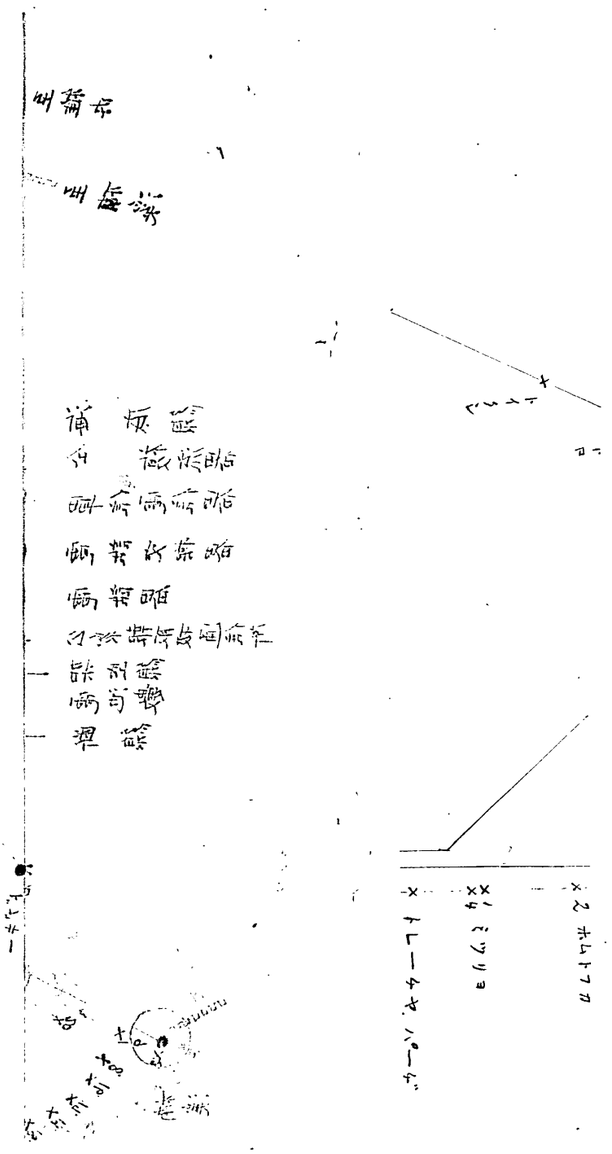
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

圖線回(詰)信電部南太樺

(調月五廿月二十年八十三治明)



5-0398



交通　道路

樺太ノ道路ハ何レモ観ルベキモノナシ人或ハ之ヲ以テ露国ノ野蠻ヲ証明スルニ足ルト云ヘドモ未同島ハ流刑島ナルコト又露国ハ版圖尨大ニシテ極東ノ邊陬マテ道路ヲ完全ナラシムルノ財政ニ餘地ナキコトヲ知ラサル論者ナリ露領時代ニハ漸ク必要ニ迫ラレ流刑人ヲ使役シ開設セシモノ現今ノ道路是ナリ樺太南部ニ於テ道路ト称スベキモノハ己サワフヲ中心トシテ夫ヨリ以北「ナイブツ」ニ至ル約二十五里間トコルサコフヨリ以南大泊ニ至ル一里ノ間ニ過ギズ此道路ハ幹道トシテ幅四五間ヲ有スレバ車馬ヲ並馳シ得ベシ我領土ト為リシ以来コルサコフ大泊間ノ道路ハ市街ノ設計上幅員ヲ十二間ト定メ既ニ過半ハ其工事ヲ竣成セリ右ハサコフ以北ノ幹道ハ「ソロウイヨフカ」村ニ至ル約三里ハ「ラウニヲ」湾ニ沿ヒ夫ヨリ山間陸路ニ入ル其海岸道路ハ露国時代モ難物ノ一ニ数セラレ全ト労力ヲ費セシカ知ルベカラズ地盤険悪又虎トシテ山脚起伏シ断崖絶壁ヲ以テ海ニ臨ミアリ其地質凝灰岩

5-0398
0109
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ナルヲ以テ崩頽常ナラズ又一面時化アレバ海潮之ヲ洗ヒ如何ナル工事モ永キ堪ヘズ大々設計ヲ為シ永久工事ヲ起サンニハ多大ノ費用ヲ投セザルベカラズ故ニ是マテ姑息的改修工事ヲ起シ一時危眉ノ急ノミヲ凌ケリ

又露国時代ニ之ニ並行スル山間道路ヲ開設シタルモ軍事道路ニシテ戦爭ニツキ開設シタリト云フハ誤リナリ

中峻坂アリ車馬ノ通行ス能ハザルヨリ該路ヲ往復スル者極テ稀ナリ隨ニ冬季ヲ除キ雑草繁茂シ尚更通行ヲ便ナラシム昨年民政署モ該海岸道路改修ニ約二千円ヲ投シ所謂一時ノ糊縫シタルノミ本年ハ殆ド其痕迹ヲ認メス依テ愈々山間ニ他ノ適当ナル道路ヲ永久的ニ開設セント既ニ土木技師ヲシテ踏査セシメタリ

其他「ウラジミロフカ」邑附近ノ「ブリージネエ」村ヨリ「トロイツエ」、「オズネセンスコエ」、「ブラゴウエシチエンスコエ」、「ペトロパウロフスコエ」、第一第二「ワスクレセンスコエ」等ノ諸村ヲ経テ「ルウタカ」村ト聯絡セシメタルモノ又「ガルキノウラスコエ」邑ヨリ「ポクロフスコエ」、「ナデヂジンスコエ」、「オレーホオ」、「アトラアドエ」、「カザンスコエ」、「ロマノフスコエ」、「ニコラエフスコエ」、「ズナアメンカ」、「クラスノレーチエンスコエ」ノ諸村ヲ連絡シタルモノ、如キハ時季ニ據リ漸ク車馬ヲ通スルコトヲ得而シテ東海岸「オブツ」ヨリ以北「ナヨロ」ニ出ル交通ノ如キハ「コルサコフ」ヨリ「アレクサンドロフスキー」ニ通セシ電信線ノ為メ森林ヲ伐開シタル一條ノ徑ニ止マルモノナレバ道路ト名称シ下レ難シ車ハ到底通セズ雑草発生セザルトキハ乗馬旅行ハ能ハス其他ノ方面ハ海岸汀ヲ辿リ或ハ舟ニテ渡リ交通ヲ持スルノミ

新設道路

「コルサコフ」「モルゲ」湾間道路

シテ約三十里占領ノ我軍隊ニテ開設シタルモノナリ「モルゲ」湾ノ「トロ」湾（樺太ノ南端一ニ蘇岬ト称ス）ヨリ「アニワ」湾内ニ沿ヒ北方約五十里ノ処ニアリ「ケイレー」岬ニ見弟岩ノ控ヘ多少湾曲ヲ為シ船舶ノ碇泊ニ適スト云フ如何ナル必要アリテ此道路開設ヲ見タカト云フニ樺太冬期

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

沿海結氷スルニ據リ同島ニ於テハ我守備ミシテ一朝露軍大部隊ヲ以テ押シ来ルコトアラシカ全滅ノ外ナシ露軍ニ取リ結氷ハ韃靼海峡ヲ渡リ来ルノ便アルモ我ニ取リテハ頗ル不利ナリ是非トモ冬期ノ聯絡ヲ講セサルベカラズトキニ於テカ大禮丸ト称スル砕氷船ヲ注文シ同船ヲシテ「コルサコフ」ト内地ノ交通ヲ持續セシメン計劃ヲ立テタルナリ而シテ同船カアニワ湾結氷ノ程度如何ニ據リコルサコフニ内薄投錨スルヲ得サルトキハ海軍ノ報告ニ據ル宗谷海峡ハ冬期ニ結セサルトシテハ迫テ「モルダ」湾ニ碇泊シ夫ヨリ沿岸道路ニ據リ信書及人員丈ノ交通ナリトモ保ツコトヲ企テテ工兵隊ヲ驅リ無理ニモ道路ヲ伐開シ「ルタカ」「ビブナイ」「ペストル」「トイクシ」「ライトマ」等或ハ距離ノ内隔ヲ保チ驛傳ヲ置ケリ之ニ兵四五名ト饌食ヲ配置シ交通者ノ宿泊若クハ保護ノ任務ニ当ラシメタル右ハ構和前ニ於ケル最ニ適当ナル計劃タランカ而シテ不幸ニ十月竣成シ驛傳的家屋ハ十月落成ヲ告ケ然レトモ其工程ハ速成的ニ多ク海山斧ノ

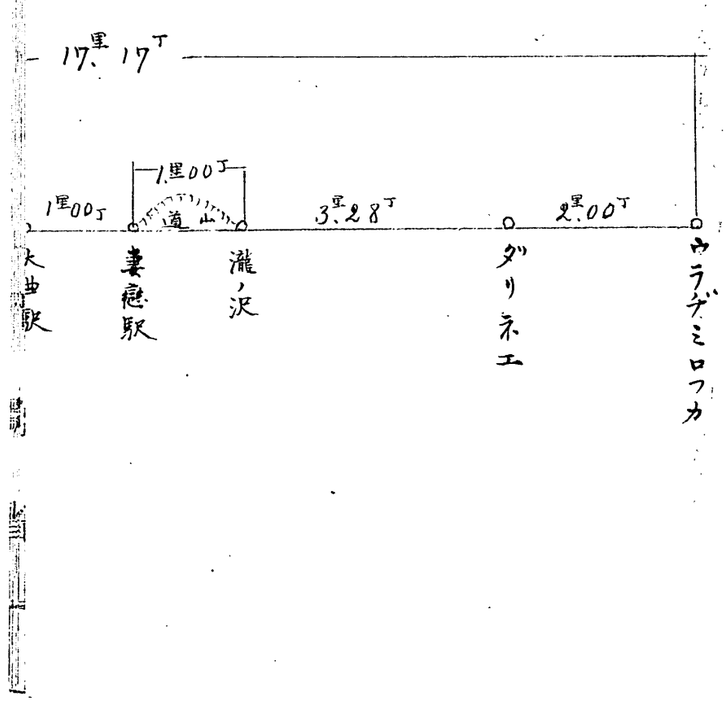
汀ヲ利用シ伐開シタルモノナレバ晩秋數回ノ時化ニ忽チ破壊シ殆ンド共用ヲ為サザルニ至リ両冬季積雪ヲ踏ミ両驛間ノ交通ヲ容易ナラシメンコト到底不可能ナルコトヲ見認ヘト同時ニ一面百難ヲ排シテモ「コルサコフ」ニ碎氷船ヲ是非入レルコトニシタレバ右ノ工程ヲ全ク無用ニ長物ニ帰シ道ニ駐屯兵ヲ撤去スルコトヽ為シ

「ダリネエ」「マウカ」間道路　此道路ハ山間ニ在リ「ダリネエ」ハ将来民政本廳ノ豫定地「ウラジミロフカ」市街ヲ距ル西ヘ約二里ニ在ル一村落ニシテ露軍最終ノ退却且投降地トシテ殊ニ密林戰ヲ以テ著名ト為ル而シテ「アウカ」ハ西海岸ニ在リ支那ノ所在地ニシテ将来多望ノ市街ナリ然ルニ「コルサコフ」ト西海岸トノ交通ハ従来頗ル曖昧ニ放任シアリ今假ニ「ダリネエ」ニ去「マウカ」ニ赴カントスレバ四途ニ依ラザルベカラズ(一)「ハトロ」岬ヲ回シテ陸路露宿ヲ重ネ歩行スルカ(二)海路約百二十海里船舶便ニ頼ルカ(三)「ルタカ」河ヲ溯リ夫ヨリ南北ニ連亘セル山脈ヲ攀登シ越ルカ(四)樺太

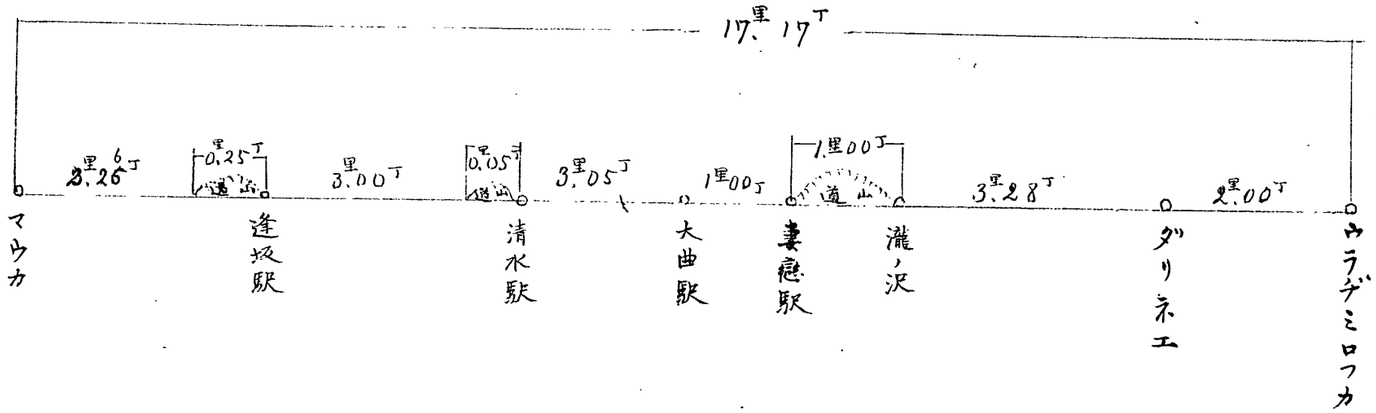
ノ最モ幅員狹キ処「マヌエ」(東海岸)「ノンユンナイ」(西海岸)間約八里余人跡絶無ノ森林ヲ跋渉スルカニ在リ汽船便ノ外ハ何レモ交通至難而シテ其汽船便ト云ヘバ是又定期便船アルニアラズ要スルニ西海岸トノ交通ハ最モ不便ナル状態ニ在リ故露領時代ニ屢々問題起リ遂ニ一着「マヌエ」「クレコンナイ」間ニ道路ヲ開設セントスルニ決シ明治三十五年ヨリ徒刑人ノ手ヲ以テ其土工ヲ起セリ今半途ニシテ中止セルモノ是ヨリ早晩該道路開設工事ヲ継続シ完成セシムル必要アルヲ認ムルニ至レリ最モ關係ノ多キ「ウカ」ト短距離ノ聯絡ヲ取ル一日モ猶豫スベキ間題ニアラズ是ニハ「グリネエ」ヨリ開鑿セル直経約我十里ニシテ頗ル容易ナリトス余ノ曾テ露国地方官ヨリ聞知セル所ナレバ余ハ「グリネエ」「マウカ」間道路開設ノ建議ヲ為シタレバ開戦中露兵ノ該徑ニ依リ往復シタル等各方面ノ報告ヲ参照シ幸ニ司令官并ニ民政長官ヲシテ容レ断然該道路開設ニ決定セリ此ニ於テ我測量隊ヲ編成シ之ヲ二部ニ分チ東西即チ「グリネエ」ト「マウカ」ヨリ荒蕪ノ地ヲ伐開測量セシムルコトヽセリ十月九日測量技手池上純一郎及川口清治ヲシテ人夫ヲ率ヒ「マウカ」方面ニ向ハシメ續テ十六日工学士開山良助監督ヲ兼ネ測量技手阿部八之進ト共ニ人夫ヲ率ヒ「グリネエ」ヨリ進マシム工事ノ大要ハ幅四間トシ森林ヲ伐開シ鹿柱ヲ埋メ橋梁ヲ架スルニ在リテ十月十四日ヨリ愈々其工事ニ着手セリ荒井初一ナル者其人夫供給等ヲ請負ヒ工事ノ資料及糧食輸送ヲ各スレバ使役シタル人夫ハ毎日二百余人降雪數回ニ及ヒ工事ハ不測ノ障礙ヲ受ケタルニ拘ラズ至難ヲ排シ行程ヲ督勵シタルヲ以テ十一月廿日ニハ両測量隊聯絡シ茲ニ道路開設ノ目的ヲ達シ「マウカ」隊ハ十一月廿日「グリネエ」隊ハ十二月七日「コルサコフ」ニ引揚ケ竣成ヲ復命セリ該道路ノ距離ハ「グリネエ」ヨリ瀧ノ沢ニ至ル三里二十八町瀧ノ沢妻恋駅一里妻恋駅大曲駅一里大曲駅清水駅三里五町清水駅逢坂駅三里五町逢坂駅「マウカ」三里十五町合計「グリネエ」ヨリ「マウカ」ニ至ル十五里十七町ア

5-0398
0112
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

リ豫期直経里數ヨリ実際多カリシコト約五里ナリキ降雪時期ノ日前ニ控ヘ着手セシコトナレバ完全ナルモノヲ開設シ難ク又之ヲ望ミタルニアラズ大体ノ目的ハ森林ヲ伐開シ交通ヲ自由ナラシムルニ在リ蓋シ今道路ノ端緒ヲ開キ置カハ今后峻坂ヲ開鑿シ平坦ナル道トナス容易ノ業ナレバナリ途中峻坂三ヶ処アリ車馬ヲ通セズト雖モ歩行ハ自由ニシテ電柱ニ沿ヒ行カハ道ニ迷フ虞ナク途中駅傳ニ泊セハ相違スルヲ得ベシ該路伐開后浅道路ニ依リ往復シタル者數ナカラズ現ニ碎氷船大礼丸結氷ノ為メ「アニワ」湾ニ入ルヲ得ズ「アウカ」ニ入港シタル際ノ如キ郵便物ハ該道路ヲ経テ「コルサコフ」ニ送達セリ加之ナラズ電線ヲ架設シ「アウカ」トノ通信ヲ開始シタルハ戦后ノ作業トシテハ多大ノ成効ト云ハサルベカラス尤モ最モ賭易キ眼目ヲ掲ケテ解ト便ナラシム



5-0398
0113
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/



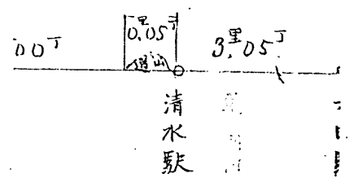
5-0398

0114

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

驛傳

現下樺太ニ驛傳二線アリ一ハ大泊ヲ基点トシ「ミツリヨフカ」、「ホムトフカ」ヲ経テ「ウラジミロフカ」ニ出テ先ヨリ右折シテ「ノオブ」キサンドロフスコエ、「ペレズニヤキー」、「クレストイ」、「バリシヨエタコエ」、「ガルキノウラスコエ」、「ドブキー」、「ナイブウ」ニ至ル他ハ一ハ同シク大泊ヲ基点トシ「ミツリヨフカ」、「ホムトフカ」ヲ経テ「ウラジミロフカ」ニ出テ先ヨリ左折シテ「グリネエ」、瀧ノ沢、妻恋駅、大曲駅、清水駅、逢坂駅「マウカ」ニ至ルモノ是ナリ大泊ヨリ「ウラジミロフカ」ニ至ル幹線道路ハ交通頻繁ナルヲ以テ特ニ二線ヲ設ケレリ前者ハ中村金兵衛氏者ハ呉澄良一其特許ヲ受ケ馬車若クハ馬橇ヲ往復セシメ（「グリネエ」、「マウカ」間ハ除外例トス）一面前記ノ各駅ニ旅舎ヲ設ケ旅客宿泊ノ便利ヲ計ラレム輸送賃金、宿泊料並ニ道案内人夫賃ノ如キ民政署ノ認可ヲ経タル一定ノ額アリ創業ノ際ト云ヒ又一ハ冬期内地ヨリ旅客開蒲團ノ如キ必要具ヲ取寄スコト能ハサリシヲ以テ中ニハ駅傳



5-0398
0115
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

ト称スルノミテ其実ハ名ノミナル処モアレド本年已降ハ命令ノ条件ヲ
守ルベシ大泊ヨリ「ウラジミロフカ」ハ往復旅客多ク通テ収入モアリ収支相
償フベキヨリ補助セサルコトヽセリ又前者「ナイフウ」間ハ既成道路ナキ是
亦補助ヲ與ヘス駅傳ニ充ル家屋等ヲ無償ニテ貸與セラルヽ之ニ反シ
「ダリネエ」「マウカ」間ハ新開道路ニシテ全ク家屋ナク比較的往復ノ旅客モ
尠ク冬期ハ各駅間毎日人夫ヲ出シ除雪ヲ踏ミ通路ヲ保存スル必要
アルニヨリ常役人夫ノ手当等補助スル外一回限リ家屋ノ新設ト或ル
家屋ノ改修費ヲ支出セリ而シテ后者ハ補助ヲ要スル代リ左ノ條件アリ
之ヲ格守セサルベカラサルニヨリ一層設備上ニ注意ヲ拂ヘリ民政署ヲ撫
定負ヲ派遣シ駅傳ノ調査セシメ復命ニ依レハ完全ト云フニアサルト
モ概シテ条件通リハ設備シアリト云フ旅客カ冬期第一自己ノ糧食
ヲ携帯セス又暖炉アル旅舎ニ宿泊シ得ヘキハ全ク駅傳ノ為メナリト
云フヘシ

尚ホ他ニ一線アリ大泊ヲ基点トシテ「サアウイナパーダ」「ベールイカアメニ」「チビサニ」
「アラクリ」ニ至ルモノ是ナリ該駅傳ハ「アニワ」湾ニ沿ヒ「コルサコフ」ヨリ東方ニ至ルモノ
ニシテ前記二線ハ如ク交通頻繁ナラス
今日マデハ必要ハ「アラクリ」ニ守備隊ヲ駐屯シ全處ニ木工場アルカ
為メナリレモ守備隊ト既ニ撤去シタレハ今ヤ木工場ハ往復ニ便利ノ
地ニアルノミ現時ノ特許者尚ホ之ヲ持續スルヤ疑ナキ能ハス況ンヤ
本線路ハ駅傳ノ補助ナキニ於テオヤ

沿岸航海

昨年民政署ハ水産ノ調査ト海豹島ノ海獣保護其他
ノ為メ礼文丸外一隻ヲ雇ヒ其目的ニ使用シ又筑紫丸ト美国
丸ヲ雇上ケ前者ハ建築材料其他臨時ノ運搬后者ハアニワ湾
内ノ曳船又ハ「ウタカ」トノ交通機関ニ向ケ沿岸航海ハ御用船
カ臨時ニ回航セシメラルヽニ過ギス内地ノ定期船ハ郵船會社

0116
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

リ田子ノ浦丸ヲ以テ樽経由函館間ノ航海ヲ開始シ以テ新領土ヘ往復ノ旅客及ビ物資ノ運搬ニ供セラレタリ

本年樺太ノ沿岸航海如何ト云フニ民政署ハ水産調査ヲ一層擴張スルト海豹島ヲ巡航ノ用途ニ向テ元晴丸、第四平安丸、神力丸ヲ雇ヒ之ヲ以テ尚ホ塩田回漕店ハ所有流船護衛丸ヲ以テアニワ湾沿岸回航ノ為スコトナリ民政署ハ之ニ月三百円ノ補助ヲ與ヘ一ケ月ニ三回アニワ湾ノ沿岸ヲ回航シ二回ハウタカ航ヲ為ス筈又小樽ノ西谷田漕店ハ民政署ヨリ一ケ月四百五十円ノ補助金ヲ得コルサコフヲ基点トシテ東海岸「トシナイヤ」西海岸ハ「マウカ」迄ノ定期航海ヲ開始シタルガ本年ヨリ沿岸各処トノ交通不便ノ苦情ハ排除セラルベシ

本年郵船會社ハ内地トノ交通ニ釧路丸(四〇七十六噸)ト高松丸(四三百五十噸)ノ両ヲ以テ補助金貳万五千円ヲ得テ一ケ月ニ五回コルサコフ函館間ノ航海ス其寄港地ハ江差、釣掛、壽都、岩内及小樽トス

尚ホ其他ニ日本海倉令航路アリ大家汽船會社ハ之ニ宮島丸ト交通丸ヲ使用シ月ニ一回コルサコフニ寄港ス該航路ハ浦潮斯德ト韓国城津、元山、釜山トヲ連絡ス

漁業用ノ船舶ハ樺太各沿岸ニ往復スル其數尠ナカラスト雖モ是等ハ直接我内地重ニ函館五十樽ヲ漁具ノ輸送若クハ海産物積取ヲ為スモノニシテコルサコフニ寄港スル結果ハ之ヲ利用スル所ノト無カルベシ

衛生

病院

樺太ハ其位置極北ニ偏在シ気温寒冷ナルニ拘ラス健康地タルコトハ昔ヨリ人ノ認ル所ナリ蓋シ四季気候ノ一定セルニ由ルナラン只五六月ノ雨勝ナルト十、十一月ノ風多キハ何人モ不愉快ヲ感ズレド是モ毎年ニ遍一律ナルニヨリ自然著シク之ヲ感ゼザルニ至ル而シテ其他ノ月ハ気候激変ナル且ツ空気ノ乾燥ト濕潤ノ関係他ノ同緯度ニ比シ大ニ勝レ所

5-0398
0117
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

アリ殊ニ夏季ノ如キハ避暑地ニ適切ナル多ク他ニ其比ヲ見サルベシ現ニ去冬ノ如キ渡航者ハ不完全ナル宗旨ニ汚寒ヲ凌ギタルト老カ為メ特ニ健康ヲ害シタリト云フ者アリ民政署ハ夙ニ汚物掃除規則等ヲ出シ又公共便所ヲ設置シ一般不潔ヲ監視シ且ツ飲料水ニモ特ニ注意ヲ拂ヒ以テ衛生ノ普及ヲ期セルコトモ之ニ與テ力アリト云フベシ

コハサフフ：南部病院ト称スル民政署ノ建設ニ係ル病院アリ尾中医学士其医長タリ樟太ニ如何ナル病気其多キヲ占ムヤ同病院ノ報告患者病類別表ヲ左ニ掲ケテ以テ一斑ヲ窺フニ資ス従来樟太ニ壊血病、脚気、凍傷最モ多シト唱ヘタルモ右ノ表ニ依レバ該病ハ比較的寡ナキニ及シ最モ多キハ花柳病、消化器病、呼吸器病ナリ識ルベシ又樟太ハ未タ戦時ノ状態ニ在ルヲ以テ藝妓酌婦等ノ健康診断ヲ為ス其成績如何ハ左ニ掲ル成績表ニ就キ見ルベシ

「ウラジヽロフカ」及「マウカ」ニ分院アリ公衆診断ノ需メニ應ス前者ハ診療院ト称シ後者ハ医務課ト称セリ

明治三十八年九月乃至十二月患者病類別統計表

月	男女別	食病	神経系病	循環器病	消化器病	泌尿生殖器病	花柳病	眼病	耳病	外傷	運動器病	外傷性病	伝染性病	呼吸器病	計	合計
九月	男	二	七	四	四	二	四	七	二	二		二	一	二	一四六	一五〇
	女		一		一									三	四	
十月	男	九	六		二	一〇	二〇	二二	三	二		二五		二	一四〇	二〇七
	女														九	
十一月	男	五	一		九	四	一〇	一〇	一	六		一九		三	九七	一五四
	女	三	二		三		二	二		三		二		四	五七	
十二月	男	一	二		二五	三	三	一〇	一	八		八	一七	一二	七八	一八七
	女	二	四		一四		一一	四三		九		一八			一〇九	
総計		三二	二三	四	一二〇	五三	一二二	四〇	七	七〇	一	七七	一	一二	六六二	六六一

藝娼妓其他一般婦女健康診断成績表 明治三十八年十月廿一日調

健康診断ヲ為シタル人員	同上月別人員	延人員	健康人員	有病者 非伝染性	有病者 伝染性	有病者 内上ノ内入院ノ命シタル人員	有病者 内上ノ内通院ノ命シタル人員
十月	五〇	五五	三九	一六	、	二	一四

5-0398
0118
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

一五五	十月	九二	二二六	一七六	五〇	、	七	四三
	十一月	九九	三二五	二二三	一〇二	、	八	九四
計		二四一	六〇六	四三八	一六八	、	一七	一五一

第十臨時観測所

樺太ノ如キ極北ノ土地ヲ開拓スルニ先ケ其地方ノ気象ヲ知リ播種穀類ノ成熟ニ注意ヲ要スルノ緊急ハ今更喋々スルヲ俟タス又観測所ヲ置キ各地ノ観測所ト連絡ヲ通シ天候ノ変動若シ低気圧ニ方向ヲ亘報シ警戒ヲ加ヘシムハ是亦最モ必要トスル所ナレハ其筋ニ於テハ既ニ見ル所アリ樺太ニ民政ヲ布クヤ先ツ視察員ヲ特派シ而シテ中央気象台出張第十臨時観測所ヲ置ケリ今観測所ニコルサコフ練兵場ノ高地ニ在リテ元ト露領時代ノ測候所ト隣ラス十月已来気象ノ観測ニ着手シ日々ノ成績ヲ一般ニ公示スルノミナラス本年五月ヨリ入港船舶ニ対シ一定ノ場所ニ警戒信号ヲ掲ケ内地各港ニ於ケルト一般ナル便利ヲ與ヘコルサコフノ気温ハ海岸ニアルヲ以テ高ク之ニ反シ「ウラジミロフカ」ハ僅ニ九里余ヲ距ルト雖モ内部太ケニ低シ今両地ノ平均一斑ヲ示セハ

コルサコフ　　ウラジミロフカ

十二月	攝氏氷点下 六度六	仝 十度四
一月	仝 十一度二	仝 十四度八
二月	仝 十一度三	仝 十五度六
三月	仝 五度二	仝 八度二

其他気圧、風、湿度、降水、天気等ノ詳細ハ十二月ヨリ三月ニ亘リ同観測所ノ気象概況ヲ別冊添付スレハ之ニ就キ見ルヘシ

燈台

コルサコフ市街ヨリ北西高地ニ燈竿ヲ建設シ航海者ノ便ヲ謀ル四月十日ヨリ點火セリ燈竿基礎ハ海面ヨリ高サ百八十四尺基礎ヨリ燈火マテ十八尺光色ハ不動白色ニシテ光達距離ハ晴天ノ夜八海里ヲ位

5-0398
0119
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

置ハ開戦ヲ轉マテ露国ヲ建設セル日燈台跡ヨリ日露国交断絶ス
ルヤ点火ヲ中止シ次ヲ皇軍上陸後市街ニ放火退却スルヤ是モ同時焼
キ拂ヒ空シク徒来ニ出入スル船舶ハ該燈台ニ頼リ投錨地ヲ定メ
最モ便利ヲ享ケ来リタルモノニシテ一朝此燈台ヲ失シ一層不便ヲ感スル
ヨリ余ハ切ニ此再興ノ必要ヲ建議シ愈急速建設スルコトニ決定シ
十月一日ヨリ豫算中ニフルサコフ仮燈台建設費二千円ト定メタル即チ
是ヨリ而シテ如何ナル燈台ヲ建設スベキカ問題ニシテ兎角樺太附近ノ
燈台ヲ視察シ民政署ノ方針ヲ定ムルヲ適当ナリシ就テハ利尻
島鴛泊ニ於ケル燈台ヲ視察セシメント昨年十月中阿部事務嘱託
ヲ同地ニ特派シ調査セシメタル處同地ノ燈台ハ規模コソ小ニシテ階級ヨリ
低ケレド精完全ニシテ樺太ノ仮燈台ハ之ニ準スルノ不適当ナルヲ認メ寧
ロ燈竿ノ外ナシト結局根室ニ於ケル如キ燈竿ヲ仮設セントコトニ決定シ
一面ニハ横濱航路標識管理所ニ照會シ燈竿及附属品一切

ヲ注文シ又一面ニハ燈ヲ掲ケル柱木及燈台ノ番人小屋建設ニ着手セリ然ルニ
燈竿ノ送達ニ時日ヲ要シ随テ其建設時期完ニ厳冬ニ際シタルガ工
事ヲ起ス能ハス已ムヲ得ス本年寒気減退ヲ待テ起工シ三月竣成
セリ四月三日点火ノ試験ヲ行ヒタルモ然果頗ル良好ナルカ故十日ヨリ正式
ニ点火スルコトトシ之ヲ通信省ニ通牒セリ本年解氷後コルサコフニ出入セル
船舶ハ悉ク此燈竿ヲ為ス目標トシ投錨地ヲ知ル便利ヲ享有セリ

金融機関

樺太ニ於ケル唯一ノ金融機関ハ北海道拓殖銀行ノ出張所是ヨリ同
出張所ト守備隊経理部ノ金庫ヲ傍ラ人民ノ為替ヲ取扱フ同
銀行ハ無論無利子ニ勝ルモノ無キ其規定ハ頗ル狭隘ナル制限アリテ一般
人民ニハ満足ヲ與ヘ能ハス今重ナル不便ノ個条ヲ挙クレバ第一五十円以下ノ
為替ヲ取扱ハズ現ニ鰹札漁業者ノ如キ野戦郵便局ハ小為替ノ拂
出ヲ為サズ同銀行ハ叙上ノ如キヲ以テ以下ハ納税ニ為替ノ金ナキニ居ル

5-0398
0120
アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/

り第二同銀行ハ内地各府縣ニ出張所ヲ有スル寡ノ加フルニ取引ヲ有スル銀行甚ダ少數ナルヲ以テ今假リニ内地ヨリ樺太ニ為替ヲ取組マシニハ豫想外ノ手數ヲ要スルコト第三普通預金ヲ取扱ハサルコト等トス斯ル状態ノ下ニ商業ノ発達ヲ計ラレドスルハ絶對ニ不可能ナリ可成速ニ他ニ金融機関ヲ増設シ一般人民ノ便宜ヲ計ルハ最モ急務ニ属スルナリ

海豹島臘脚獸保護

海豹島（生ビリロフ島）ハ樺太ノ東海岸「デルペニエ」湾岬ヨリ西南約十二海里ニ在リ同島ノ長サ約四町幅一町ニシテ極テ一小嶼ナレドモ頗ル著名ナル所以ハ同島ニ臘脚獸ノ棲息所アルカ為メナリ而シテ該棲息所ノ発見ハ何年ニ係ルカ知ルベカラサルモ旧史ニ徴セハ嘉永五年頃密猟者同島ニ上陸シ多數ノ臘脚獸ヲ撲殺シ殆ント減絶ニ帰セシメタリトアリ爾来再ヒ該獸蕃殖群集シタレハ密猟者来テ之ヲ奪掠シツヽアリシカ漸ク今日ニ至リ（明治十八年）ヨリ露国ハ該獸保護ノ必要ヲ認メ西比利艦隊ノ内ヨリ水兵二十名ト将校一二名ヲ同島ニ駐在セシムルコトヽシ現ニ南戰迄毎年保護シ来リ明治二十三年マテハ米国「グツケンソン、コーリ、ヒリウペウス」會社露政府ヨリ特許ヲ受ケ納総ノ上一面ニ蕃殖ヲ計リウ、牡獸ヲ撲殺シ来リタル処特許期満限ト為ル其翌年ヨリ露政府ハ外国ノ會社ヲ排斥シ露国ノ「グリンワルド、サアウヤ、ポロドホロフ」等ノ組織セル露国臘脚獸猟業會社ニ之ヲ組借セシム其特許期終了后即チ明治三十四年ヨリ向フ十ヶ年間ハ競爭入札ノ結果東寧加商工業會社ニ許可セラルヽコトヽナリ現時ハ同會社ノ特許期限内ナリ日露開戰中ハ其猟業ヲ中止セシカ媾和條約ノ結果同島ハ我版図ニ属シ又方ハ開戰中保護者ナカリシ為メ密猟者捕獲ヲ逋フシ殆ント絶滅ニ至ラントスル同會社ハ今ヤ政府ニ何等追認ヲ請ヒ中ニハ南カス現ニ一般ノ問題ト為レルデンビー、セメノフ等長期組借ノ鴻業ニ同一ナレバ是モ亦タ早晩問題ト為ルベシ而シテ同島ハ我領土ト為リシ已来密猟者ニ對スル保護ハ民政署ヨ

仮編入ニトナス昨年ハ同島ニ常住守備ヲ置カス巡査駐箚ト偶ム民政署産船禮文丸ヲ貴ル警備ヲ為セシ岸上理学博士ノ巡回セシ際幸ニ又臘脚獸群来シ海陸ノ獸約三千頭ニアランカト云ヘリ今二三年ニ捕獲セス保護ヲ加ヘンハ異日ハ如何ナル番殖スヘシ

本年ハ保護ノ為ト憲兵ハ同島ニ駐在セシムルコトヽシ特務曹長ノ其長ヒシ憲兵十名民政署技手一名其他傭夫総員二十名ヲ五月中北海警備艦武蔵ニテ送遣セラル全島ニ駐在ノ困難ハ飲料水ノ絶無アルニヨリ依テハ樽ニ准ス備シ搭載セシモ足候ハ為ノ補充ハ能ハス若シ欠乏ヲ告ルトキハ川岸寄船ニテ対岸ヨリ運搬セシメント同船一隻ト水手四五名（前記二十名ノ内）ヲ専傭セシメ充シ

参考ハ為ト山岸上博士ノ復命書別冊添付ス

5-0398

0122

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Redords
http://www.jacar.go.jp/